

令和5年度 年次報告書

目 次

I. 子ども学科	1 ～ 4
II-(1). キャリア育成学科オフィスワークコース	5 ～ 8
II-(2). キャリア育成学科介護福祉コース	9 ～ 12
III. 仏教教育研究センター	13 ～ 17
IV. 育児文化研究センター	18 ～ 26
V. キャリア研究センター	27 ～ 31
VI. 介護福祉研究センター	32 ～ 34
VII. 自己点検・評価委員会	35 ～ 41
VIII. 学務委員会	42 ～ 46
IX. 入試広報委員会	47 ～ 64
X. キャリア支援委員会	65 ～ 71
X I. 図書委員会	72 ～ 102
X II. 学生支援委員会	103 ～ 104
X III. 仏教行事委員会	105 ～ 107

XIV. ネットワーク委員会	108 ～110
XV. 外国人留学生支援委員会	111 ～114
XVI. 研究倫理委員会	115 ～119
XVII. ボランティア活動支援室運営委員会	120 ～123
XVIII. 事務局	124 ～133



子ども学科

年次報告書

学科長 福西 朋子

I 昨年までの課題

令和4年度子ども学科年次報告にて挙げた課題は以下である。

1. 子ども学科中長期計画の遂行（継続）

目標に基づくプランの検討・計画と遂行できる体制づくりであった。取組みが計画的、意識的に遂行できる体制づくり、目標に対するプランを前年度の課題等を踏まえ検討し効果ある取組みを行うこととした。

2. 学生募集のための方策（継続）

保育の魅力・保育者のやりがいの発信と受験対象を広げるための方策を検討することであった。保育者志望を増やす、受験対象者を広げる、との視点での方策が必要であるとし、いかに保育の魅力、保育職のやりがいの発信をするか、受験対象として社会人学生を見据え、ニーズに応じた受入れ体制の整備などを検討する必要があるとした。また令和5年度生から委託訓練生の受け入れを始めるため委託条件が種々あるなかでの指導・支援について随時、教員間でも共有し、今後のさらなる受入れの可能性を考えることとした。

3. 学生指導や支援に関すること（継続）

学生支援委員会との連携による学生支援の充実することを挙げた。最近の傾向としては、発達支援、学習支援の必要性とそれに伴う進路選択にかかわる支援、入学前の進路選択と入学後のミスマッチによる学習意欲低下学生への対応が比較的多いとし関連部署と連携しながら支援ケースを積み重ねることが必要であるとした。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行により学生生活が変化することを踏まえ、そのことによる学生の心身の影響を注視する必要があるとした。

4. 学科教員募集

令和5年度採用予定であった専任教員確保による令和6年度採用の教員募集。

II 本年度（令和5年度）改善されたこと

Iに挙げた課題に対する改善

1. 子ども学科中長期計画の遂行

「1教育」においては、改定した「夢と笑いの学びの図」を令和5年度生入学時に学生に提示し、学科の教育目的や目標に基づくカリキュラム実施であること、各期の学修とキャリアの目標、各科目群の学修イメージについて説明、意識付けを行った。「特色ある保育養成教育の構築」の令和5年度到達目標は達成できた。各担当教員中心に授業計画とともに具体的な実施方法について検討した。加えて学科協議会（3月）において、「子ども学科ディプロマポリシー・ルーブリック」分析結果を共有し、本学科学修成果の現状認識と、今後のDP内容改定に関する協議等をおこなった。

「2研究」においては、学科FD研修として外部資金獲得セミナーを実施し、学科教員共通テーマによる研究活動の意識付けを行った。

「3社会連携・社会貢献」で掲げた卒業生との学び合いの機会の促進を目標とした取組みについて、目的と実施対象、取組み主体について協議し、令和7年度実施を決定、令和6年度に具体的な取り組み内容について検討する。

「4その他」として、教員の業務見直し・改善を目標と掲げた。令和5年度も昨年に引き

続き学科共有フォルダに課題提案シートをアップし随時書き込みできる体制づくりと年度末の協議会で議題に挙げて意見を交わす機会を創出した。

2. 学生募集のための方策

保育の魅力発信方策としてはオープンキャンパス内容を入試広報課と連携した内容を検討し実施した。受験対象を広げる方策は特にとらなかったが、令和5年度入学の委託訓練生3名は意欲ある学生であったことから訓練生受入れ増による学生確保も視野に入れることができた。

昨年に引き続き、授業の様子を発信を学科教員として発信できる材料（写真や動画）の提供を入試広報課に行った。

3. 学生指導や支援に関すること

令和5年度は学生支援に関わる体制づくり等に力点が置かれたり、全学FD研修として学生支援をテーマに実施されたりと組織的、意識的に変化があった。学生の支援には専門的知見等が必要であること、学科が支援主体であるが然るべき部署、人員と連携して行うものであることを認識するとともに、免許・資格取得に係る実習とそれに連動する進路選択に関わる支援ケースの積み重ねが必要であることも改めて認識できた。

また、卒業、免許資格取得のための個別的な指導・支援を要する学生が昨年に引き続き一定数存在する。学生自身の自律した態度を尊重しつつ、適宜、関わる必要があった。近年は、学力の低い学生も散見され学習支援も必要であることが窺える。

4. 学科教員募集

令和6年度は新規に3名の教員を迎える。「保育内容総論」「実習」などを担当する教員の採用活動にはじまり、年度後半に教育学と心理学の教員退職予定が判明してから、随時採用活動を行うに至った。年齢層としては、以前から希望であった30代～40代が増えることとなった。

III 新たな課題

少子化、大学全入の現況に加え、近年では全国的な保育志望生徒の減少が窺える時代である。一方、保育の重要性に伴う保育者の質も問われ保育者養成教育の4年制がより望まれている。しかしながら、三重県内の保育者不足は喫緊の課題である。本学科を取り巻くこのような現状下、2年制の保育者養成校として、地域に根差した教育活動を今後どのように行っていくのか、さらに考えていかなければならない。

学生募集においては受験生に選ばれるために、どこにアプローチをすればよいのか、一方、志願者は全入することを前提に「卒業」と「免許・資格」取得において学科DPを踏まえながら、どのような教育内容・方法で質を担保していくのか、量と質をいかにバランスをとっていくのか、改めて共通に認識し学科運営、教育活動を行っていかなければならない。令和6年度は新任教員3名が加わることもあり新たな体制のもと新たな視点をもってこれら課題に取り組みたい。

4. 次年度（令和6年度）取り組むべきこと

① 子ども学科中長期計画の遂行（継続）

目標に基づくプランの検討・計画と遂行できる体制づくりと実施。

- ② 学生募集のための方策（継続）
 - ・受験生に選ばれるための学科教育活動等の掘起こしと見直し
 - ・受験対象を広げるための方策の検討
- ③ 学生指導や支援に関すること（継続）
 - ・学生支援委員会との連携による学生支援の充実。
 - ・実習の実施や免許・資格取得の有無を見定めた指導・支援の積み重ね。
- ④ 学科運営体制の構築
各教員の職位に応じた主体的且つ協働した学科運営体制づくり。

Ⅱ-(1)

キャリア育成学科 オフィスワークコース

年次報告書

学科長兼コース長 野呂 健一

I 昨年度からの課題

(1) 新カリキュラムの着実な遂行

今年度改訂したカリキュラムを着実に遂行するとともに、新カリキュラムの概要やねらい等を改めて周知する。

(2) 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

企業や医療機関等の事務職として求められるスキルを高めるため、各種検定の受験者、合格者を増やす。

(3) 就職活動への意識向上

入学当初から就職活動に対する意識を高める。特に、前向きになれない学生についてきめ細かな支援を継続する。

(4) コース教員の研究力向上

研究活動推進のため教員間の協力体制を整備する。

(5) 授業と連動した地域貢献の推進

地域貢献を行う授業科目についてコース教員全員で支援する体制を築く。

II 本年度改善されたこと

(1) 入学者数確保

キャリア育成学科で 100 名以上の入学者確保に向け、学科の特色の積極的な発信やオープンキャンパスの工夫を行った結果、オフィスワークコースで 68 名、介護福祉コースで 40 名の入学者を見込んでいる。

具体的に行った取り組みは以下のとおりである。

①広報活動で PR してもらいたい「オフィスワークコースの強み」を再確認し、主なアピールポイント 4 点をまとめた、コース教員及び入試広報課と共有した。

②オープンキャンパス参加者を入学につなげるため、従来の内容に加え、卒業生によるプレゼンテーションや在校生へのインタビューを適宜盛り込んだ。また、参加者へのお礼状を、従来入試広報課職員が記入していたが、今年度はコース教員が書くこととした。

(2) 多様な学生への対応

今年度入学生の中には、発達に特性のある学生やコミュニケーションに問題のある学生が散見されたため、例年行っている個人面談に加え、心配な学生については早めに家庭とコンタクトをとるようにした。

(3) 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

秘書検定、サービス接遇検定、日商簿記検定、医療事務を強化検定として位置づけ、年度当初に検定受験計画を立てさせたのち、ゼミナールや各授業で受験を呼び掛けた。秘書検定、サービス接遇検定とも昨年度より多くの合格者を出した。日商簿記については、今年度より、1 月に団体試験を導入、簿記 3 級の合格者は過去 2 年を上回った。医療事務についても医療事務技能認定試験に 14 名の合格を出した。

(4) 就職活動への意識向上

カリキュラム改訂により就職講座を一層充実させて新科目としてキャリアガイダンスⅡを設け、令和 5 年度入学生はほぼ全員が受講しており、出席率も向上した。キ

キャリアガイダンスⅡで行う業界研究セミナーや個人・集団面接練習の準備を、キャリアガイダンスⅠなど関係する科目と連携して行うようにしレベルアップを図った。また、筆記試験対策となる科目を新設し、半数以上の学生が受講した。合同企業説明会等への参加学生数は例年より多く、就職活動への意識は向上していると考ええる。

2年生については、就職活動に踏み出せない学生についてゼミ担当教員とキャリア支援センターのスタッフがそれぞれ得た学生の状況をAAAに随時書きこむなど情報を共有し、連携してのきめ細かい支援を心がけた。

(5) 授業と連動した地域貢献の推進

地域貢献を担う「チームプロジェクト演習Ⅰ」「地域実践」について、既存の連携協定やコース教員の知見で新任教員をフォローし、現地調査やボランティア活動の拡充を図ることができた。また、受講生一人ひとりが学修成果を発表する報告会を行い、学生の成長過程を共有する機会となった。

Ⅲ 新たな課題

(1) 学科・コースの魅力のより積極的な発信

令和5年度入学生から改訂されたカリキュラムの魅力のより積極的に発信していく。男子学生の増加など、新たな層へのアピールも必要となる。

(2) 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

企業や医療機関等の事務職として求められるスキルを高めることや、対外的なアピールのために、各種検定の受験者、合格者をさらに増やす必要がある。今年度1年生は前年度より合格者が増えたが、3年前の資格取得率と比べるとまだまだ低い状態である。

(3) 就職活動への意識向上

入学当初から就職活動への意識を持たせるとともに、充実させたキャリア育成科目により、意識、知識、スキルを高める。また、前向きになれない学生への支援を継続する。

(4) 地域連携活動の継続

地域連携活動を担ってきたキャリア研究センターが廃止され、その役割をオフィスワークコースで引き継ぐことになった。連携先と協力しながら事業を展開することが求められる。

(5) 多様な学生への対応

課題を抱えた学生が毎年入学してきており、関係機関と連携しながら、きめ細かに対応していく必要がある。

Ⅳ 次年度取り組むべきこと

(1) 学科・コースの魅力のより積極的な発信

入試広報課と連携しながら、公式Webやインスタグラム等で学科・コースのより積極的な発信を行う。また、オープンキャンパスやガイダンスでの伝え方を工夫する。また、オープンキャンパスで、保護者に対しても積極的に教員が働きかける。

(2) 各種検定試験合格者増に向けた取り組み

検定前の対策講座の種類を増やし合格者増を目指す。専任教員が退職し、非常勤講師が担当することになった簿記については、カリキュラム担当として専任教員を当て、資格取得に向けた取り組みを継続する。

(3) 就職活動への意識向上

必修のキャリアデザインⅠだけでなく、キャリアデザインⅡ、キャリアガイダンスⅠ・Ⅱは全員が受講するよう指導する。意欲に欠ける学生や問題を抱えた学生について、キャリア支援センターや学生相談室と連携して支援を行う。

(4) 地域連携活動の継続

各事業にコース教員の担当を割り当て、ゼミナール等で連携活動を着実に遂行する。また、「チームプロジェクト演習」「地域実践」について、多くの学生の履修を呼び掛ける。

(5) 多様な学生への対応

心身に不安を抱えた学生に対しては、学生相談室等と連携しながら対応する。次年度は例年以上に多くの男子学生が入学するほか、ここ数年入学しなかった留学生も 2 名入学するため、ゼミナールの振り分けを工夫する。

Ⅱ-(2)

キャリア育成学科 介護福祉コース

年次報告書

コース長 中川 千代

I. 昨年までの課題

令和5年度入学生は、日本人学生23名、留学生6名、委託訓練生5名であり多様な学生を受け入れ全体の学生数も過去にない多い学生数であった。そのような中、教員1名は育児休暇を取得することが決まっており、長年勤めた教員が非常勤講師となることから新任教員を確保するという課題があった。また、1年間のみの特任講師という前年度との流れがわからない教員がほとんどの3名体制で、ゼミナール運営や介護実習先のスムーズな確保、就職先の支援など新たな課題が山積していた。事務局や各委員会、各部署と情報共有、連絡を密にとり学生に不利益のないように進めていく必要があった。

コロナ禍で介護施設は高齢者が多いことから感染予防のため実習施設確保に困難を極めた。

また、三重県介護福祉士養成施設協議会の加盟校が4校と減り、中央の日本介護福祉士養成施設協会の役員や実行委員も担う必要があり、コース長への負担も大きかった。

留学生が新1年生は6名であったが日本語能力は低く、思った以上に必要な情報が留学生に伝わらず、留学生が少数になることから学習についても環境作りも課題であった。国家試験対策の授業には必須科目でなくても全員受けるように指導し、模擬試験も3回行っているものの国家試験合格者は、非漢字圏からの者は1名のみという厳しい結果であった。

II. 本年度改善されたこと

今年度は、日本人学生の入学者が増えたことによりコース学生全体で留学生が占める割合が35.4%になり授業中の雰囲気も落ち着きがみられグループワークなども活発に意見が交わせるようになった。

今年度は昨年度に引き続き、三重県介護福祉士養成施設協議会が国の地域医療介護総合確保基金事業の一環として、FM三重の生放送での介護福祉士の魅力発信を行ったり、「介護の座談会」事業を行い高校生や保護者、高等学校教員等は元より一般県民に向けて介護福祉士養成校の現状をPRした。事務局入試広報課の活動に加えこれらが日本人学生確保の一助になると考える。

また、介護福祉士資格取得を目指さない方向になった学生も退学することなくオフィスワークコースの科目を絡めてスキルアップを図れるよう履修指導を行い就職につなげることができたことは、本コースおよびキャリア育成学科の汎用性のあるカリキュラム編成にあると思われる。

今年度は育児休暇中の教員がいたものの、新規採用教員に対しきめ細かいコース運営に関する指導・助言を行い、小会議を密に開催して連携を強めたこと、学科長はじめキャリア育成学科全体の協力もあり、新任教員が即戦力として尽力してもらえたことで学生を導くことができコース運営が安定した。

III. 新たな課題

令和6年度は、日本人学生30名、留学生8名、委託訓練生2名となる予定であ

る。定員枠 40 になったのは人間介護福祉学科創設以来、また、介護福祉コースと
なっただけから初めてのことであり、授業運営にあたり特に演習系の科目はいろ
んな意味で時間がかかることや介護実習室の広さからベッドを使った演習などは
学生に窮屈な思いをさせることになるかと予測する。今後、この人数が連続してい
くようであれば近い将来は 4 名で 1 ベッドを使った演習が可能になるような手立
てを考えていかないと技術習得に支障が出ると考えられる（現在ベッド数は 8 ベ
ッドであり 1 ベッドの人数は 5 名、介護実習室の空間は 8 ベッドでもほぼ隙間がな
いくらかの状況である）。特に、「医療的ケア演習」に関しては演習項目が多いこと、
喀痰吸引、胃瘻・経鼻経管栄養等の演習の合格点を出す回数が厚生労働省で基準
が設定されていることから 5 台の人形を使用しても非常に時間的にタイトな状況
が予測される。

また、令和 5 年度 1 年生に関しては学生支援委員会やカウンセリング室との連
携の中、合理的配慮の必要な学生、特別な配慮が必要な学生が多数在籍し、学生
やその家族との面談や指導、支援に非常に時間がかかった。各部署と連携するた
めに記録物や電話・メールでのやりとりが増え、緊急を要すること、早く情報共有
する必要のある案件は授業や委員会等の絡みもあり、時間の確保が困難であつた。
これらの学生は令和 6 年度も引き続き在籍することからもさらに連携を強化してい
く必要がある。

介護実習を効果的に運営していくために学生数が増えることから、必然的に介
護実習施設数も増える。学生指導に週 1 回以上の巡回指導の必要があり、でき
るだけ学生を分散させずに施設数をまとめること、本学から離れた施設は学生の住
所地とも勘案して選択することなど効率よく内容の濃い指導ができる体制を考え
ていく必要に迫られている。これまで以上に協力していただける介護施設との関
係性づくりも必要である。

さらに 4 月より教育経験のない新任教員を迎えることから、コース運営や各委
員会での役割が遂行できるように助言・指導をきめ細かく行っていきたい。また、
コース教員の人数が増えるので情報共有に気をつけ、連携・仕事の役割分担をし
ていく必要がある。

その上、令和 6 年度から 2 年間は三重県介護福祉士養成施設協議会の幹事校と
して本学学長を代表に本コースが担うことになっており、そのスムーズな運営に
も注力していく必要がある。

IV. 次年度取り組むべきこと

安定した学生確保につながるように出前講座や魅力あるオープンキャンパスの
内容づくり、また、何よりも在籍学生の指導・支援に力をいれ、本学介護福祉コ
ースの評判をさらに上げていきたい。

そのためには国家試験合格率のアップを図る必要があり、「留学生向けの国家
試験対策補習講座」をコースの 4 人の教員で手分けして実施していく計画であ
る。希望する日本人にも受講してもらえる講座としたい。

令和 6 年度は公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会が主管の日本介護福祉

教育学会を東海北陸ブロック会が担当で開催される予定でありすでに実行委員会
が立ち上がっている。また、鈴鹿オフィスワーク医療福祉専門学校から本学に三
重県介護福祉士養成施設協議会幹事校が移管されるにあたり令和 5 年度 3 月に引
き継ぎを行うが、今在籍している教員が誰も経験したことのない役割であるため
不安があるものの、協力して運営していきたい。これらの事業は介護福祉士養成
に携わる他の養成校との連携・協働することにより教育の質と学生の量を確保す
るために欠かせない取り組みであると理解しているため尽力していきたい。



仏教教育研究センター

年次報告書

センター長 松山 智道

I. 昨年までの課題

1. 運営委員会について

令和 4 年度の運営委員会はすべて Web 会議で実施され、特に問題が生じていないが、令和 5 年度では、対面の会議に戻る時期、および一部委員による Web 参加の可能性、あるいは昨年度同様にすべて Web 会議で行うかを今後検討しなければならない。

2. 各講座について

(1) 公開講座について

令和 4 年度の公開講座は、二回とも参加者が少なかったため、令和 5 年度は、参加者を増やす工夫が必要である。

(2) 専門講座について

令和 4 年度の専門講座では、コロナ感染予防対策のために Web を活用したが、会場で受講した上でさらに Web 活用で再学習する受講者も少なくなかった。二回ほど撮影機材に問題が生じたため、令和 5 年度の専門講座では、機材の充実も含めさらなる Web の有効活用を考えたい。

(3) 基礎講座について

コロナ感染予防対策を図りながら実施したが、受講者からその対策の不備を指摘されることもあったため、令和 5 年度の基礎講座では、その反省を活かして安全安心の講座が開かれるように運営委員会で検討しなければならない。

3. 研究会について

昨年度と同様に、ZOOM を使用した Web 活用で、愛知、京都からも参加できる状況であったが、ZOOM の無料使用は 40 分に限定されているため再接続に時間を要した。40 分以内で研究会が実施できるように、事前準備を工夫したい。

4. センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているが、金信研究員より新たな課題の報告は受けていない。

II. 本年度改善されたこと

1. 運営委員会について

令和 5 年度の運営委員会（5 回）は、すべて Web 会議で実施されたが、各委員の意見が各講座に反映された。

2. 各講座について

(1) 公開講座について

令和 5 年度、会場は昨年度と同じで、高田会館ホールを使用し、第 1 回の公開講座の出席者は 49 名、第 2 回の公開講座の出席者は 25 名であった。出席した方々のアンケートは二回とも概ね好評であった。

(2) 専門講座について

令和 5 年度、会場は高田会館ホール宗務院二階会議室を使用して実施した。年 11 回開催の予定であったが、本山宗務院と会館の都合により 1 回の中止があったため、10 回の会場実施となった。

(3) 基礎講座について

令和 5 年度も、コロナ感染拡大防止対策を取り入れながら実施した。通常通りの五日間の講座で、出席者は一般 13 名、教師検定 18 名であった。

3. 研究会について

令和 5 年度の研究会でも、研究書が発刊できるように、編集委員の人数を限定して臨んだ。

4. センター蔵書の整備について

令和 5 年度も、金信昌樹研究員に一任し、作業が進められた。

Ⅲ. 新たな課題

1. 運営委員会について

令和 5 年度の運営委員会はすべて Web 会議で実施され、特に問題は生じていないが、委員間交流、意思の疎通を考慮する場合、対面の会議に戻る時期、および一部委員による Web 参加の可能性を、今後検討しなければならない。

2. 各講座について

(1) 公開講座について

令和 5 年度の公開講座は、外部講師に比べ、研究員の講座への参加者が少なかったため、令和 6 年度は、参加者を増やす工夫が必要である。

(2) 専門講座について

令和 5 年度の専門講座は、前年に引き続き、Web 活用を希望する受講者が多かった。また、本山行事および会場の都合により、1 回実施できなかった。会場も高田会館から宗務院二階会議室に変更することが 2 回あった。令和 6 年度は学内実施の予定であるが、公開講座も含め外部会場を使用する場合の問題点を運営委員会で検討しておく必要がある。

(3) 基礎講座について

家庭の事情により一日だけ欠席した教師検定受講者がいた。その一日分は次年度で一日受講となるが、一般受講者が欠席する場合も含め、Web を有効に活用し、多くの受講者が安心して申し込めるよう、広報内容を運営委員会で検討していきたい。

3. 研究会について

現在の研究会でも ZOOM を使用した Web 活用で、愛知からも参加できる状況であるが、ZOOM の無料使用は 40 分に限定されており、さらに運営会議同様に、研究員間の交流、意思の疎通が十分ではないと思われる。

4. センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているが、金信研究員より新たな課題の報告は受けていない。

IV. 次年度に取り組むべきこと

1. 運営委員会について

事前準備や Web の活用も含め、議事がスムーズに進行し、運営委員の意見が十分に反映された協議になるように工夫したい。

2. 各講座について

(1) 公開講座について

今まで、コロナ感染症対策で利用していなかった、中日新聞「人生のページ・宗教トピックス」への掲載を再開することで、県内外からの参加を呼びかけた。また、その他の広報充実も運営委員会で検討したい。

(2) 専門講座について

課題に挙げたように、Web を有効に活用する受講者も多いので、Web の使用方法など、講座が一層充実したものになるように運営委員会で検討したい。

(3) 基礎講座について

公開講座と同様に、一般受講者への広報活動に力を入れたい。

3. 研究会について

今まで取り組んできた『顕正流義鈔』の研究が令和 5 年 12 月をもって一段落したので、令和 6 年 1 月の研究会からは、今後の取り組みについて出席者で協議している段階である。今後は、短期、中期、長期に分けて、取り組む内容を模索していかなければならない。

4. センター蔵書の整備について

作業は、金信昌樹研究員に一任しているので、金信研究員が作業しやすい条件や作業上の課題など、金信研究員と話したい。

IV

育児文化研究センター

年次報告書

センター長 青木 信子

I. 昨年度までの課題

1. 運営委員会について

今までの事業内容を今まで通り実施するという考え方ではなく、その内容や方法についてていねいに検討しつつ進めていきたいと考えている。しかし、新たな切り口や発想ということに難しさを感じる。

2. 地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

次年度より毎週月曜日に加えて第1・第3木曜日にも実施をする。木曜日に関しては、「〇〇の日」などテーマに沿って開催する。初めての試みであるため、どのくらいの保護者が参加し、どのようなことが求められるのかということを用意しながら、1年間を通して試行錯誤を繰り返していく必要がある。

(2) 子育て講座

希望する講座内容のアンケートを取ってはいるが、講座の参加者に聞いているため内容が偏ることが考えられる。

日頃のおやこひろばでの内容との違いを出し、講座ならではの内容となるように講師の依頼をしていく必要がある。

(3) ひろば運営会議

ひろばの内容を検討していくならば、ひろばの運営や方法及び課題だけではなく、ひろばスタッフの意識や考え方も引き出しながら会議を進めていく必要がある。

運営会議開催日時が平常授業時間で行われているため、授業が重なっている運営委員は参加できず、議事内容が共有しにくい。

3. 研究活動

(1) 定例研究会

定例研究会に参加するメンバーが固定化してきている。さらには学外研究員の研究会所属が長期化しているため、研究発表について質問や発言をする研究員に偏りが生じており、幅広く研究員の意見や提案がされにくい雰囲気がある。

4. 学生支援事業

(1) 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

子育て応援隊の支援事業は、平成24(2012)年度からボランティア支援センターと連携を取りながらおこなってきた経緯がある。2023年度以降は、担当者の負担を考慮しボランティア支援室が主担当となることが決定している。育児文化センター(子ども学科)としては、地域とのつながり(例:夏祭り、運動会、生活発表会等への参加)を大切にしつつボランティアに送りだしてきた。このことを引き継いでいくことが必要である。

(2) おやこひろば保育ボランティア

一部ではあるが、ボランティアをこなすためという受け身の姿勢が見られる。また、おやこひろばに入るにあたっての注意事項や持ち物・服装を確認していない学生がいる。

(3) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

- ・活動日の設定

サークル活動は、学生の時間割の都合上定期的な活動日の設定が困難であり、学生が主体となって活動できるよう日の設定を工夫する。

- ・学生主体の活動

活動内容を決める場合、まずは学生の考えを聞くようにした。出た意見をまとめ発展させていく主体性を育成したい。

5. 地域連携事業

(1) 三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

教員主体となった学生の学びが多いため、学生が主体となった企画・運営等を含めた学びの場を提供していけるようにすることが不可欠である。

Ⅱ. 本年度改善されたこと

1. 運営委員会について

運営委員のメンバーの変化に伴い、今までとはまた違った視点からの意見等を受け、さらに育児文化研究センターの活性化を図った。昨年度よりも新たな気づきが多い会議となった。運営委員が固定化しない必要がある。ただ、全学的に役割を当てていくとそうならざるを得ない状況もある。

2. 地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

第1木曜日は妊婦及び0・1歳児親子、第3木曜日は2歳児以上の親子を参加対象者とした。木曜日はテーマを設定してのひろばとし、親同士でゆったりと簡単な製作を楽しむ時間とした。第1木曜日は初産婦の参加はなく第1子を迎えての妊婦の参加のみとなった。親子での参加が多いおやこひろばには妊婦として参加することは意識されていないと思われる。製作を中心とした内容は、親同士が会話しながら集中する時間が持てることが好評であった。第3木曜日は参加者は少ないが、0.1歳児が多くなってきているひろばで肩身が狭い2歳児が伸び伸びと遊べる良い機会であるという参加者からの声がある。

今まで就園児は受け入れていなかったが、8月の夏休み期間のみ就園児も参加対象児とした。8月は例年人数が減少するが、今年度は8月の参加者が増え、幼稚園等に在籍している就園児も参加することができたことによるものと思われる。

ゼミやボランティアでの学生の参加が増えるように声をかけ、また参加するだけでなく自主的に自分たちで計画を立てたり実践したりするように意識づけをした。休日に開催するファミリーデーは学生中心で行い、参加者も多く活気があるものとなった。

以上のような活動はインスタグラム等でその日に発信をしたり、子育て講座等の予約はHPを改善したりして広報に力を入れた。

(2) 子育て講座

様々な講座内容を実施できるように、いろいろな分野の研究員を増やした。しかし、講座の計画を年度末に立てたため新研究員には依頼できなかった。よって、次年度の講座で幅広い内容を計画していきたい。ただ、研究員ではないが、江崎グリ

コが様々なテーマで子育て講座を無料実施していること利用し、2月の講座で実施した。

予約の方法をメールではなく HP の申し込みフォームから申し込む方法にしたところ、手軽に予約できるようになったとの反応があった。

(3) ひろば運営会議

ひろばの現状にとどまらず、今後のひろばをどのようにしていくかという広い視野でスタッフの意識や目的を高める会議にした。そのために、その月のひろばの取り組みの課題を出してもらい、それについての検討、次の月にはそれがどうなってさらにどのような課題が出てきたのかという PDCA サイクルを意識して会議を実施した。

3. 研究活動

(1) 定例研究会

勧誘により新たな研究員の入会が複数あった。そのため新しい話題や意見が得られる機会につながった。

4. 学生支援事業

(1) 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

ボランティア支援室運営委員にこれまでの子育て応援隊の内容（募集方法、活動内容、事前指導等）を引き継いだ。しかし、ボランティア支援室運営が刷新されたこともあり課題があった。（IV. 新たな課題を参照）

(2) おやこひろば保育ボランティア

保育教材を持参して「おやこひろば」で試したり、子どもたちと一緒に踊ってみたい曲を申し出たりする学生の姿がみられるようになった。

1 回のボランティア数を前年度 3 人から、4 人に増やした（コロナウイルス感染症が 5 類になったため）

ゼミ授業として「保育ボランティア」に参加する機会が増えた（今年度 5 回）

壁面製作ボランティアを年 5 回（春・夏・秋・冬・次年度の春）各回 3 人募集した。事前指導や育児文化室への掲示指導はひろばスタッフがおこなった。

ファミリーデー（7/17 と 12/9）は、各回 2 ゼミが参加した。

学生自身が見通しをもって活動していけるように早い時期からこどもの城イベントについて周知してくるようにしていきたい。

多くの学生が参加できるように、複数のイベント日の確保や時間設定などを検討していくことが必要である。

(3) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

5 月 11 日（木）昼休みに第 1 回定例会をおこなった。新入部員 1 年生（この時点で 3 名のちに 8 名に増加）と 2 年生 4 名の顔合わせをおこなった。定例会には、ひろばスタッフも参加した。

議題は以下の確認をした。

①おやこひろばたかたんについて（スタッフから説明）

スタッフの説明により、学生が質問しやすくなった。

②定例活動日について（学生の意見を聞く。可能な限り月曜日か木曜日の昼休み）

日常的な情報共有は、「たんたんクラブ」グループ LINE（スタッフも参加）によりおこなうことにした。部長を中心に自主的に意見交換することができた。

③本年度の活動内容について

日常的な活動は、育児文化室内の表示やおやこひろば出席ノート原稿の作成、年度末にひろば参加の子ども達に渡すプレゼント作り（折り紙の花）等をおこなった。

④年度末（3月のひろば）の取り組みについて

出迎えから保育、送り出しまでをたんたんクラブのメンバーでおこなう。

学生が主体となった活動として、定例会の開催や活動内容について、部長を中心にグループ LINE で意見を出し合う姿が見られた。

定例会は、月曜日か木曜日の昼休みに開催したため、スタッフに質問できる機会が増えた。

5. 地域連携事業

(1) 三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

学生自身が見通しを持ち活動できるための手だて

①早期の周知

7/17 の子ども学科教員協議会で、「みえこどもの城 みんなあつまれたかたんひろば 2023」を提案し、各ゼミでこの事業に参加の可否を話し合うこととした。

②多くの学生が参加できるための手だて

学生主体の意見を参考に参加ゼミを募り、ゼミ数により 2 日間（12/2、16）の日程を組めるようにした。（実際の参加ゼミは、7 グループであったため、12/16 のみの実施となった）

(2) 主催事業

「まず体感しましょう！森林浴。美杉の実践活動から

～森のゆらぎに身をまかせ、自分のリズムを取り

もどす～」

講 師	長島秀雄氏 芝山隆史氏 塚原智子氏 宮崎里江氏
日 時	令和 5 年 10 月 28 日（土） 13：30～16：30
場 所	高田短期大学 カフェテリアおよび森のひろば
参加対象者	保育関係者・学生（主催・共催側を含めて 40 名程度）

昨年度体験型の講演会を行い、非常に好評だったため、今年度も継続して体験型と講義型のハイブリッドとした。保育現場からの参加者がほとんどであり、自然について新たな発見や、保育で活用できる知見等多くの学びを得られた。ただ、日程的に他のイベントと重なったこともあり、参加者はやや少なめだった。

(3) 地域連携自然保育推進事業

令和 5（2023）年 9 月に「みえ自然保育協議会」が設立され、本学の育児文化研究センターに事務局を置くことが規約に位置づけられた。育児文化研究センター事業としては「地域連携自然保育推進事業」とし、事業実施はセンター運営委員と学外研究員 6 名で行うこととした。また事業の運営資金は外部資金獲得により進めることとした。今年度は国土緑化推進機構の「緑と水の森林ファンド」を獲得し

実施している（令和 6（2024）年末まで）。事業名は「三重県内における「森と自然を活用した保育・幼児教育」の情報発信・ネットワークづくり事業」とし、自然を活かした保育を行っている保育施設への視察やその現地での研修会の開催、自然保育をはじめ自然体験に関わる施設や団体、個人等が参集する交流会として令和 6（2024）年 2 月に「みえの自然保育交流会」をフレンテみえ（津市）で三重県の協力の下、開催した。また、今年度事業進捗報告と次年度事業についての協議のため理事会を令和 6（2024）年 12 月に実施した。事業実施にあたっての事務局メンバーとの会議は、オンライン開催で夜間とならざるを得ず、継続して運営していくにあたっての課題と捉えている。

Ⅲ．新たな課題

1. 運営委員会について

今までの事業内容を今まで通り実施するという考え方ではなく、その内容や方法についてていねいに検討しつつ進めていきたいと考えている。しかし、新たな切り口や発想ということに難しさを感じるが、その中でも会議や事業の重要な部分は残し、統合できる部分はまとめ、必要な新規内容は増やすという視点をいつも持ち続けたいと考えている。

2. 地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

第 1 木曜日は初妊婦の参加がまったくなかったこと、また「0.1 歳児と妊婦」に限定すると第 1 子が 2 歳児の場合は参加が難しいと捉えられることなどが見えてきた。

8 月には就園児も参加できることについては好評であったが、12 月や 1 月の冬休み期間や 3 月の春休み期間などの中途半端な日程については設定しにくい。

多くの親子が参加する中で、子どもの発達を心配する声や同年齢の子どもの様子との比較をして気にする声がしばしば聞かれる。

(2) 子育て講座

近年、8 月の講座の参加が少なく、家族の夏季休暇による帰省等の影響もあるのではないかと考えられる。

(3) ひろば運営会議

ひろばでの新たな取り組みに対する意欲や発想は少しずつ変わりつつある。運営委員同様、新たな考え方や視点を取り入れるには違う視点からの意見が必要である。

3. 研究活動

(1) 定例研究会

定例研究会においてなかなか発表者が決まりにくい。

4. 学生支援事業

(1) 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

前年度まで育児文化研究センター事業「子育て応援隊」をボランティア支援室事業へ引き継ぐにあたり、ボランティア自体の定義や外部からのボランティア依頼

の受け入れ方で意見の相違があった。その都度「子ども学科の学生につけたい力」に照らし合わせ意見を伝えるようにした。

もう一つの課題は、前年度までできていた活動（実習先からの手^伝い依頼やこどもの城からのボランティア要請等）も先方からの正式な文書が必要となり、学生のボランティアの場が減少したことである。

(2) おやこひろば保育ボランティア

一部ではあるが、個人で参加する場合、急な欠席を連絡しなかったり、身だしなみに不注意な学生がいたりした。

(3) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

1年生と2年生という学年の違いやクラスごとの時間割の都合上、固定した時間に活動日を設定することは難しい。本人の了解のもと、グループLINEを使用し、意見交換した。しかし、このアプリはあくまでも個人の携帯を使用するものであるため、他の手段があれば模索する必要がある。

5. 地域連携事業

(1) 三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

内容は、ゼミごとに一任した。劇「ももたろう」「クレヨンたちのクリスマス」・製作「お面を作りダンス」「クリスマスリース」・ゲームコーナー「的当て、ボーリング、輪投げなど」・音楽「ファミリーコンサート」であった。学生主体としても、教員の指導が必要なことは否めない。

IV. 次年度に取り組むべきこと

1. 運営委員会について

毎月1回実施しているが、議題によっては開催せずにメールでの確認という方法をとる場合も考えていく。学外から見たセンターへの意見は、センター会議の中で吸い上げて事業内容に活かしていくこととする。よって、学外運営委員は置かず学外運営委員会も実施をしない方向とする。

2. 地域開放事業

(1) おやこひろば「たかたん」

次年度も毎週月曜日と第1・第3木曜日の実施とする。参加対象者は未就学の子どもを持つ親子とし、就園している子どもも年間を通して受け入れていくこととする。木曜日は参加対象者の条件をなくし、毎回「製作の日」「森のひろば」「発達が気になるお子さん」などのテーマに沿って実施をしていく。

学生の参加意識を高める。さらに、能動的ではなく自主的に自分たちで取り組めるように意識づけをしていく。また、たかたん保育特別演習「子育て支援」の授業が始まり、授業としておやこひろば「たかたん」に学生がかかわるため、学内におやこひろばがある意味を再度見直す機会とする。

(2) 子育て講座・子育て相談

本年度新たに加わってもらった研究員に様々な分野の講座内容を依頼し、幅広い内容の情報を親子に発信できるようにしたいと考えている。また、今年度実施した江崎グリコのように、研究員以外でも最新の情報や商品など提供してもらえる

ような講師に依頼することも視野に入れたい。

子育て相談は、近年ニーズが多い発達相談を充実していく。

(3) ひろば運営会議

ひろばスタッフと運営委員が情報を共有する貴重な時間であるため、スタッフが自己の意見や改善点などを十分に出すことができる時間としたい。また、ひろばのマンネリ化を防ぐためにも、毎月の月案等を検討することも重視したい。

スタッフが視野を広げるためにも、市内での研修会はもちろんのこと、他で開催されている子育て支援センターやひろばを見学に行くことを勧めていきたいと考えている。

3. 研究活動

(1) 定例研究会

年度当初に定例研究会での発表希望の意思を一人ずつ確認することで、自ら言い出しにくい研究員に研究発表に機会を広げていく。

また研究会では幅広く研究員の意見や提案を聞くことができるように研究会運営方法を工夫する。

4. 学生支援事業

(1) 地域保育関連の学生ボランティア活動支援

ボランティア支援室が新体制になり 2 年目である。外部ボランティアについては支援室と連携を進めていく。また、地域とのつながり（例：夏祭り、運動会等）の要請が子ども学科学生にあれば、地域貢献活動参加を推進していく必要があると考える。

(2) おやこひろば保育ボランティア

個人参加では、本年度も 1 回につき 4 人が参加できるようにする

ゼミ単位での参加、ゼミのファミリーデーへの参加等を募り、多くの学生が保育体験する機会を増やす。

(3) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

学生主体のサークル運営となるよう学生の意見聴取の機会を早期に設ける。

ひろばスタッフに指導に入ってもらい、学生が質問しやすいようにしていく。

5. 地域連携事業

(1) 三重県立みえこどもの城連携協定による事業支援

より多くの学生参加のために、育児文化研究センター事業の枠を外し、子ども学科として取り組むことを模索していきたい。そして、学生自身が見通しをもって活動していけるように引き続き早い時期からこどもの城イベントについて周知していく必要がある。

(2) 主催事業

毎年時間がない中で事業内容を決定することが多く、もう少し多くの研究員からの意見や希望を聴取し、幅広い学びにつながるよう検討することが必要である。そのため次年度は検討する一年とする。

(3) 地域連携自然保育推進事業

令和 6 年（2024）年は、「自然保育」と「子どもの育ち」をキーワードとした

意見交流や実践事例研究を協議会に関わる理事や事務局、会員間で行うことを主な取り組みとする。そのことにより、協議会で行える取り組み、期待される役割についても共有し、以後の事業実施計画に繋げる。また、協議会運営の課題についても検討し継続可能な運営のしくみづくりを行う。



キャリア研究センター

年次報告書

センター長 中畑 裕之

1. 昨年度までの課題

昨年度に取り組むべき課題として挙げたものは、中期目標に対応して以下の項目である。

(1) 地域連携機能の改善・充実、連携の拡充

地域のニーズに対応し地域課題の解決に資することができるよう、機能、体制の改善・充実を図る。

(2) 研究活動の活性化、研究成果の普及

研究員間の情報交換・意見交換が活発となる環境を整え、研究活動の活性化を進める。また、研究成果、研究員の知見を普及するとともに、地域に還元していく。

(3) 地域を支える人材の育成

卒業生、進路先事業者等へのリカレント教育を行うことにより、社会情勢や環境変化に対応できる人材を育成する。地域課題をテーマとした PBL を行うフィールドを提供するなど、学生の自律的で実践的な学びに資する。

2. 本年度改善されたこと

課題として挙げられた事項につき、次のような取組みを行った。

(1) 地域連携機能の改善・充実、連携の拡充

一身田商工振興会との連携事業に継続的に取り組み、令和 5 年度は中畑ゼミで「寺内町まつり」のポスターや、一身田寺内町のカフェを紹介するポスター、菓子店の商品ポスターを作成した。また、高田会館の翔南閣の改装にあたっての提案を川喜田ゼミで行った。

昨年度連携協定を結んだ有限会社湯元榊原館には、チームプロジェクト演習受講者、伊東ゼミゼミ生が同館を現地調査し、それを基にスイーツを柱としたイベントの提案を行った。

津商工会議所のビジネスアイデアコンテストに伊東ゼミ、中畑ゼミが参加した。伊東ゼミから提案した「健康を取り戻せるか?! 榊原温泉で湯快津う買いスイーツバイキング」が最終審査会に進み、優秀賞（第 2 位）を受賞した。この提案は、学生による湯元榊原館の現地調査が基となっている。

中央公民館との共催事業「地域力創造セミナー」として、「もっと便利に！インターネット活用術」「パソコン・スマホ教室サポーター養成講座」の 2 つの事業を行った。この事業はボランティア団体「情報ボランティアみえ」とともに展開している。

ビジネスアイデアコンテストへの参加はこれまでにない取組みで、津商工会議所から本学への参加要請に応じて取り組んだもので、本年度は連携が一層広まり、充実されたと考える。

(2) 研究活動の活性化、研究成果の普及

研究会を 2 回開催し、第 1 回は令和 5 年 6 月 29 日に「農業、農村資源を活用した

地域活性化への取組～地域活性化プランの推進～」として、三重県農林水産部担い手支援課課長後藤浩明様にお話をいただいた。2 回目は 12 月 26 日に「観光関連事業を含む地方公営企業の経営比較分析」として、伊東秀幸研究員にお話をいただいた。いずれも多く質問があり、予定時間をオーバーする会となった。研究活動の活性化を目的に、令和 4 年度から研究員が行っている研究活動や地域貢献活動、教育活動で感じている課題などを気軽に情報交換、意見交換できる場として新たに開始した学習会を、令和 5 年度は 2 回開催した。1 回目は「学外活動の学習成果を確かなものにする評価活動を考える」として鷺尾敦研究員がスピーカーを務めた。第 2 回は「高等教育機関におけるビジネス価値創造を目指した地域連携活動の効果に関する考察」として、杉浦礼子研究員がスピーカーを務めた。研究員が日頃感じている課題などを共有する場となった。研究成果の普及としては、研究員の研究成果等を取りまとめた紀要・年報第 10 号を発刊し、研究論文 1 本、調査報告 1 本、実践報告 2 本を掲載するとともに、一身田商工振興会会長中川隆巧氏、若林社会保険労務士事務所若林正幸氏、三重大学学務部リカレント教育事務部教務課長是永寛志氏から寄稿をいただいた。

(3) 地域を支える人材の育成

リカレント教育の一環として就業支援セミナーを開催した。8 月 8 日に「クレーム対応基礎講座」（講師：長谷川聡子研究員）、8 月 9 日に「伝わるプレゼン PowerPoint 基礎講座」（講師：川喜田多佳子研究員）を、2 月 14 日に「マーケティングの基礎と考え方講座」（講師：中畑裕之キャリア研究センター長）を、公開講座として実施した。

コロナ対応もあり昨年度実施できなかった PowerPoint 基礎講座が復活し、3 本の公開講座を開催することができた。

3. 新たな課題

キャリア研究センターは令和 5 年度末で廃止となるが、その役割、事業はオフィスワークコースで引き継ぎ、継続して取り組んでいく。

4. 中期目標・中期プランの達成状況（令和 4 年度・5 年度）

中期目標・中期プランの達成状況につき、進捗、達成状況をロードマップを基に評価を行った。

(1) 地域連携機能の改善・充実、連携の拡充

・地域連携に関わる研究員の拡大

この 2 年間で学外での地域連携に関わる研究員は拡大し、来訪者調査やビジネスアイデアの提案、施設改装への提案など事業のテーマも幅広くなった。

・活動に必要な連携機関の拡充

4 年度に湯元榊原館と「連携に係る覚え書」を新たに交わし、来訪者調査の実施、改装にあたっての提案などを行った。5 年度には津商工会議所からの要請を

受けてビジネスアイデアコンテストに参加した。

今後のとなるが、6年度から「地域マネジメント論」「チームプロジェクト演習Ⅰ」の各1コマを百五銀行・百五総合研究所の寄付講座として開講し、三重県観光連盟や現役のインフルエンサーを招聘することとなった。

- ・事務局設置などバックアップ体制の教化

ロードマップでは令和6年度からの取組としており、この2年間は現有メンバーでの協力、役割分担で対応してきた。

- ・目的・目標・工程等の明確化

学生への効果、学校としての取組意義については一定検討して取り組みを行ってきたが、最終的な目標、成果の設定や工程の明確化はまだ不十分であったと考える。連携相手との十分な意思疎通、目的・目標の共有に今後も留意していく必要がある。

- ・評価、改善活動のサイクル化

ロードマップでは令和6年度からの取組としているが、昨年度より事業報告などで評価、改善を図ってきた。

(2) 研究活動の活性化、研究成果の普及

- ・新しい形での研究会・意見交換会等の開催

令和4年度から研究員の行っている研究活動や地域貢献活動、教育活動で感じている課題などを、気軽に情報交換、意見交換できる学習会を新たに開始し、年2回ずつ開催した。

- ・センター紀要への投稿促進

研究員による投稿については、十分な成果を上げることはできなかった。研究員個人の努力に期待するだけでなく、業務を見直し研究時間を確保することも求められる。

- ・セミナー、イベント開催等による知見の普及・地域還元

就業支援セミナーを継続的に開催し、専門知識やノウハウの地域への還元を行ってきた。また、三重アカデミックセミナーや本学公開講座での講師、地域経済団体セミナーでの講師を研究員が務め、知見の普及に努めた。

(3) 地域を支える人材の育成

- ・リカレント教育の実施、充実

卒業生、また地域企業の方々の就業力を高めるため、就業支援セミナーを開催して来ており、参加者からは高評価を得ている。令和4年度から「マーケティング基礎講座」を新たに開始した。今後も継続していく予定である。

- ・学生への実践的な学びの場の提供

一身田寺内町をフィールドとしての一身田商工振興会との連携事業や榊原温泉・湯元榊原館をフィールドとした連携事業など、学生への実践的な学びの場の提供を行った。

- ・PBLなど指導スキルの向上、経験などの情報交換

研究員が共同して事業に取り組んだり、学習会での情報交換を行ったりすることで、指導スキルの向上、経験などの情報交換を行った。

- ・講座ニーズ調査、セミナー案内等のための卒業生連絡先の収集

ロードマップに挙げていたが、取り組むことが出来なかった。

参加者の募集に苦勞してきたということがあるが、募集については連携協定先である百五銀行・百五総研に担ってもらうことで、参加者の確保はできると考える。

VI

介護福祉研究センター

年次報告書

センター長 上山 由紀子

I. 昨年までの課題

本研究センターは節目を迎え、設立 10 年目となった。研究員の入れ替わりはあるが、本年度の研究員は 47 名となった。令和 5 年(2023)度は、新任教員がセンター長を担うことになり、又主任研究員は不在での運営になるため、今まで以上に報告、連絡、相談、連携が必要になる。

活動は、定例研究会を中心に教員、卒業生、地域の福祉関係者との連携に重点を置き、介護福祉や社会福祉の研究を行い、その成果を学内外に広め、地域の介護・福祉の発展に寄与しているところである。

令和 2 年(2020)以降、新型コロナウイルスの影響で活動が縮小されていたが、徐々に活動再開ができる状態にある。令和 5 年(2023)5 月には、感染症法 5 類に移行した。他機関とも連携し、学生のボランティア育成の環境を整えていくことも重要な役割だと考える。又、センター研究紀要である「介護・福祉研究」の執筆希望者が増えず減少気味であることも課題である。

II. 本年度改善されたこと

研究員数については、研究員の任期を終えた方々の辞退は数名あったものの、今年度は 3 名の新規研究員を迎え、全員で 47 名となった。

センター長は新任教員、又主任研究員は人員面から不在という形でのスタートであったが、運営委員・庶務皆で連携・協力し合い、円滑なセンター運営ができたと感じる。

本年度前期センター会議にて、センター研究紀要である「介護・福祉研究」が届いていないと申し出があった。すぐに研究紀要をお渡しするとともに、他の研究員の方にもメール等で確認した。メールアドレス変更等により、案内メールが届かないことも考えられ、案内等が速やかに届き周知されるよう、連絡方法を一つずつ確認した。

昨年度の課題として、センター研究紀要である「介護・福祉研究」の執筆希望者が増えず減少気味であったため、研究員に声を掛ける等啓発活動を行い、今年度は研究論文 3 編、実践報告 2 編、研究ノート 1 編、調査報告 1 編、合計 7 編の原稿を依頼することができた。2 編は諸事情により見合わせとなり、第 10 号紀要は 5 編となった。

今年度の作文コンクールに関しては、開催は見合わせになった。第 1 回から第 3 回の受賞者の冊子を近隣の施設や小中学校等に配布し、介護の啓発を行った。

本年度、定例研究会は 3 回開催した。卒業生が話題提供者となる回も多く、それに伴い参加者に卒業生も多く見られた。多職種の研究員の方々と意見交換もでき、リカレント教育の場として、日々の仕事への学び、意欲に繋がる研究会となった。

今年度は、研究員が受け持つゼミナール活動として一身田青年団と連携して「七夕まつり」イベントに参加した。本研究センターも側面的に連携しながらバックアップした。この行事を通して、一身田青年団とのつながりができ、高短祭でのミニ SL コーナーの運営協力を得ることができた。

本年度の介護福祉セミナーは、3 年前にも好評であった矢野加奈子先生に依頼

し、「リハビリあそびうたで楽しみましょう♪」というテーマで行った。療育を体験するということで、施設職員の参加もあり、多様な参加者が楽しみながら学ぶことができた。

Ⅲ. 新たな課題

令和5年(2023)5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法5類に移行したが、今年度は施設との交流事業は控えていた。今後、介護福祉士を目指す学生たちがボランティア活動を通して、実践的な活動の機会となるよう、取り組みを再開していく。

介護福祉セミナーを広く知ってもらい、ますます活気あるセミナーとなるよう、啓発活動を行っていく。

本学の各研究紀要について、1本化の話がでている。関係機関と内容を検討、方向性を模索し、よりよい紀要となるよう進めていく必要がある。

Ⅳ. 次年度取り組むべきこと

介護福祉セミナーについては、いくつか案があがった中、新規教員の東海林先生による「フットケア」等の内容で企画中である。令和5年(2023)度は、広報活動として、療育というテーマにあわせ、障害者施設にチラシを配布したところ、施設職員にも参加してもらえ、多様な参加者で楽しみながら学ぶことができた。実施時期が確定したら、一般県民はもとより介護福祉施設関係者等がさらに参加してもらえるよう広報活動も工夫していきたい。

また、本年度の定例研究会は昨年同様3回を予定している。引き続き、研究員や卒業生に呼びかけ、参加者を確保し有意義な会を運営したい。

施設連携事業は、新型コロナウイルスの影響で控えていが、学生の高齢者理解の機会となるよう再開していく。

センター研究紀要である「介護・福祉研究」の執筆希望者が減少気味であるため、今後も啓発活動を行っていくとともに、本学紀要のあり方について関係機関と検討し、方向性を模索していく。

令和6年(2024)度は、11年目となる。定例研究会等、卒業生が中心的な役割を担うことも多くなり、10年の継続の力を感じる。今までの実績を引き継ぐと共に、介護福祉や社会福祉を实践されている方々の自己研鑽、リカレント教育、地域を繋ぐ場として、他機関とも連携し、これからも役割を担っていきたいと考える。



自己点検・評価委員会

年次報告書

委員長 清水谷 正尊

I. 令和4年度自己点検・評価委員会の構成員と役割分担

1. 構成員

清水谷 正尊（学長・委員長）
山口 昌澄（副委員長、ALO、学務委員長）
福西 朋子（子ども学科長）
野呂 健一（キャリア育成学科長）
中川 千代（キャリア育成学科介護福祉コース長）
山本 敦子（キャリア支援委員長）
青木 信子（育児文化研究センター長）
中畑 裕之（キャリア研究センター長・外国人留学生支援委員長）
寶來 敬章（入試広報委員長）
生駒 昌之（教学部長）
大橋 一喜（事務局長）
藤山 真宣（総務課長）

2. 各作業部会とその構成員

	作業部会	部会長	担当者		
1	授業評価・見学	山口	野呂	中川	生駒
2	FD・SD	福西	野呂	大橋	
3	卒業生・就職先調査	山本	中畑	山口	眞崎
4	IR (高短生調査含)	野呂	寶來	中川	(清水谷)
			青木	中畑	長倉

3. 各作業部会の業務と今後の課題

(1) 授業評価・見学作業部会

1) 昨年度までの課題

①授業評価アンケート

昨年度前期は、対面での実施呼びかけに関わらず、回答率が61.1%と一昨年度より低下した。

②授業見学

活用を呼び掛けたが、昨年度0件であった。

2) 本年度実績・改善されたこと

①授業評価アンケート

本年度の回答率は前期74.7%・後期66.1%と、昨年度（前期61.1%・後期52.5%）に比べ、それぞれ10ポイント以上向上した。また結果集計（グラフ

化)に関し、従来システムが使用できなくなったため、教務課の協力を得て、新たなシステムを構築することができた。

②授業見学

本年度当初(全体会議)に呼びかけを行ったこともあり、新任教員を中心に3件寄せられた。

3) 新たな課題

①授業評価アンケート

学科・コースにより回答率のギャップが見受けられた。また新システム(AAA)上で実施されたことも影響し、前期において学生が評価を逆につける等、一部混乱も報告された。

②授業見学

昨年度より増加したものの、依然少ない状況といえる。

4) 次年度取り組むべきこと

①授業評価アンケート

実施に際し、教員・学生に対する丁寧な説明を心がけ、回答率の向上に努める。また項目についても、新カリキュラム、各ポリシー等に照らし、内容刷新に向け検討する。

②授業見学

次年度は新たな教員を比較的多く迎える。協力の呼びかけを、年度始めのみならず断続的に起こない、新任教員のみならず、現員教員の参加件数の向上を図る。

(2) FD・SD 作業部会

1) 昨年度までの課題

研修後に参加者に対しての振り返り、アンケートはこれまで行っていない。次回の研修テーマ検討の資料とするためにも実施をする。

2) 本年度改善されたこと

本年度の実施内容は以下の通りである。学内において「学生支援」に係る支援方法や内容、学内の支援体制の構築が課題として挙がっていることから、学生支援委員会と連携し研修内容について協議・決定をした。検討事項として、まず開催時期は例年の2月開催から9月開催とした。理由は研修で示唆を得て今年度中に学生支援についての協議を進めたいことからである。また学内教職員に学生支援に係る意識調査を実施し研修内容検討の資料とすることとした。講師選別にあたっては、高等教育機関等における学生支援体制が整備されているところでの支援方法

や内容について話していただけることに重点を置いた。また、コロナも落ち着いた

令和5年度 高田短期大学 FD・SD 研修会

1. 日時：令和5年9月5日（火）13：30～15：30

2. 会場：大講義室（2号館 2F）

3. 研修内容

テーマ：大学における障害学生支援について-合理的配慮の理解を中心に-

講師：三重大学 学生総合支援機構 障害学生支援センター 講師

風間 惇希 先生<博士（心理学）、公認心理士・臨床心理士>

こともあり、学外参加可とし実施した。

研修においては、講師の提案もあり、随時研修内容にフロアから web 上で質問を行う方式が取られた。時間の関係で回答できなかった質問については後日、講師からの返答もいただくことができ、学内の今後の取組みに活かすことのできる研修となった。

また、委員会として研修振り返りとともに次年度研修テーマに関する質問含むアンケート実施も行った。研修内容振り返りの回答については学生支援委員会にフィードバックした。

3) 新たな課題

今年度は学内の懸案課題について関連部署と連携して研修を実施した。FD/SD 作業部会メンバーのみの協議では行えない内容であったと考えるので、今後の研修会企画においてのあり方としての有効な事例としていきたい。

4) 令和6年度（2024）取り組むべきこと

次年度は、今年度の研修後アンケート結果（次年度の研修内容）を参考にするこ
とと、学外参加可の研修と学内研修は交互に行うことを委員会で共有しているた
め、この点も踏まえ研修方法・内容を検討することとする。

（3）卒業生・就職先調査作業部会

1) 昨年度までの課題

①卒業生対象調査を継続して実施、データを蓄積する。

②採用先対象調査については、「卒業時に身につけておいてほしい能力（知識・スキル）」（専門的な能力）に特化した内容で調査を行い、結果を分析する。

③卒業生や採用先の情報把握・共有の機会としても活用できるようにする。

2) 今年度取り組んだこと

①卒業生対象調査を継続して実施し、調査内容に関し概ね良好な結果が得られた。前年度と比較して3.8%の回答率の上昇が見られ、Webによるアンケート調査方法は回答促進に効果的であることが伺えた。

②前年度の採用先調査（「採用側が最低限求める専門的な能力とは何か」）の結果と、本学のディプロマポリシーとの関連性を踏まえ、各学科コースの特色に応じた質問項目を新たに作成。卒業生の採用時の学習到達度・獲得能力等（学修成果）の現状について調査を実施した。

③キャリア支援センターの協力により、調査内容の企画、資料作成、回答内容の統計処理作業を円滑に進めることができた。調査の分析結果を学内Webにて公開し、各学科コースや同センター内における卒業生や採用先の情報把握に活用できるようにした。

3) 新たな課題

卒業生対象調査については、本学が平成21（2009）年度文部科学省により採択された「大学推進教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム『キャリアカルテを用いた生涯就職支援システムの構築』」における「就職先意識調査項目」、および本学自己点検・評価委員会「卒業生・就職先調査作業部会」が令和元年度に実施した「卒業時学習到達度・獲得能力等（学修成果）に関するアンケート」における「就職先意識調査項目」をそのまま採用している。その調査の実施と継続は、本学卒業生の学修成果に対する自己評価の現状把握と、本学の教育やキャリア支援等へ活用しうる有益な資料の蓄積に一定の成果を挙げてきた。しかしながら、当調査項目は現在の本学のディプロマポリシーとの関連性を有しておらず、回答は卒業生本人による卒業後の主観的な自己評価によってなされることなどから、調査内容や方法を見直し、整理する必要性が生じている。

4) 来年度取り組むべきこと

①卒業生対象調査を発展的に解消する。学修成果の獲得状況については、現行の「DPルーブリック到達度調査」の実施により、その把握、検討を行う。

②今年度新しく設定、実施した採用先調査を次年度以降も継続実行し、ディプロマポリシーとの関連から本学卒業生の進路先での卒業後評価の聴取と分析を行い、学修成果の点検と資料の蓄積につなげていく。

（4）IR作業部会（高短生調査含）

1) 昨年度までの課題

①DP達成度ルーブリックの改善

オフィスワークコースの専門DPルーブリックでは、学生の自己評価が大変低く

あった。しかし、ルーブリックの最高レベルが社会人になってから、次のレベルが短大で到達する最高目標、となっており、記述の表現からは、もともと高い評価となるものではなかった。数値化して分析する以上は、他の学科コースの目標レベルも見直して、各段階の目標レベルが揃うよう検討する必要があると思われる。

②成績評価分布結果の担当教員へのフィードバック

成績評価分析結果を教員に返すことで、教員一人ひとりが評価について考える機会となると思うが、現状なされていない。大学評価にも必要となってくる基本的な点検項目であるので、実施体制、結果のフィードバック体制を明確にしてはどうか、検討すべきと思われる。

③高短生調査の検討

令和 4 年度の調査内容を検討する際、その回答によって学生生活の何に繋がるのかが明確でない質問項目も見受けられた。今の学生の実態と学生生活の実情をしっかりと捉えることができる項目を検討する必要がある。また、年度末はアンケート調査に回答する機会が多いため、他のアンケート調査内容と混乱する学生も一部見られた。

2) 本年度改善されたこと

①DP 達成度ルーブリック調査についての方針の決定

これまで DP 達成度ルーブリック調査の実施時期について、委員会で明確に確定されておらず、年度によっては入学時のデータがない場合もあった。今年度は年度当初の委員会において実施時期を検討し、経時的変化を分析する必要から入学時、1 年後期終了時、2 年後期終了時の 3 回実施することを決定した。

②DP 達成度ルーブリック調査回答率向上への取り組み

本調査に限らず、回答率を向上させることがデータの信頼性には不可欠である。今年度は、入学時には、スタートアップゼミナールにおいて回答を呼び掛け、1 年後期、2 年後期は、成績交付時に回答させることとした。今年度更新された教務システムでは、アンケートへの回答状況がリアルタイムで確認できるため、回答数が少ない場合には、その場で回答を促すことができることも回答率向上につながった。

③授業科目間の成績評価基準の平準化に向けた取り組み

今年度は成績評価分析結果を委員会で報告した後、次の教授会でも報告することとした。それによって、各教員が他の教員と比較して自分の評価の妥当性について考える機会を提供することができた。

④高短生調査質問事項の検討

授業評価アンケートと重複する部分があったため、本調査では学生生活を問うことを中心に、作業部会において質問事項を協議・検討した。さらに委員会でも検討後、全学生対象に成績交付日に調査を実施することとなった。調査結果はこれまでと同様に、次年度 4 月以降に集計を持って作業部会で分析し、結果を委員会に報告する。その後公表する予定である。

3) 新たな課題

①DP 達成度ルーブリックの改善

昨年度までの課題に挙げた、オフィスワークコースの専門 DP ルーブリックについて、今年度実施した入学生対象の調査では、卒業時ほど大きな差はなかったものの、一部の項目で自己評価の低い傾向が見られた。他学科・コースとの比較が可能となるように検討する必要がある。また、共通 DP ルーブリックについて、以前から一部の項目で表現が難解であるとの指摘があり、検討が望まれる。

②他の調査も合わせた高短生調査の検討

学生がアンケートに回答する機会が多い。丁寧な回答を求めるのであれば、類似した内容を削除したり統合したりして、アンケートを必要最小限にまとめることを検討する必要がある。

4) 次年度取り組むべきこと

①授業科目間の成績評価基準の平準化に向けたさらなる取り組み

今年度は教授会において成績評価分析結果を報告したが、次は、非常勤教員も含めた平準化に向けた取り組みを検討する必要がある。

②DP 達成度ルーブリックの改善

次年度はまず、オフィスワークコースの DP ルーブリックについて具体的な記述語の検討に着手したい。コースからの素案に基づき、作業部会で検討し、令和 7 年度入学生からのルーブリック調査から実施したい。また、共通 DP ルーブリックについては、各委員からの意見を聴取するところから始めたい。

③高短生調査の結果を踏まえた見直しの検討

調査結果から学生が何に満足し何に改善を求めているのかを明らかにし、具体的に分析する。また、その回答結果から、さらに質問項目の見直しの必要性が見えたら引き続き検討していきたい。



学務委員会

年次報告書

委員長 山口 昌澄

I 昨年度からの課題

1. 新システムの円滑な運用およびサポート体制づくり

本年度は新学事システム「Active Academy Advance（株式会社電翔、以下『AAA』）」導入に伴い、学生生活・学修情報等の一括的管理にあたることとなる。出席管理、学生諸連絡（授業課題含む）、遠隔授業等における有効活用が期待されるところだが、旧システム（manaba、高短キャンパスネット等）との違いに戸惑う教職員（および学生）も出てくることが予想される。教職員における新システムの習熟はもとより、困った際の適切な対応等が求められる。

2. 保護者懇談会

昨年度保護者懇談会については、ここ数年の形式を変え、冒頭に学長挨拶を含む全体説明会を復活させる形で開催した。しかし、キャリア育成学科より、その後の個別相談会まで待機を要される保護者がいたことが課題として指摘された。より適切な開催形式を検討すべきとの指摘を受けた。

3. 学生イベントの充実

本年度、新型コロナウイルスの5類相当への引き下げにともない、様々な学生イベントが例年に準じた開催形式に戻った。引き続き感染予防には十分配慮しつつ、学生生活の充実に向け、より魅力あるイベントを実施することが求められる。企画・運営の中心・主体はあくまで学生自治会となるが、外部に向けたイベント（例：学園祭）実施をする場合、サポートはもとより、学生指導も一定以上必要となる。学生の主体性や参加意欲、充実感を損なわず、安全かつ有意義な機会提供が目指される。

II 本年度改善されたこと

令和5（2023）年度の上記課題に対する取り組み・改善状況（成果）は、以下のとおりである。

1. 新システムの円滑な運用およびサポート体制づくり

「AAA」の運用にあたっては、想定通り学生・教職員から様々な要望や問い合わせが寄せられた。その都度教務課および指導教員による対応を行い、また教職員の習熟もともなったこともあり、大きな問題は生じなかった。AAAに関する要望・問い合わせ等については、10月教職員対象のアンケート、2月学長と学生との懇談会にて意見聴取し、それを基にしたQ&A集「AAAに関する使用感・要望等調査まとめ」を作成した。こちらのQ&A集は、定例教授会および非常勤講師打ち合わせ会（ともに3月開催）にて配布・説明をおこない情報共有に努めた。さらに要望の多かったものを中心に、システム・アップグレードに関する業者との交渉に着手するなど、円滑な活用に向け働きかけた。

2. 保護者懇談会

本年度は、12/3（日）に一斉開催としたが、各学科独自の内容・形式での実施となった。子ども学科は「全体会（学長挨拶含）→個別懇談会（キャリア支援担当職員面談／ゼミ担当教員面談；希望別）」と昨年に準じた形式、キャリア育成学科は「ゼミ担当教員による個別懇談会」のみとなり、指摘された問題は改善されたといえる。参加保護者を対象とした事後アンケートにおいても高い評価が得られ、問題なく実施・開催できたものとする。

3. 学生イベントの充実

上記にもあるように本年度は、新型コロナウイルスの5類相当への引き下げにともない、学生自治会主催により例年に準じた開催形式による様々な行事が執り行われた。具体的には、TJC 祭、学内抽選会（新年会含）、高短祭（学園祭）といったところである。特に高短祭については、新型コロナ禍以降4年ぶりの一般公開形式の開催ということもあり、以下の点に留意して実施した。①できる限りゼミおよび各学生へ参加呼びかけ（模擬店・パフォーマンス等）、②感染予防の観点より学生模擬店の飲食物調理販売をしない（「食品衛生責任者養成講習」受講者（ゼミ）は除く）、である。学生自治会の尽力もあり、各ゼミ工夫を凝らした出店、学生によるパフォーマンスも盛況の内に安全に終わることができ、事後アンケートの結果からも、まずまずの手応えを得ることができた。また「卒業生謝恩会」も4年ぶりに会食を含む形式で開催（於：ホテルグリーンパーク津）し、学生生活を締めくくる思い出深いイベントとなった。

昨年度からの課題以外に、本年度の新たな取り組み（成果）は以下のとおりである。

- ・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症罹患時の対応用「学校感染症にかかるガイドライン」の作成・運用。
- ・共通教養科目情報系科目「情報処理演習」次年度卒業必修化に向けた内規改定・整備。

Ⅲ 新たな課題

1. 成績不振者への指導（および記録保存）

私学共済事業団の实地調査（12月）にて、「成績不振者への指導」に関する基準整備と対象者ごとの個別指導記録を残すべきであることを指摘された。本年度協議にて指導対象は「GPA2.0未満（現状指導基準準用）」学生とし、ゼミナール担当教員が指導をおこなうこととした。指導後は、対象学生ごとの指導記録提出を保存する。また2年後期での指導も考慮し、各期「成績交付時 GPA」を基準に指導を行なうとの方針が示された。

2. AAA システム・アップグレード（改善）

現在のところ、運用上大きな問題はないが、教職員（および学生）から「使いづらい」との意見も聞かれる。より使いやすいシステムとなるよう検討すべきである。

3. 学生マナーの向上

学生の設備利用（教室机内のゴミの散らかし）、駐車違反、挨拶等の学生マナーの乱れが本年度委員会でも度々指摘された。

IV 次年度取り組むべきこと

Ⅲで挙げた課題については、他部署等の連携も図りつつ、取り組みを進めていく。

1. については、次年度早期に内規整備、前期成績交付より運用できるよう整備する。

2. については、引き続き教職員・学生からの要望を吸い上げ、より使いやすいシステムとなるように検討すべきである。システム・アップグレードに関し、取り扱い業者（株式会社電翔）との交渉、予算範囲内での実現にも取り組む。

3. については、日々の指導の積み重ねが重要である。加えて、学生自治会による学生マナーに関連したイベント開催や呼びかけ等、学内におけるマナー向上の雰囲気醸成も検討すべきである。

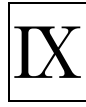
その他、両学科とも新カリキュラムに基づく「(新)カリキュラムマップ」の整備・公表にも取り組みたい。

部局名【教務課】

項目	目 標	プラン・ロードマップ実施状況 (令和5年度)	目標達成向上・改善に向けた取り組み (次年度以降)
1	教務システムのリプレイス	新学事システム AAA の運用に関する、教職員アンケートを実施（10月）。取りまとめた Q&A 集「AAA に関する使用感・要望等調査まとめ」作成し定例教授会・非常勤講師打ち合わせ会にて配布・説明した（3月）。	引き続き、教職員および学生からの要望等を聞き取り、対応に努める。システム取り扱い業者とのアップグレードに関する交渉も行い、予算範囲内で改善に取り組む。
2	授業環境整備	大講義室の音響設備一新、後方ディスプレイモニターの設置を行った。視聴覚室の電動カーテンの修理も完了。その他故障設備の迅速な修理にも努めた。	引き続き、不具合等教職員および学生から情報を集め対応していく。

部局名【学生課】

項目	目 標	プラン・ロードマップ実施状況 (令和5年度)	目標達成向上・改善に向けた取り組み (次年度以降)
1	キャンパスライフ充実	4年ぶりに一般公開となる高短祭(学園祭)を開催した。サークル活動については一部に留まった(吹奏楽等)。	学生マナー向上に資する企画、指導強化に取り組む。高短祭事後アンケートの意見も参考に、イベントのさらなる充実化を図る。
2	奨学金等の経済的支援充実	入試広報課とも連携し、従来の奨学金に加え児童福祉施設出身学生に対する奨学金制度導入(次年度)に向け検討した。	従来の奨学金に加え、左記奨学金制度実施、学内外への周知に努める。その他、国・自治体の制度の調査、研究を行い、新たな経済的支援の枠組を検討する。
3	学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮充実	「合理的配慮」に関する学内FD・SD研修に参加。	学生支援委員会、学科コースはもとより、学生相談室(R6年度新設)ともさらなる連携を図りながら、サポート体制を強化する。
4	外国人留学生支援の充実	外国人留学生支援室を中心にサポートに努め、次年度さらなる日本語能力向上に資する日本語補助員及び補習講座の検討・承認。	令和6年度の左記開講開講に向け、日本語補助員の必要性を含め、学務委員会協議を経て運営会議に諮る。



入試広報委員会

年次報告書

委員長 寶來 敬章

I 令和5年度概況

1. 入試広報委員会運営

令和5年度の入試広報委員会は、以下の構成員により運営された。

委員長 寶來 敬章

委員 亀澤 朋恵、古谷 淳、川喜田 多佳子、上山 由紀子、
生駒 昌之、大橋 一善、眞崎 俊明、佐々木 秀英、久保田 奈央

本年度内の委員会は全12回開催された。

ここ数年間においては、新入試制度の導入や子ども学科における定員大幅超過等、大きな動きが見られたものの、人口減に加えて大学進学希望者の県外受験の傾向が戻るなど、今年度募集は厳しい状況が考えられる。また、キャリア育成学科介護福祉コースおよび子ども学科で実施している委託訓練入試といった新しい取り組みについても勘案しながら、より積極的な広報活動展開が求められた。

本年度の活動目標・ビジョンとして、以下事項が、委員会共有された。

- ・本学ブランディング強化（本学の伝統・歴史性、学科コースの魅力明示化）
- ・情報発信強化（インターネットを中心とした、途切れない広報展開）
- ・効果的な広報手段重点化（進学ブース増、オープンキャンパス内容精査等）
- ・チーム感醸成（職位、経験、教職、部署の垣根を越えた協力体制の構築）

2. 実施入試種別

- ・総合型選抜入試
- ・アスリート総合選抜入試
- ・学校推薦型選抜指定校推薦入試
- ・学校推薦型選抜一般推薦入試Ⅰ期・Ⅱ期
- ・学校推薦型選抜アスリート推薦（受験者なし）
- ・一般選抜入試Ⅰ期・Ⅱ期
- ・社会人等入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期（Ⅰ期とⅢ期は受験者なし）
- ・大学等卒業生入試（受験者なし）
- ・本学卒業生入試（受験者なし）
- ・海外帰国生徒入試（受験者なし）
- ・外国人留学生入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期
- ・委託訓練入試Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期

3. 問題作成者決定と委嘱

問題作成者については非公開とし、担当者通知後、学長より委嘱した。オープンキャンパスでの説明や外部問い合わせ時用に「過去問題集」も作成し、必要に応じて配付した。

4. 本年度入試実施上の留意点

入試広報委員会で、各回の入試の日程、タイムスケジュール、担当者、受験生

案内などを確認した。面接可能な教員数に限りがあり、出願締め切り後に面接の時間を早めたりすることで、筆記試験から面接までの時間に大きな隔たりがないよう調整した。

5. 本年度入試志願者と合格者

全学科・コース合計																							
	総合型	アスリート 総合型	指定校	アスリート 推薦	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般 Ⅰ期	一般 Ⅱ期	社会人 Ⅰ期	社会人 Ⅱ期	社会人 Ⅲ期	海外帰 国生徒	大学等 卒業生	外国人 Ⅰ期	外国人 Ⅱ期	外国人 Ⅲ期	委託訓練 Ⅰ期	委託訓練 Ⅱ期	委託訓練 Ⅲ期	転学科	合計
志願者数	97	5	119		3	5	1		3	1			1			32	4	1	4	7	4		287
受験者数	97	5	119	3	3	5	1		3	1			1			32	4	1	4	7	4		287
合格者数	96	5	119	3	3	5	1		3	1			1			8	2		2	6	2		254
入学予定者	96	5	119	3	3	4	1		2	1			1			8	2		2	6	2		252

子ども学科																								
	総合型	アスリート	指定校	アスリート	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般	一般	社会人	社会人			海外帰	大学等	外国人	外国人	外国人	委託訓練	委託訓練	委託訓練	転学科	合計
	総合型	総合型		推薦	専願	併願	専願	併願	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅲ期	国生徒	卒業生	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期		
志願者数	61	2	70			2			1	1							-	-	-	2	4	2		145
受験者数	61	2	70			2			1	1							-	-	-	2	4	2		145
合格者数	60	2	70			2			1	1							-	-	-	2	4	2		144
入学予定者	60	2	70			2			1	1							-	-	-	2	4	2		144

キャリア育成学科(両コース合計)																							
	総合型	アスリート	指定校	アスリート	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般	一般	社会人	社会人	社会人	海外帰	大学等	外国人	外国人	外国人	委託訓練	委託訓練	委託訓練	転学科	合計
	総合型	総合型		推薦	専願	併願	専願	併願	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	国生徒	卒業生	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期		
志願者数	36	3	49		3	3	1		2				1			32	4	1	2	3	2		142
受験者数	36	3	49		3	3	1		2				1			32	4	1	2	3	2		142
合格者数	36	3	49		3	3	1		2				1			8	2			2			110
入学予定者	36	3	49		3	2	1		1				1			8	2			2			108

キャリア育成学科オフィスワークコース																							
	総合型	アスリート	指定校	アスリート	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般	一般	社会人	社会人	社会人	海外帰	大学等	外国人	外国人	外国人	委託訓練	委託訓練	委託訓練	転学科	合計
	総合型			推薦	専願	併願	専願	併願	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	国生徒	卒業生	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期		
志願者数	21	3	34		3	3	1		2				1				1	1	—	—	—		70
受験者数	21	3	34		3	3	1		2				1				1	1	—	—	—		70
合格者数	21	3	34		3	3	1		2				1				1	1	—	—	—		70
入学予定者	21	3	34		3	2	1		1				1				1	1	—	—	—		68

キャリア育成学科介護福祉コース																							
	総合型	アスリート 総合型	指定校	アスリート 推薦	推薦Ⅰ期		推薦Ⅱ期		一般 Ⅰ期	一般 Ⅱ期	社会人 Ⅰ期	社会人 Ⅱ期	社会人 Ⅲ期	海外帰 国生徒	大学等 卒業生	外国人 Ⅰ期	外国人 Ⅱ期	外国人 Ⅲ期	委託訓練 Ⅰ期	委託訓練 Ⅱ期	委託訓練 Ⅲ期	転学科	合計
志願者数	15		15													31	3	1	2	3	2		72
受験者数	15		15													31	3	1	2	3	2		72
合格者数	15		15													7	1			2			40
入学予定者	15		15													7	1			2			40

※外国人入試：キャリア育成学科のみ実施

※委託訓練入試：子ども学科及びキャリア育成学科介護福祉コースのみ実施

Ⅲ 令和5年度の取り組み(課題と今後の改善計画)

1. 学生募集(高校訪問・ガイダンス含)

(1)年度当初に把握していた課題(昨年度から引き継いだ課題)

- ・(1)に挙げた課題を年度初めの委員会で確認する機会がなかったように思う。年次報告で挙げた課題を年度当初に精査し改善方策を協議する。
- ・他校がガイダンス業者への契約金や参加に係る費用の単価をあげているものの、引き続きガイダンス業者との友好的な関係を築きつつ、協定校を中心に高校進路へも本学にある分野のガイダンスは指名で呼んでもらえるよう取り組む。

- ・高田高校への積極的な企画提案を行う。例えば「出前授業」「面接指導講座」「幼稚園・保育園見学」「介護施設見学」などを能動的主体的に提案し実施していく。
- ・高校訪問時に職員だけでなく教員が訪問した方がより高い効果が得られる高校や時期を模索し、職員と同行する回を設けてはどうか。また、予算・労力等見直す。
- ・学生の意見をもとに、OC の内容や印刷物、SNS 等常にブラッシュアップしていきたい。
- ・保護者目線での学生募集を行っていく必要がある。保護者が気になること、保護者が知りたいところ、保護者を引き付けるものは何かなどを検討し、募集活動全般に生かしたい。その一方で、高校生、社会人、高校教員、保護者など立場の違うもの各々に対応して、的確な募集活動を体系的に整理していく必要があるのではないかと考える。
- ・オープンキャンパスでの保護者対象の説明会の充実を図る。
- ・オープンキャンパスでの教職員のモチベーション維持向上を図る。せめて昼食を出してほしいという声をいくつか頂いた。
- ・インスタグラム等の SNS の活用。アップ（更新）の回数を増やすために、学生広報スタッフの活躍の場を増やす。
- ・介護のガイダンスに行ける職員が不足しているように感じる。介護福祉コース教員数が限られていることから、入試広報係久保田さん以外の職員も対応できるとありがたい。
- ・介護福祉コースの「売り」になる内容を継続して考えていく必要がある。
- ・Web 出願について本格的に検討する。
- ・受験生、保護者が早期に出願先を決めてしまう傾向にあると言われている。オープンキャンパスへの参加などを通して様々な大学・短大から志望校を絞り込むのではなく、自分の知っている1～2の学校から選択する場合も多いようである。1年次から高校生、保護者と接触し、本学について知っていただけるよう戦略を練る必要があると思われる。
- ・高校生の4大指向が強まっている。短大の魅力や強みを明確にアピールする必要がある。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・学生広報スタッフの意見を積極的に取り入れた上で OC 等を進めることはできたと考えられる。現役大学生の姿は高校生だけでなく参加いただいた保護者へも肯定的な影響が期待できる。SNS 等の利活用も積極的に行うことができた。
- ・いずれも年初の課題は継続して取り組む必要があるが、OC をはじめとする広報スタッフの活躍と OC 内における保護者と接触する機会を設けたことに関しては効果が著しいと思われる。
- ・6～8月のオープンキャンパスで全て保護者説明会を実施した。各学科・コースで内容をかえ、それぞれのニーズに合わせた内容で実施できた。保護者対象の内容は学費や就職活動等の内容が主となり、概ね保護者の要望にysteていると考えられる。
- ・OC で保護者の参加が増加しており、保護者向け説明会やブース内での学生とのふ

れあう機会を設けたことによって、本学への関心を高めて頂けている様子が見られた。

- ・オープンキャンパスなどで保護者目線を意識した活動ができただけでなく、現役学生や卒業生へのインタビュー形式で語ってもらった。

- ・広報スタッフの学生目線の意見や取り組みは有益でありながら、学生募集の各種取り組み以外にもスタッフ自身のエンパワメントの機会になっている。

- ・入学案内や SNS の活用についてはとくに学生広報スタッフの尽力もあり、リアルタイムの学校の様子を発信できた。SNS での発信は、本学の学生の関心も惹起しているようである。

- ・高田高校で新たに総合型選抜対策の模擬面接、指定校推薦の模擬面接を実施した。

- ・高田高校への面接指導等の接触機会拡大が図られ、高田からの志願者増加につながったと考える。

- ・高校訪問において、入試広報委員による分担が図られ、回数負担でのメリハリや偏りの調整が図られたものと思われ、次年度も意識していきたい。

- ・高校訪問時には進路担当に対し、毎度くどいほど本学に対しての企画提案を持ちかけた。言葉は悪いが生徒さんのために本学を良いように使って欲しい、という切り口にしていくと、他の部分でも物事が頼みやすいと感じていただけるようで関係性も生まれる。どのような理由でも接触する機会を作ることを作ることが第 1 歩となる。

- ・Web 出願について、現状ではメリットはあまりないと考えられる。本学は受験者数が四年制大学に比して少ないうえ、多様な入試を実施していることによる。

- ・新たに 4 月に OC を実施することにしたほかには、特段の取組はなかったと反省している。

- ・介護福祉コースの募集に関して、ここ数年ガイダンス参加による知名度のアップ、高卒就職との違いや入学金・奨学金などの魅力を明確に打ち出したことによる効果を感じる。

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

- ・学校案内は Web での閲覧も可能になっている。

- ・学生広報スタッフの意見を積極的に取り入れた上で OC 等を進めることはできたと考えられる。現役大学生の姿は高校生だけでなく参加いただいた保護者へも肯定的な影響が期待できる。SNS 等の利活用も積極的に行うことができた。

- ・OC での保護者対象の内容は学費や就職活動等の内容中心で、概ね保護者の要望に応えられた。

- ・高校訪問の数は協定校や出願の有無などを勘案した上で調整した。

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

- ・3 月 OC にて広報スタッフ担当のブースを実施した。

(4)今年度 1 年間の活動、具体的内容

高大教育交流事業:模擬授業等(協定校)									
月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	形式	学年	開催場所	
5月19日	金	11:00~12:50	久居	福西		高大教育交流模擬授業	3	久居高校	
5月19日	金	13:00~14:30	高田	古谷	野呂 服部	高大教育交流模擬授業	3	高田短期大学	
5月19日	金	12:50~14:15	いなべ総合	金森		保育模擬授業(さんぽう)	2	いなべ総合学園高校	
5月20日	土	10:30~11:35	皇学館	寶来		高大教育交流模擬授業	2	皇学館高校	
6月14日	水	10:30~13:30	飯南	山口	野呂 上山	学校見学会	1	高田短期大学	
				佐々木	久保田				
6月16日	金	11:00~12:50	久居	笠原	大山	高大教育交流模擬授業	3	久居高校	
6月20日	火	13:35~15:25	相可	亀澤		体験授業		相可高校	
7月9日	土	8:55~9:45	伊勢学園	古谷		模擬授業	1	伊勢学園	
7月11日	火	13:30~15:00	名張	長倉		高大教育交流模擬授業	2	名張高校	
7月14日	金	13:15~15:00	相可	古谷		高大教育交流特別授業	1~3	相可高校	
11月10日	金	11:00~12:50	久居	寶来		高大教育交流模擬授業	3	久居高校	
11月16日	木	9:45~12:10	四日市四郷	川喜田	上山	職業別(ビジネス・福祉)体験授業	1	四日市四郷高校	
11月17日	金	11:00~12:50	久居	亀澤		高大教育交流模擬授業	3	久居高校	
11月20日	月	10:55~12:45	龜山	中川		高大教育交流模擬授業			
11月24日	金	11:00~12:50	久居	大野		高大教育交流模擬授業	3	久居高校	
12月8日	金	11:00~12:50	久居	中嶋		高大教育交流模擬授業	3	久居高校	
12月12日	火	15:20~16:55	名張	金森		高大教育交流模擬授業	2	高田短期大学	
12月15日	金	10:40~12:20	四日市西	榊原		模擬授業	2	四日市西高校	
1月23日	火	12:40~15:00	飯南	古谷	川喜田 中川	模擬授業	1	飯南高校	
1月24日	水	13:00~15:20	久居	福西		模擬授業	2	久居高校	
3月21日	木	13:40~15:10	高田	河内	川喜田 上山	特別授業	1~2	高田短期大学	

高大教育交流事業: ガイダンス(協定校)									
月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	担当者	形式	学年	主催
4月26日	水	12:30～14:00	いなべ総合学園	生駒			進路講義とパネル		ライセンスアカデミー
5月13日	土	10:30～13:25	明野	佐々木			学校別説明会	1～3、保護者	さんぽう
5月18日	木	11:00～12:00	松阪商業	久保田			学校別説明会		3 さんぽう
5月22日	月	15:30～17:00	高田	生駒	佐々木	久保田	意見交換会	教員	高大教育交流関係
5月24日	水	13:50～15:20	松阪商業	大橋	佐々木		系統・分野別説明会		2 ライセンスアカデミー
5月31日	水	13:40～15:10	飯南	久保田			学校別説明会		3 さんぽう
6月2日	金	12:00～14:20	皇學館	佐々木			学校別説明会		3 さんぽう
6月3日	土	9:30～12:00	高田	生駒			保護者会	保護者	高大教育交流関係
6月7日	水	13:00～14:35	飯野	大橋			系統別説明会		3 さんぽう
6月7日	水	13:10～15:20	四日市四郷	佐々木			学校別説明会		3 キッズ・コーポレーション
6月7日	水	14:05～15:25	相可	久保田			分野別模擬面接指導(短期大学)		3 さんぽう
6月12日	月	14:30～17:30	亀山	佐々木			学校別分科会	1～3	ライセンスアカデミー
6月14日	水	13:40～14:50	いなべ総合学園	久保田	野崎		進路講義		3 高大教育交流関係
6月14日	水	13:10～15:30	四日市四郷、四日市農芸、菟野	生駒			学校別説明会		3 ライセンスアカデミー
6月21日	水	12:50～15:10	三重	生駒			学校別説明会		3 さんぽう
7月10日	月	13:30～18:00	亀山	佐々木	久保田		総合型選抜対策		3 高大教育交流関係
7月12日	水	15:40～17:00	皇學館	佐々木			学校別説明会		3 さんぽう
7月13日	木	14:00～17:30	白子	佐々木	久保田		総合型選抜対策		3 高大教育交流関係
7月14日	金	12:30～16:00	高田	佐々木			なんでも相談	1～3	高大教育交流関係
7月18日	火	12:30～16:00	高田	生駒			なんでも相談	1～3	高大教育交流関係
7月18日	火	9:30～13:00	津商業	生駒			学校別説明会	1～3	さんぽう
8月1日	火	8:30～12:30	四日市四郷	佐々木	久保田		幼稚園・保育園見学バスツアー	1～3	高大教育交流関係
8月22日	火	13:30～16:00	三重	生駒	佐々木	久保田	総合型選抜対策		3 高大教育交流関係
8月25日	金	9:00～15:20	白子	佐々木	久保田		総合型選抜対策		3 高大教育交流関係
8月28日	月	8:40～12:10	津商業	生駒			就職面接指導		3 ライセンスアカデミー
9月1日	金	15:30～18:00	四日市商業	佐々木	久保田		面接講話		3 高大教育交流関係
9月19日	火	15:30～17:30	高田	佐々木			面接指導		3 高大教育交流関係
9月21日	木	15:30～17:30	高田	生駒	佐々木		面接指導		3 高大教育交流関係
10月4日	水	13:10～15:20	久居	佐々木			なるには講座	1	キッズ・コーポレーション
10月23日	月	15:30～17:00	高田	佐々木	久保田		面接指導		3 高大教育交流関係
10月26日	木	15:30～18:00	四日市商業	生駒	久保田		面接指導		3 高大教育交流関係
10月27日	金	12:00～15:20	皇學館	久保田			分野別(保育・事務)説明会	1・2	ライセンスアカデミー
11月8日	水	15:30～18:00	四日市商業	佐々木	久保田		面接指導		3 高大教育交流関係
11月8日	水	13:50～15:20	松阪商業	生駒			学校別分科会		2 ライセンスアカデミー
11月13日	月	15:30～18:00	四日市商業	佐々木	久保田		面接指導		3 高大教育交流関係
12月7日	木	10:20～11:50	四日市四郷	佐々木	久保田		学校見学		2 チェルコミュニケーション
12月8日	金	12:40～14:50	四日市商業	久保田			学校別説明会		2 ライセンスアカデミー
12月11日	月	10:50～12:40	四日市四郷	久保田			学校別説明会		2 チェルコミュニケーション
12月13日	水	13:50～15:15	松阪商業	生駒			分野別(保育)説明会		1 さんぽう
12月13日	水	15:00～16:00	宇治山田商業	佐々木	久保田		分野別(保育・福祉)説明会	1～3	高大教育交流関係
12月14日	木	12:55～14:15	津商業	生駒			学校パネルディスカッション		1 ライセンスアカデミー
12月14日	木	12:55～15:15	津商業	佐々木			学校別説明会		2 ライセンスアカデミー
12月15日	金	14:10～15:30	相可	生駒	久保田		分野別(保育)説明会	1・2	キッズ・コーポレーション
12月15日	金	9:25～11:45	明野	佐々木			学校別説明会		2 ライセンスアカデミー
1月26日	金	13:55～15:15	白子	佐々木			系統・分野別(ビジネス)説明会		1 ライセンスアカデミー
2月13日	火	13:00～15:05	津商業	佐々木			系統別(保育)説明会		1 さんぽう
2月14日	水	13:00～14:35	飯野	野呂			系統別(事務)説明会		1 さんぽう
2月14日	水	12:55～15:15	白子	佐々木			系統別・学校別説明会	1・2	ライセンスアカデミー
2月14日	水	13:05～15:25	相可	久保田			学校別説明会		2 さんぽう
2月15日	木	11:50～15:50	名張	生駒			学習成果発表会	1～3	
2月16日	金	9:50～12:20	四日市商業	久保田	佐々木		職業別(保育・事務)説明会		1 さんぽう
3月7日	木	12:20～14:00	皇學館	久保田			分野別(介護福祉)説明会	1・2	さんぽう
3月13日	水	10:00～12:10	飯南	久保田			学校別説明会		2 さんぽう
3月13日	水	9:20～11:40	明野	生駒	佐々木		職業別(保育・事務)説明会		1 さんぽう
3月14日	木	10:30～11:40	明野	長倉			学校別説明会(保育・幼児教育)		2 さんぽう
3月15日	金	12:45～15:05	高田	佐々木	久保田		系統・分野別(保育・ビジネス)説明会	1	ライセンスアカデミー

協定校外模擬授業等									
月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	担当者	形式	学年	開催場所
6月14日	水	12:40～15:00	志摩	川喜田			分野別体験授業	2	志摩高校
7月6日	木	10:00～12:50	伊賀白鳳	長倉	佐々木	久保田	学校見学・模擬授業	2	高田短期大学
7月8日	土	10:00～12:00	伊勢学園	寶来	久保田		学校見学・模擬授業	2	高田短期大学
7月11日	火	12:40～14:00	木本	青木			模擬授業(昭栄広報)	2	木本高校
10月25日	水	13:30～14:50	久居農林	青木			職業別(保育)体験授業	2	久居農林高校
12月14日	木	9:15～10:25	鳥羽	古谷	上山		分野別(保育・幼児教育)体験授業	1	鳥羽高校
12月14日	木	14:05～15:05	英心桔梗が丘	久保田			職業別(保育)体験授業	1	英心桔梗が丘校
12月19日	火	13:30～14:40	木本	佐々木	久保田		分野別(保育・介護福祉)模擬授業	1	木本高校
2月14日	水	13:10～15:10	伊賀白鳳	川喜田			分野別(営業・販売・サービス)体験授業	1	伊賀白鳳高校
2月16日	金	12:30～13:40	英心	服部			分野別(介護福祉)体験授業	1	シンフォニアテクノロジー
2月16日	金	9:30～12:10	菰野	伊東			職業別(一般・オフィス)体験授業	1	菰野高校
3月18日	月	9:50～12:10	稲生	川喜田			職業別(一般事務・秘書)体験授業	1	稲生高校

高校内ガイダンス									
月日	曜	時間	高校名	担当者	担当者	担当者	形式	学年	主催
4月19日	水	13:30～15:10	菰野	久保田			系統別説明会	2	さんぽう
5月10日	水	13:20～15:00	志摩	生駒			学校別説明会	3	さんぽう
5月20日	土	10:40～12:50	暁	久保田			学校別説明会	3	昭栄広報
5月20日	土	14:20～15:45	伊勢学園	佐々木			学校別入試対策・マネープラン	3	ライセンスアカデミー
5月24日	水	8:40～10:55	四日市農芸	野崎	久保田		学校別説明会・模擬面接指導	3	さんぽう
5月24日	水	13:00～14:55	桑名北	生駒			学校別説明会	2～3	昭栄広報
5月24日	水	13:10～15:30	稲生	久保田			学校別分科会	3	ライセンスアカデミー
5月24日	水	13:25～15:05	松阪工業	竹内			学校別説明会	3	さんぽう
5月25日	木	12:45～14:55	白山	久保田			学校別分科会	3	ライセンスアカデミー
5月31日	水	13:50～15:10	久居農林	生駒			学校別入試対策	3	ライセンスアカデミー
6月7日	水	13:50～15:30	朝明	生駒			学校別説明会	3	さんぽう
6月9日	金	11:00～12:20	四日市メリノール	佐々木			学校別説明会、入試対策講座	3	ライセンスアカデミー
6月9日	金	13:00～15:00	英心	生駒			学校別説明会	3	ライセンスアカデミー
6月14日	水	12:50～15:10	鳥羽	藤山			学校別説明会	3	さんぽう
6月21日	水	14:50～16:15	木本	佐々木			学校別分科会	3	ライセンスアカデミー
7月8日	土	9:30～11:30	伊勢学園	生駒			学校別説明会・模擬面接指導	3	ライセンスアカデミー
7月11日	火	10:00～11:30	白山	生駒			学校別説明会、オープンキャンパスガイダンス	2	ライセンスアカデミー
7月13日	木	10:50～12:10	紀南	生駒			分野別(保育)説明会	2	さんぽう
8月24日	木	12:40～16:50	鈴鹿	生駒			鈴鹿地区高校就職希望者模擬面接指導	3	ライセンスアカデミー
8月21日	月	9:00～12:00	英心	佐々木	久保田		総合型選抜対策	3	高田短期大学
9月28日	木	14:10～15:10	鈴鹿	久保田			系統・分野別(福祉)説明会	2	ライセンスアカデミー
10月5日	木	12:50～15:10	鈴鹿	佐々木			系統・分野別(医療事務・医療秘書)説明会	1	ライセンスアカデミー
10月6日	金	8:50～10:10	白山	佐々木			在学生インタビュー		さんぽう
10月13日	金	10:30～12:10	尾鷲	佐々木			分野別(保育・オフィス)説明会	2	さんぽう
10月25日	水	15:15～15:50	久居農林	青木			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
10月28日	土	10:00～11:30	伊勢学園	大橋	生駒		学校見学	2	ライセンスアカデミー
11月15日	水	13:50～15:10	菰野	生駒			進学パネルディスカッション	2	ライセンスアカデミー
11月24日	金	13:50～15:00	英心	久保田			系統・分野別(保育・幼児教育)説明会	2	ライセンスアカデミー
11月29日	水	14:10～15:30	稲生	佐々木	久保田		分野別(保育・介護福祉)説明会	1	JSコーポレーション
12月11日	月	9:30～12:20	伊賀白鳳	佐々木			学校別ガイダンス	1・2	ライセンスアカデミー
12月12日	火	10:00～12:30	白山	佐々木	久保田		学校見学会	2	ライセンスアカデミー
12月12日	火	11:05～12:20	暁	生駒			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
12月14日	木	9:10～11:30	白山	久保田			学校別説明会	2	ライセンスアカデミー
12月19日	火	9:20～11:30	稲生	生駒			学校別分科会	2	ライセンスアカデミー
12月20日	水	13:30～14:40	木本	佐々木			系統別(保育)説明会		
12月21日	木	10:20～12:40	桑名北	佐々木			職業別(事務)・学校別説明会	1・2	さんぽう
1月24日	水	12:20～14:30	志摩	佐々木	久保田		職業別(保育・事務)説明会	1	さんぽう
2月6日	火	12:50～15:10	伊勢学園	佐々木			学校別説明会	2	さんぽう
2月13日	火	13:40～15:10	伊勢学園	河内			職業理解(保育)ガイダンス	1	チエルコミュニケーション
2月14日	水	12:40～14:00	志摩	生駒			系統・分野別(保育)マネープラン説明会	2	ライセンスアカデミー
2月16日	金	12:45～14:40	朝明	生駒			学校説明会	1・2	チエルコミュニケーション
3月5日	火	10:25～12:05	鳥羽	佐々木	久保田		分野別(保育・介護)説明会	2	さんぽう
3月7日	木	10:50～12:10	紀南	佐々木			分野別(保育・介護)模擬面接指導	2	さんぽう
3月13日	水	10:50～12:00	久居農林	藤澤			学校別説明、学費説明	2	キッズ・コーポレーション
3月14日	木	10:50～12:00	久居農林	権部			職業別(保育)説明会	1	さんぽう
3月18日	月	9:50～12:10	稲生	久保田			学校別説明会	2	さんぽう
3月18日	月	9:30～11:50	四日市メリノール	生駒			学校別説明会	2	さんぽう
3月19日	火	12:30～14:00	四日市農芸	久保田			学校別説明会	1・2	ライセンスアカデミー

会場ガイダンス								
月日	曜	時間	会場	担当者	担当者		ガイダンス名	学年 主催
4月24日	月	15:45～18:00	伊勢観光文化会館	久保田			会場ガイダンス	1～3 チエル
4月25日	火	15:50～18:00	アスト津	佐々木	久保田		会場ガイダンス	1～3 チエル
4月27日	木		四日市体育館	佐々木			会場ガイダンス	1～3 ライセンスアカデミー
5月29日	月	15:45～18:00	四日市都ホテル	久保田			会場ガイダンス	1～3 チエル
6月2日	金	15:40～17:30	伊勢観光文化会館	佐々木			会場ガイダンス	1～3
6月6日	火	16:00～18:30	伊勢観光文化会館	佐々木			会場ガイダンス	1～3 日本ドリコム
6月7日	水	16:00～18:30	四日市市文化会館	佐々木			会場ガイダンス	1～3 日本ドリコム
6月16日	金	15:30～18:30	アスト津	佐々木			会場ガイダンス	1～3 日本ドリコム
7月11日	火	13:30～16:30	メッセウイングみえ	佐々木	久保田		体験ブース、会場ガイダンス	1～3 さんぽう
9月20日	水	16:00～18:00	アスト津	佐々木			会場ガイダンス	1～3 チエル
9月22日	金	15:45～18:00	ホテルグリーンパーク鈴鹿	大橋			会場ガイダンス	1～3 チエル
9月26日	火	15:45～18:30	伊勢観光文化会館	竹内			会場ガイダンス	1～3 ライセンスアカデミー
11月1日	水	13:30～17:00	ホテルグリーンパーク鈴鹿	久保田			会場ガイダンス	1～3 さんぽう
11月14日	火	16:00～18:00	四日市都ホテル	久保田			会場ガイダンス	1～3 チエル
11月20日	月	13:30～17:00	アスト津	久保田			会場ガイダンス	1～3 さんぽう
11月20日	月	16:00～18:00	伊勢観光文化会館	佐々木			会場ガイダンス	1～3 チエル
2月15日	木	16:00～18:30	伊勢観光文化会館	佐々木			会場ガイダンス	1～3 日本ドリコム
3月14日	木	9:00～12:45	四日市ドーム	亀澤	久保田		体験授業、会場ガイダンス	1～3 チエル

日本語学校、留学生対象会場ガイダンス								
月日	曜	時間	学校名	担当者	担当者		形式	対象 開催場所、主催
6月21日	水	10:20～14:35	四日市日本語学校	久保田			学校別説明会	2 四日市日本語学校
6月28日	水	10:00～14:30	インターナショナル日本学校	久保田			学校別説明会	1～2 インターナショナル日本学校
2月29日	木	13:30～15:30	じばさん三重	久保田			学校別説明会	1～2 じばさん三重

(5) 次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・取捨選択をする場面、無理してでも頑張らないといけない場面等見極めつつ、引き続きガイダンスを大切にしていきたい。
- ・学校紹介の動画は欲しい。学生広報スタッフで SNS チームを結成し、インスタだけでなく、TikTok への投稿等を活性化したい。
- ・専門学校の広報のあり方など見習うべきところは、可能な範囲で取り入れてみても良いと思う。
- ・高校独自のカリキュラムのなかで、保育や介護等の現場での実習や学習機会を設けている高校が少なからずあるようである。従来の出前授業だけではなく、そのようなカリキュラムの中での交流をはかることはできないだろうか。
- ・保育実践系の公開講座・出張授業を用意するべきであるように感じている。
- ・高校から高短へ学校見学に来る学生に、時間を配慮して、先輩からの話があるとよい。
- ・高校生が本学を見学に来る際、教員にもっと周知した方がよいと思う。事務局では朝礼等で共有できている可能性もあるが、教員が知る機会はあまりないので。
- ・オープンキャンパスの参加者を増やすために、現役学生が母校に働きかける仕掛けを検討する。具体的には、現役学生に「オープンキャンパス紹介状」を配布して母校や近所の高校生に広報活動をしてもらい、オープンキャンパスに参加する高校生から紹介者の名前を書いた「オープンキャンパス紹介状」を回収し、その紹介者へ返礼品を送る、という方法はどうか。
- ・保護者が知りたい内容にのみ特化したリーフレットを作成・配付する。
- ・高田高校への企画提案は十分取り組めなかった。高校の進路担当に対して積極的に働きかける。

・高校訪問に関して、アポ取り、面談後のフォローなど、メールを活用することで先方の時間的・心理的負担感軽減につながることもあると考える。初回訪問時にメールアドレスを入手し、定期訪問に捉われないチャンネルを確保することも有効ではないか。

・インスタは子ども学科が多いので、オフィスや介護も増やす。

・オープンキャンパスの試みとして、高校生ではなく小学生・中学生に保育・幼児教育に興味を持ってもらう回を用意することが、本学の持続可能性を中・長期的な視野で考慮すると良いと感じる。

2. オープンキャンパス

(1) 年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

① 広報に関すること

・高校や高校生に向けて配布しているイベントチラシ等については教員に事前に共有してほしい。

・各回の具体的内容を早い段階でチラシやホームページに公開し、企画・内容への関心からの参加を促す。

・オープンキャンパス準備風景もインスタ等で頻繁にアップできると良い。

・これからの広報の方向性を決める。限られた予算と人員でいかにアピールするか、ターゲットとする若年層の情報キャッチの方法と嗜好性を捉えた広報の検討。＊紙よりネット・SNS

・広報の対象の拡大。社会人、委託訓練入試も意識した広報の検討。

② ブースに関すること

・ブース内容が出願数を左右するとの懸念があるが、参加アンケートのコメント等の検証も必要。

・保護者企画の充実検討。短大側の企画の意図を明確にするとともに保護者のニーズも捉えた内容、広報の方法（気軽に参加しやすい等）の検討。

・学科と入試広報課との連携による内容充実。

③ 学生と連携した OC

・学生広報スタッフを中心に学生への意見聴取を行うことも含め、高校生が求める内容、参加者目線の内容の検討が必要。

・学生主体のオープンキャンパスをさらに意識した企画や実施方法の検討。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

・オープンキャンパス準の様子や学生のコメントなど積極的に SNS に投稿した。オープンキャンパスの数が多くなることも考えられるので、情報をアップする際の注意点は意識しながら学生目線での情報効果に取り組めた。

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

・広報スタッフ担当のブースの実施。概ね肯定的な評価が多かったと考えられる。

(4)今年度1年間の活動、具体的内容

・2023/6/10 (112名)、7/9 (121名)、8/5 (207名)、8/20 (211名)、12/17 (37名)、
2024/3/10 (83名) ※参加人数は保護者除く

【参考】学科別の参加人数(第1回から第4回まで)および過去5年の参加人数は下の図の通り。

		2019年 (令和元)	2020年 (令和2)	2021年 (令和3)	2022年 (令和4)	2023年 (令和5)	うち2024年
子ども学科	第1回	118	96	88	77	70	62
	第2回	115	140	123	80	65	57
	第3回		97	85	135	121	97
	第4回			60	124	134	61
	ミニ1				11		
	ミニ2				21		
小計		233	333	356	448	390	277
キャリア育成学科 オフィスワークコース	第1回	41	36	24	16	35	35
	第2回	39	40	33	29	37	32
	第3回		35	20	63	64	55
	第4回			26	42	50	28
小計		80	111	103	150	186	150
キャリア育成学科 介護福祉コース	第1回	19	5	4	6	7	6
	第2回	0	27	15	18	19	16
	第3回		10	6	23	22	21
	第4回			6	9	27	17
小計		19	42	31	56	75	60
第1回小計		178	137	116	99	112	103
第2回小計		154	207	171	127	121	105
第3回小計			142	111	221	207	173
第4回小計			0	92	175	211	106
合計		332	486	490	654	651	487
翌年の子ども学科入学者数		129	190	158	137		
翌年のキャリア育成学科オフィスワークコース入学者数		68	69	61	57		
翌年のキャリア育成学科介護福祉コース入学者数		26	24	31	34		

(5) 次年度に向けた課題、改善すべき点

・限られた人的資源をどのように活用するか、学校全体で把握する機会があってもいいと思う。ともすれば担当教職員にみに任せられることが生じるのは課題であると考えられる。

・オープンキャンパスの実施回数及び内容の整理と検討。

・ボランティア学生の選別。多くの学生が問題はないがゼミ内での選別が機能していない様子も窺える。どうしても同一ゼミ内でボランティアが学生を出す必要があるのかどうか、ないならどのように募集して・指導するのかについて検討。一部の学生はオープンキャンパスのボランティアを理解していないように見えた。

3. 入試検討・追跡調査

(1)年度当初に把握していた課題(昨年度から引き継いだ課題)

・社会人入試の面接には総合型と同様、自由に質問する形にしてはどうか。または質問数はそのまま、自由に質問する時間を多くとってもよいとするなど。

・次年度は在日外国人の出願増が予想され、日本人入学者数の募集も考えた上で留学生を確保する。

・試験会場の事前清掃の徹底。

・留学生入試における選択問題の検討。簡単な問題でも良いので記述式を中心とした問題へ。

・今後、更に拡大することが予想される委託訓練入試については、受験者の意向及び他の養成校の

入試手法を勘案の上、入試方法の見直しを検討する。

- ・入試担当者事前打ち合わせの時期や方法を変更・簡略化する。時期は少なくとも出願締め切り後にすべき。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

・(1)の課題については継続中のものも多いが、おおむね改善の方向へ進んでいると考える。

・面接の試験問題の作成に注力した。現役生に関しては、コロナ禍が沈静化した情勢を鑑み、本学のアドミッション・ポリシーを踏まえながら社会への関心を高める内容を改めて提示した。社会人や委託訓練生等、既卒の受験生については、既卒者の経験や知識を踏まえた問題の作成を心がけた。

- ・R6年度入学を希望する介護福祉コースの学生は日本人学生も多く、又留学生の受験も増えた。それぞれの兼ね合いを考えると同時に委託訓練生の人数も見据えた入試の検討ができていた。

・留学生の面接での質問等、統一性をもってできたことは良かったと思う。

・事前打合せのスケジュールを簡素化できていたものと思われる。形式的ではなく、ケースバイケースの対応ができていたものと思われる。また、面接後の教員への配慮もできていたと思われる。

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

(4)今年度1年間の活動、具体的内容

- ・8月31日入試問題検討会

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

(1)で指摘されていた「今後、更に拡大することが予想される委託訓練入試については、受験者の意向及び他の養成校の入試手法を勘案の上、入試方法の見直しを検討する」について、現状は枠拡大の過渡期であり、継続的に検討が必要だと思われる。

・面接の質問等で現役生との兼ね合いが判断できるような内容を検討する必要がある。

・入試問題の内容が筆記と面接で重なる事があった。事前に問題作成者に再度作成の必要性が生じる旨を含みおくか、検討会で何らかの形で決着させるか、問題作成の二度手間防止や負担軽減について検討をする。

・今後益々増加していく通信制学校に対応する入試形態の検討。

・社会人入試の自由な質問について、詳細な検討が必要。

・入試やOCの際の試験会場(教室)、ロッカーの上、廊下の共有スペース等の整理整頓の徹底。

- ・介護福祉コースの学生をどのように維持していくか、オープンキャンパスや高校との連携の強化。

- ・留学生の面接は、日本語がわかる学生とわからない学生は把握しやすいが、中間層の選出が難しかった。
- ・留学生の口頭試問（音読）で、ほとんどの留学生が適切に答えることができなかった。文章の難易度が高く、留学生間の日本語運用能力の差が確認しにくかったと感じる。

4. 高大教育交流

(1) 年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

- ・特に高校生が通常授業を見学できる機会や高校教員への広報活動。
- ・「高校生への接触・広報」と「高校教員への接触・広報」の整理や役割分担、実施方法の検討。
- ・学生の成長事例の収集・把握をした上で、高校へのフィードバック。
- ・子ども学科の自然保育の取組みに関心のある学生の募集という観点から、例えば、四日市農芸、久居農林など自然や森林教育に近いコースに在籍する生徒を巻き込んだ取組みを本学の森で実施することの検討。
- ・介護福祉分野に興味のある生徒対象の介護施設見学バスツアーを実施するのであれば、どのような内容で行うのかを精査する必要があると感じる。高齢者施設は感染予防対策が厳しいため施設内見学はまだ難しい状況にある。食事体験を実施するのであれば、外国人留学生は宗教上の問題で食べられない物が多く、事前の把握が難しい。
- ・高大教育交流連絡協議会のスケジュールがタイトすぎるので検討の必要がある。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・一部の協定校以外は業者や社会福祉協議会を通したものではあるが、昨年度の本学見学バスツアーが非常に効果的であり、今年度の受験につながったと感じる。今年度は7校（名張、飯南、高田、白山、伊賀白鳳、伊勢学園、四日市四郷）の見学があり、学年は学校によって違うが、いずれも楽しく見学していただけたと感じる。
- ・見学に来た高校生がおやこ広場を見学できるなど、授業見学以外の取組を実施した。
- ・高大教育交流連絡協議会のスケジュールを若干緩やかにした。
- ・高校での体験授業については、次年度以降の種まきとして多くの高校生と接触しておくことを優先にし、需要のあるなしに関わらず、可能な限り参加した。

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

- ・（学生募集(2)でも記載したが）高田高校とあらたに総合型選抜対策の模擬面接、指定校推薦の模擬面接を実施した。クラスによって面接対策の進み具合は様々だったので、事前に本学の入試に合わせた対策が個別で行えたのは非常に効果があった。幼稚園見学バスツアーに関しても実施まではいたらなかったが前向きに検討していただくことができた。次年度も引き続き提案する。
- ・本年度は期の途中で教員が抜けたり、来年度退職される先生の広報ボリュームを下げる必要があったことなど、マンパワー不足で高校生向け授業ができる教員に限り

があった。学科長と密に戦略を練りながら、見劣りする内容のものを出さないような広報を心がけた。

- ・オープンキャンパスで、高校生に向けてファミリーコンサートを行った。今回の振り返りを活かし、次年度も実施したい。

(4)今年度1年間の活動、具体的内容

2/5 現在

- ・出前授業、本学での特別授業の実施（年間通じ約 40 回）
- ・高校内進学ガイダンスの実施（年間通じ約 120 回）
- ・保護者会への出席（1 回）
- ・面接対策講話の実施（2 校 2 回）
- ・個別、集団面接指導の実施（2 校 4 回）
- ・幼稚園見学バスツアー（1 校 1 回）
- ・総合型選抜入試対策講座（5 校 7 回）
- ・高大教育交流連絡協議会開催（2 月）
- ・体験授業、分野別ガイダンス内訳（保育：48 件、オフィス系：19 件、介護：14 件）

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・あらたな協定校の検討。実業系の高校では進路指導部よりコースや学年等に働きかけるほうが有益であると感じる。なるべく教員の負担が増えないよう運用については検討が必要だが、連携を結ぶことにより本学の魅力を知っていただく機会が増えると感じる。
- ・協定校との取り組みについて、現在は高校訪問の際に口頭での説明と、年 1 回の協議会で簡単な紹介を行っているが、チラシ等作成し可視化できるようにしたい。進路指導部の先生だけではなく、学年の先生にも共有できるようにしたい。
- ・進路指導は進路指導部でなく学年（担任）が担っている学校も多い。進路指導部への働きかけでなく、学年団へのアプローチを積極的に行う必要があると考える。
- ・協定校のみを対象とする大学説明会などの実施。
- ・学校見学については協定校への打診、業者への要望も出し、さらに校数を増やし、学校や授業を見学できる機会を増やしていきたい。また、可能であれば高校の教員にも同行していただけるよう打診する。
- ・高校生が通常授業を見学に来てもらうことは、学生(短大の)にとっても良い刺激になると思う。前もって教員に知らせてもらえば、可能だと思うので実践していきたい。
- ・高大教育交流連絡協議会が次年度 2 回になるが、1 回目は進路指導主事だけではなく、学年主任もしくは 3 学年の先生にも参加をお願いできないか。進路でも学年でも本学への共通の認識を持っていただけるようにしたい。
- ・連絡協議会を年 2 回実施の方向で調整しており、協議会の内容の検討が必要。
- ・高校訪問で入学してからの学生の様子を伝え、話が盛り上がり又喜んでいただ

- けるため、特に学科が違う場合、情報を集めてから訪問するようにした。
- ・高校訪問時は、入学してからの様子をゼミ担当に聞き準備をする。
 - ・高校は、卒業生の成長を高校は気にかけてくださっている。それに関し、より具体的なエピソードをもって説明できるようになれば良いと思う。
 - ・子ども学科の自然保育の取り組みに関しては、興味のある高校生も多いと思うので、どんどんアピールしていきたい。
 - ・他校との差別化にあたり、森林の活用を考え、オープンキャンパスで自然保育に関する取組（模擬授業）を行った。
 - ・来年度は、新型コロナウイルスに対して十分な感染対策をし、介護施設見学ができるとよい。感染対策の説明(講義)を入れてから、見学に行くのも良い学びになると思う。ロボットの取り組みや、又レクリエーションを見学するのも良い刺激になると感じる。こちらの趣旨に賛同してもらえ、且つ受け入れ態勢のある施設で実施できるとより良いと思う。
 - ・より優秀な学生を送っていただけるような本学の魅力、強みを高校側に発信する。

5. ホームページ・SNS

(1)年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

- ・学生広報スタッフからの写真や動画の提供をさらに増やし、ストーリーズも活用していきたい。
- ・SNSの更新に際し、高校生が興味のある内容を学生広報スタッフの意見も取り入れて行う。
- ・インスタグラム掲載を学生広報スタッフが行うことで、より早く掲載ができるのではないかな。
- ・SNSについて、動きのある科目や演習科目を中心に掲載できるよう心掛けてきたが、広報的にどのような内容が求められているのかがわからなかった。その辺り、学生の意見も取り入れられると良いと感じる。
- ・高校生、学生へ訴求力が高いメディアとして、インターネット、SNSを重点的に使用することは必須であろう。すでに年度当初の課題に挙がっているが、学生目線の発信内容、高校生目線に立ってより伝わりやすい方策（SNS活用含め）を継続的に検討する必要がある。学生の広報スタッフの活用や学生の意見聴取を行いながら、情報発信にかかわるSNS使用にあたってのガイドライン作成などは急務であろう。
- ・SNSおよび公式WEBについては、メインターゲットである高校生目線での発信が重要である。
- ・公式WEBについて、導線の簡略化と情報の一元化が必須である。現在多階層にわたって掲載されている各種情報についてグループ分けののち一元化を行う。
- ・公式WEBのTOPページについて、情報の充実化と現代的なページレイアウトへの刷新。
- ・受験生向け特設ページも新規開設し、そこに受験生情報を一元化することが効果的である。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・学生広報スタッフに毎月1記事ずつInstagramの投稿を任せた。授業の様子やそれ以外の時間の過ごし方などいろいろな内容があったが、思ったより硬い内容になってしまった。次年度は運用方法を見直す必要があると感じた。
- ・8月20日のファミリーコンサートを行うオープンキャンパスに先立ち、そのリハーサルの様子を学生広報スタッフに撮影してもらった。その際に、「ありがとうの花」を演奏している。
- ・入試広報の学生から私の授業の際、Instagramにアップしたいので、写真をとってよいかと話しがあったことは良かったと思う。
- ・公式WEBについては導線の簡略化、既存コンテンツの改善と集約、そして新たな訴求コンテンツの作成を行った。

(3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと

- ・子どもと言葉の授業では、手作り絵本制作を行っている。その際の製作プロセスと発表の様子を撮影してもらい、発信してもらった。
- ・おやこひろばWEBサイトを全面リニューアルした。

(4)今年度1年間の活動、具体的内容

(2/15 現在)

- ・Instagram年間77件
- ・フェイスブック年間61件
- ・HPお知らせ年間42件
- ・SNSから情報発信することを意識したゼミ活動を計画。
- ・年度末更新に向けた、公式Webの情報見直し。

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・公式WEBやSNSは受験生に訴求できる内容に注力し、掲載する情報についても取捨選択していく必要がある。むやみやたらに情報が掲載されていると導線が複雑になり逆効果。
- ・学生広報スタッフが行うInstagramの運用をもう少し精査する必要があると感じる。学生たちの意見を聞き、より高校生が気になる内容で掲載できるような運用を目指したい。
- ・発信してきたSNSについて、閲覧したかどうか、本学の魅力を感じたかどうか、入学する決め手につながったかどうかなど、入学者全員から意見聴取できるとよいのでは。

(新入生アンケートに盛り込むには厳しいと思うのでどうすべきか)

- ・公式Webに「保護者の方へ」のようなカテゴリは必要ないだろうか。他大学では、保護者用ポータルサイトへの入り口になっていたりするが。本学の場合、新たなページを作成するのは大変であるため、まずは保護者に必要な情報のリンクから初めてみるのはどうだろうか。

- ・広報（ホームページ）に関して、ほぼ貢献できていなかった。大変申し訳なく感じている。次年度はより貢献していけるよう、事務職員と連携していきたい。
- ・次年度の保育内容一言葉では、創作劇の実施を検討している。そのプロセスや実際の様子について発信できたらと考えている。
- ・委託訓練生の広報(時期が限られているが)は、ホームページの社会人のところに入れるのではなく、別枠でぱっと見て分かるような掲載方法が良いのではないか。
- ・Instagramだが、介護が少ないのでもっとアップできると良い。医療的ケアやパワーポイントを用いたゼミ発表等のアップがあると良いと思う。
- ・Instagram掲載の学生活動について、入試広報内だけでなく、もっと広く学科内等でも共有し、授業に差しさわりのないか注意しながら、高短の授業をアップし、魅力を発信できるとよい。
- ・ホームページでInstagramが下側にあるが、トップページでマーク等掲載があるとよい。
- ・受験生向け特設ページの新規制作ができなかった。
- ・現 WEB サイト環境では、内製による大幅リニューアルは望めない。WEB サイト更新予算もない状況で、現状維持が現実的な目標となる。

6. 大学案内

(1) 年度当初に把握していた課題（昨年度から引き継いだ課題）

- ・本学は女子学生の方が圧倒的に多いのは事実であるが、男子学生にも着目してもよいのではないか。表紙は男女で撮影するなど。
- ・介護福祉コースは日本人も掲載しつつ、多様性のあるコースである魅力も発信できると良い。
- ・現場で活躍する外国人留学生を掲載しても良いのではないかと考える。
- ・全体のイメージラフの提出が遅く、担当者との会議や学生たちの意見を聞く機会が遅れた。次年度は遅くともメインの撮影までには全体のラフをもらい進めるようにしたい。

(2) (1)の課題に対して、本年度取り組んだこと、改善したこと

- ・今年度から制作者の新しい3年契約が開始となったが、前年度までの3年間と同様、さらに内容のブラッシュアップを意識しながら制作を進められた。
- ・子ども学科において、学生モデルの男女比については学生の実情を勘案した上で結果的に叶わなかった部分もあるが、十分に配慮して候補を立てることができた。
- ・現場で活躍する留学生(ビヌさん)を掲載してもらい、多様性という面が分かりやすくなった。
- ・例年に引き続きではあるが、入試と委員との間で学生の情報を密にやりとりしながら、モデルとして確かな学生選出への情報交換を行った。
- ・担当授業、ゼミ活動の中で、モデルとして適切な学生を育成することも普段から心がけている。

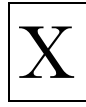
- (3) (2)で記載した取り組みのほか、本年度、新たに取り組んだこと、改善したこと
- ・今年度は事前にすべての学生モデルを決めず、撮影の都度必要なモデル学生を選んだ。ある程度学生の様子（成績や学生生活の態度）を把握した上で選抜できた。
 - ・入学案内の誌面づくりにおいて、学生の意見が聞けたことは有益であったと考える。高校生と年齢や感性に近い学生の指摘は的確であり、非常に参考になった。

(4)今年度1年間の活動、具体的内容

- 4月 入学式、新入生研修撮影
- 5月～ 学生モデルの選定
- 6月～ 学生モデルから承諾書回収
- 7月 イメージ原稿の確認、表紙や学科扉の撮影
- 8月 オフィス、介護実習撮影、OC撮影
- 10月 学生、高短祭の撮影
- 11月 保育実習、卒業生、授業の撮影
- 12月 授業風景、学生、卒業生の撮影
- 1月 学生の撮影
- 2月 1稿回覧
- 3月 2稿、最終稿提出、印刷（4月中旬完成予定）

(5)次年度に向けた課題、改善すべき点

- ・全学科ともに学生モデルの多様性について意見があり、男子、社会人、留学生等、多様な学生を受け入れているイメージを発信することは有意義であると思われる。
- ・引き続き学生の意見を取り入れつつ、制作を進める。
- ・引き続き表紙で男女の写真を載せることも検討する。また、男子学生を大きく取り入れる箇所があっても良いのではないかな。
- ・入学案内の介護福祉コースページ(p23)に実習の写真があるが、夏祭りやレクリエーション等動きのある写真があっても良いように感じる。



キャリア支援委員会

年次報告書

委員長 山本 敦子

I. 昨年までの課題

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ
(オ) ゼミナールや授業などでの活動内容の見直しによる、学生の主体性の向上。
(介) 進学希望の学生への早期対策。1年生への進路希望アンケートの継続実施。
2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施
(子) 進路希望調査や授業・講座でのアンケートの記入内容を読み取り質問には回答することで、個々の学生の内容理解、意識向上へとつなげる。学生がキャリア支援センターを早期から身近に感じられるようなアプローチも必要である。
(オ) 学生支援委員会との連携により、個別の支援ニーズの早期把握と早期対応。
(介) 就職講座時には引き続き進路調査アンケートを行い、個別面談に繋げていく。
3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援
(全) 各学科・コースの講座・授業において必要な内容を計画し、実施する。
(オ) 講座内容、授業内容の体系的な組み立てにより、効果の最大化を図る。
4. 就職講座への参加率の向上
(オ) 授業、講座、面接練習を総じて参加意欲や意義を感じられる内容の検討。
5. キャリア支援センターとの連携・情報共有
(子・オ) 委員会前ミーティングの継続実施により、情報共有や業務分担に努める。
(全) 学生支援、キャリア支援に対する役割認識の統一。
6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化
(全) 学生のキャリア形成や進路就職先選択に関わる課題が見受けられれば、学年を問わず、委員会前ミーティング、学科会議でも積極的に情報提供・共有を図り、必要に応じて、学生支援委員会や事務局との連携下で議論を進めること。
7. 卒業後の状況把握、支援
(子) 卒業生の勤務状況の把握や情報共有の機会を可能な限り設けること。事前ミーティングで卒業生に関する話題提供の場を設ける、卒業生就職先調査の結果や卒業生のキャリア支援センター利用状況を学科内で共有する、など。
(オ) 訪問に拘らず、タイムリーに状況把握できる体制の確立。
(介) 卒業生が就職した施設には実習巡回等の機会を活用し、聴き取りを行う。
8. 外部機関との連携
(オ) ハローワーク、労働局などとの連携により、課題のある学生支援、卒業後の就労支援などの強化。

Ⅱ．本年度改善されたこと

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

(子) 進路希望調査を発展的解消し、1年次からのキャリア支援センターによる面談の導入により、学生がキャリア支援センターと関係を早期から構築し、就職活動への意識を向けられるよう試みた。

(オ) 従来の就職講座を「キャリアガイダンスⅡ」に授業化したことによって出席率が飛躍的に向上した。特に、社会に関心が薄い学生や他者と関わりたがらない学生も出席する姿が見られ、就職活動に目を向ける状況を築けた。

(介) 今年度も毎回の就職講座で就職先希望についてのアンケートを実施し、学生の希望を早期に確認した。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

(子) 授業・講座でのアンケート結果を毎回学科 ML で共有し、質問に対してはキャリア支援センターによる回答を AAA に掲載することで、個々の学生の内容理解、意識向上へとつなげるようにした。早期の関係構築等については 1 に記載の通り。

(オ) 学生支援委員から得られた個々の情報をコース会議や委員会前ミーティングで共有するとともに、ゼミ担当の定期的な面談を実施することによって、関係性を保ち続けられた。また、AAA にも記録を残し、情報共有に遅滞が生じない状況づくりを試みた。

(介) 介護以外への就職を希望する学生についてキャリア支援センターと連携を密にし、支援を行った。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

(子) 計画案に従い実施した。進路検討の重要な時期となる 1 年次の春休みを有効に活用させるため、これまで 5 月中旬に実施していた就職講座「ようこそ先輩」を、今年度 1 年生に対しては 3 月上旬に移行して実施した。

(オ) 「キャリアガイダンスⅡ」の授業として、計画案どおりに実施した。半数以上の回で外部講師を招聘し、多角的な視点で支援を試みた。計画の狙いどおり、外部講師の回は出席率が高く、就職活動の意識付けとして有効に機能している。

(介) 予定していた講座内容に加え、進路希望アンケートや出席票の感想等から学生の興味のある分野(例、社会福祉協議会への就職方法や学生のうちにやっておいた方がよい事等)の解説を加えた内容について説明を行った。

4. 就職講座への参加率の向上

(オ) 回を追うごとに、就職活動の本番で求められる内容で構成し、段階的に学生自身の言葉で表現する機会を設けた。結果として、面接を恐れて欠席する学生が昨年度よりも減少している。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

(子・オ) 委員会前ミーティングの継続実施により、情報共有や業務分担に努めた。

(全) AAA への移行に際し、キャリア支援関連の情報共有を教職員間で円滑に行うために、年度当初にキャリア支援センターに操作マニュアルの作成を依頼、教授会にて提示し、学生への面談内容の記入協力を仰いだ。毎月の事前ミーティングや各学科協議会において面談内容の共有を図った。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

(全) 学生のキャリア形成や進路就職先選択に関わる課題(例: 授業出席の状況、子ども学科学生の免許資格取得辞退の状況、オフィスワークコースの卒論提出状況等)について、委員会前ミーティング、学科コース会議で情報提供・共有を図り、必要に応じて、学生支援委員会や事務局との連携下で議論・対応を進めた。

7. 卒業後の状況把握、支援

(子) 一般企業に就職した卒業生(1名)の状況をキャリア支援センターに聞き取ってもらい、事前ミーティングで情報共有を図ることができた。今年度の卒業生就職先調査結果や卒業生のキャリア支援センター利用状況を学科内で共有した。また、実習先訪問を通じて得られた新卒者の早期退職についての情報を、年度末に事前ミーティングや学科協議会で報告を行った。

(オ) 直近の卒業生を知る専任教員で分担し、夏期休業期間に状況の把握に努めている。早期離職の防止を狙いとして、勤務する事業所を訪問(一部は電話で聞き取り)し、可能ならば上司が同席の下で現況を確認した。訪問の結果は、コースに係る教員・職員とメーリングリストで共有し、必要に応じてキャリア支援サポーターが重ねて聞き取りを実施している。

8. 外部機関との連携

(オ) 2年後期に就職活動を始めた学生がハローワークや障害者枠を通じた採用を必要としており、キャリア支援センターを中心に関係各所と調整の上、学生の希望に沿った就労支援を試みている。

Ⅲ. 新たな課題

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

(子) キャリア支援に関する講座・授業は、キャリア支援委員のコーディネートにより1年次前期から2年前期まで一貫した内容で実施しているが、一部の学生においては講座への出席に意欲的でない状況が見られる。

(オ) 本年度の1年生は、自己表現が苦手な学生で勤労観・職業観が形成されていない学生の割合が高かった。キャリア支援ポーターによる面談で、就きたい仕事は答えられていない。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

(子) 学生の自主実習・見学の開始が遅くなっており、それは月ごとの内定率にも表れている。園からの求人は年間を通して常に行われており、現場が人手不足である状況も、学生の就職活動への時期や実習件数に影響を与えていると考えられる。

(オ) 苦手なことから逃避する学生に対して、ゼミ担当が 1 人で対応しきれなくなっている。周りが就職活動を始めている時期に動き出せない学生の対応に、ゼミ担当が苦慮している。

(介) 委託訓練生は年代や生活環境が異なる為、就職活動についての個別相談を希望する学生が多い。コース全体の就職講座よりも個別の細やかなサポートが求められる。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

(子) 授業「キャリアスタディ」の主担当者の退任により、キャリア支援委員会を中心とした授業運営に移行していく必要がある。

(オ) 本年度は、学生自身が情報を整理して記録を残す場面が少なく、受け身の姿勢が目立っていた。

(介) 委託訓練生は、自分の長所や短所、学生時代のエピソード等については既に技術学校で行っている為、内容が重複してしまう。他の日本人学生と分けて実施することも検討する必要がある。

4. 就職講座への参加率の向上

(オ) 「キャリアガイダンスⅡ」に授業化したことによって、欠席回数を計算して内容を選び好みしている学生が見られる。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

(全) 教員の退任により、年度末や新年度開始時に学生の相談先が限られること。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

(全) 学生支援委員会を中心とした支援体制の充実(一貫した支援の流れの構築)。

7. 卒業後の状況把握、支援

(子) 新卒者の早期退職についての情報共有の方法や時期が確立されていない。

(オ) 専任教員の入れ替わりが多く、卒業生を知る専任教員が減少している。

8. 外部機関との連携

(オ) キャリア支援センターに来所せず、ハローワークを直接訪ねる学生がいる。対応が難しい学生ほど、キャリア支援センターで状況を把握してから、ハローワークへつなぎたい。

IV. 次年度取り組むべきこと

1. 学生の就活や働くことへの不安の緩和と、就活への早期の意識づけ

(子) 1年次後期の授業「キャリアスタディ」を中心に据え、1年次前期の講座は「キャリアスタディプレ講座」、1年次春休みからの講座は「キャリアスタディフォローアップ講座」に名称変更。授業との関連性を意識させながら受講を促す。

(オ) 勤労観・職業観の醸成を目指し、次年度から1年前期の「スタートアップゼミナール」で卒業後の進路や2年間の過ごし方をプレゼンテーションの題材として取り入れる。

(介) 1年生への進路希望アンケートの継続実施。介護分野以外へ進む学生を早期に把握し、キャリア支援センターと連携する。

2. 個々の学生の進捗状況、ニーズ、状況に合わせた指導・支援の実施

(子) 県内の保育職の有効求人倍率は2023年11月時点では2.92であるが、求人数が微減しているなかで求職者が多くないことが背景にある。新卒生の採用先調査においても本学学生の就職活動状況への課題を指摘する声もあり、保育業界の今後の動向を視野に入れながら、キャリア支援センターによる1年生への個別面談の継続実施や、初期の面談内容を活かした支援を展開できるように進めていく。

(オ) 次年度は、出身高等学校やヒアリング結果を考慮して、既存の人間関係に偏らないゼミ編成を試み、新たな人間関係の構築を促す。また、新任教員の着任にあたり、早々にAAAの記録方法を伝達し、専任教員全員で学生の状況を把握する。

(介) 委託訓練生への個別対応を充実させる。年間予定の講座時以外にも本人への聞き取りやゼミ担当教員、キャリア支援センターのサポーターとの連携を強化していく。

3. 就職講座や授業、就活に必要な意識・スキルの支援

(子) キャリア支援センターや学科教員にも協力を仰ぎつつ、キャリア支援委員を運営母体とした授業方法を確立する。保育業界の今後の動向を視野に入れながら講座・授業内容を計画・実施する。

(オ) 次年度は、インプットの機会も残しつつ、アウトプットの機会を増やす。また、自身の強みや業界の適性を早期に掴める内容で授業を構成し、動き出せない状況を減らす。

(介) 特別養護老人ホームと介護老人保健施設、有料老人ホームやグループホーム等の区別が曖昧な学生もいるため、それぞれどのような業務を行うかを含め講座内で再確認する機会を持つ。

4. 就職講座への参加率の向上

(オ) 本年度の参加率と次年度の内定状況を整理する。参加率が内定状況につながっていることを「キャリアガイダンスⅡ」で示し、参加する意欲を掻き立てる。

5. キャリア支援センターとの連携・情報共有

(全) 途切れのないキャリア支援を目指し、学科コース内で旧年度から新年度に向けて教職員へのキャリア支援に関する申し送りを細やかに行い、連携体制を保つ。

6. 課題のある学生、配慮の必要な学生への支援体制の強化

(全) 授業や学生生活を通して散見される学生の状況や動向について、適時に学科コース会議や委員会前ミーティングで話題提供し、情報共有を図ること。

7. 卒業後の状況把握、支援

(子) 新卒者の早期退職について情報が得られた時点で子ども学科・キャリア支援センター双方に共有を図り就職先への対応状況を適時把握しておけるようにする。

(オ) 退職した専任教員のゼミ学生も、直近の卒業生を知る専任教員で分担し、勤務する事業所を訪問する。1教員あたりの訪問数が著しく多い場合は、キャリア支援センターにも協力を仰ぎ、早期離職の防止に向けて現況を遺漏なく確認する。

(介) 卒業生が就職した施設には実習巡回等の機会を活用し、聴き取りを行う。

8. 外部機関との連携

(オ) 就職活動の進捗状況は、常にゼミ担当とキャリア支援センターへ知らせることを徹底しつつ、連携が必要な学生はハローワーク等と積極的に連携して進路実現を図る。

X I

図書委員会

年次報告書

委員長 大野 照文

令和5年度会議日程と主な議題

日時 令和5年4月12日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- 1 令和5年度の課題について
- 2 令和5年度図書委員会の開催日程(案)について
- 3 令和5年度図書委員会役割分担(案)について
- 4 「高田短期大学通信」第58号について
- 5 「図書館だより」第58号について
- 6 令和5年度図書館メイトの活動について
- 7 その他

〈報告事項〉

- 1 令和5年度図書委員会の予算について
- 2 令和5年度図書館資料費配分方法の検討
- 3 令和5年度公開講座について
- 4 令和5年度図書館公開講座について
- 5 「高田短期大学紀要」第42号について
- 6 非常勤講師への授業参考図書についてのアンケートについて
- 7 「コミュニティカレッジ2023」について
- 8 その他

第2回 図書委員会

日時 令和5年5月17日(水)9時～

〈協議事項〉

- 1 令和5年度図書予算について(推薦図書・テーマ図書)
- 2 令和5年度公開講座について
- 3 「高田短期大学紀要」について
- 4 その他

〈報告事項〉

- 1 図書館利用状況について(4月)
- 2 図書館メイトの活動について
- 3 短大通信」について
- 4 「図書館だより」について
- 5 その他

第3回 図書委員会

日時 令和5年6月14日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- | | | |
|---|-----------------------|-----------|
| 1 | 創作作品展について | 資料1～5、別 |
| 2 | 次年度外国雑誌について | 資料6 |
| 3 | 書の購入について | |
| 4 | 重県図書館協会の助成金事業について | 資料7～15、別紙 |
| 5 | 子育て支援団体の方への大型絵本貸出について | 資料別紙 |
| 6 | その他 | |

〈報告事項〉

- | | | |
|---|--------------------------|---------|
| 1 | 「図書館だより」第58号について | |
| 2 | 公開講座について | 資料16 |
| 3 | 図書館公開講座について | |
| 4 | 図書館利用状況について(5月) | 資料17～18 |
| 5 | 図書館メイトについて | |
| 6 | 未返却者への対応について | |
| 7 | 私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会幹事会報告 | |
| 8 | その他 | |

第4回 図書委員会

日時 令和5年7月12日(水) 9:00～

〈協議事項〉

- | | | |
|---|--------------------|-------|
| 1 | 創作作品展について | 資料1～3 |
| 2 | 「高田短期大学通信」第58号について | 資料4 |
| 3 | 新聞データベースについて | 資料5～6 |
| 4 | 図書館メイトについて | 資料7 |
| | ・活動時間の目安 | |
| | ・年齢別絵本のまとめ | |
| | ・活動予定 | |

- 5 その他

〈報告事項〉

- | | | |
|---|----------------------|---------|
| 1 | 図書館利用状況について(6月) | 資料8～9 |
| 2 | 図書館だより」第59号の原稿依頼について | 資料10～12 |
| 3 | 公開講座について | 資料13 |
| 4 | アカデミックセミナーについて | 資料14～19 |
| 5 | テーマ図書、推薦図書について | |
| 6 | 夏休みの長期貸出及び閉館について | 資料20 |
| 7 | その他 | 資料21～23 |
| | ・新聞代値上がり | |
| | ・新書の選定 | |

第5回 図書委員会

日時 令和4年9月26日(月) 9:00～場所 図書館内館長室

〈協議事項〉

- 1 後期の推薦図書について
- 2 新書の購入について
- 3 創作作品展、雑誌リサイクルについて
- 4 次年度の「高田短期大学通信」について
- 5 その他

〈報告事項〉

- 1 「高田短期大学紀要」第41号について
- 2 公開講座について
- 3 令和4年度講読の外国雑誌
- 4 図書館の利用状況(7～8月)について
- 5 「図書館だより」について
- 6 図書館メイトについて
- 7 研修報告について
- 8 その他

第6回 図書委員会

日時 令和4年11月7日(月) 9:00～場所 図書館内館長室

〈協議事項〉

- 1 「高田短期大学紀要」第41号について
- 2 次年度推薦図書の配分方法について
- 3 令和5年度の公開講座について
- 4 「高田短期大学通信」第58号について
- 5 創作作品展の投票結果について
- 6 その他

〈報告事項〉

- 1 公開講座について
 - 1 「図書館だより」第57号について
 - 2 冬期休業中の開館について
 - 3 令和5年度講読の外国雑誌について
 - 4 図書館予算執行状況について
 - 5 図書館の利用状況(9～10月)
 - 6 図書館メイトの活動について
- その他

第7回 図書委員会

日時 令和4年12月14日(水) 9:00～場所 図書館内館長室

〈協議事項〉

- 1 「高田短期大学紀要」第41号について
- 2 次年度推薦図書の配分方法について

- 3 令和5年度予算案について
- 4 令和5年度公開講座の計画について
- 5 その他

〈報告事項〉

- 1 図書館利用状況について（11月）
- 2 年度末の開館日程について
- 3 その他

第8回 図書委員会

日時 令和5年1月16日（月） 9:00～場所 図書館内館長室

〈協議事項〉

- 1 令和5年度予算案について
- 2 令和5年度「短大通信」のレイアウトについて
- 3 図書予算の執行状況について
- 4 令和5年度公開講座の計画について
- 5 アカデミックセミナー2023について
- 6 その他

(1) 図書館メイト反省会

(2) その他

〈報告事項〉

- 1 図書館利用状況について（12月）
- 2 紀要校正作業日程
- 3 その他

第9回 図書委員会

日時 令和5年2月13日（月） 9:00～場所 図書館内館長室

〈協議事項〉

- 1 「短大通信」の反省と来年度の準備について
- 2 「コミュニティカレッジ2023」スケジュールについて
- 3 2022年度の年次報告について
- 4 図書予算の執行状況について
 - ・ オンライン新聞データベース、切抜き速報等
- 5 公開講座について
 - (1) 短大公開講座
 - (2) 図書館公開講座
- 6 ホームページの年度末更新について
- 7 図書の整理について
- 8 その他

〈報告事項〉

- 1 「高田短期大学紀要」校正スケジュールについて

- 2 アカデミックセミナーについて
- 3 年度末の特別貸出について
- 4 図書館利用状況について（1月）
- 5 図書館メイトのアンケートについて
- 6 その他

第10回 図書委員会

日時 令和5年3月6日(月) 9:00～

場所 図書館内館長室

〈協議事項〉

1. 次年度の図書館開館スケジュールについて
2. 令和5年度特別貸出スケジュールについて
3. 新入生オリエンテーションについて
4. 「短大通信」第58号の紙面構成及び執筆者について
5. 令和5年度公開講座について
6. 一般利用者の利用、座席数の制限について
7. 推薦図書の執行について
8. その他

(1)本の整理について

〈報告事項〉

1. 令和5年度予算の確認について
2. 機関リポジトリについて
3. 図書館利用状況について（4～2月）
4. 2022年度予算執行報告について
5. 蔵書点検と臨時閉館について
6. その他

(1)図書館利用者カードについて

(2)休刊の雑誌について

I. 令和5年度委員会運営体制

1. 委員会構成

委員長：大野 照文

委員：亀澤 朋恵（子ども学科）、伊藤 秀明（キャリア育成学科）、瀬古 幸弘（図書館）

庶務担当：西尾 綾（図書館）

2. 2023年度図書委員の役割分担（第1回委員会で承認）

	2023 年度案		
	主担当	副担当	事務主担
短大紀要	大野	亀澤・伊東	瀬古・(西尾)
短大通信	亀澤	伊東	西尾・(瀬古)
公開講座	亀澤	伊東	瀬古・(西尾)
図書館だより	伊東	亀澤	瀬古・(西尾)
創作作品展	伊東	亀澤	西尾・(瀬古)
図書館活性化（ラーニングコモンズ・図書館メイト）	大野	亀澤・伊東	瀬古・西尾

3. 2023 年度部署予算については、以下のように決定された

図書館	1,560,500
図書委員会	1,112,000
別枠	315,000

4. 2022 年度図書館資料費は以下のように決定された

	令和 5 年度	令和 4 年度（参考）	令和 3 年度（参考）
子ども学科	2,135,000	2,368,000	2,208,000
キャリア育成学科	1,721,000	1,904,000	1,864,000
合計	3,856,000	4,272,000	4,072,000

II. 委員会活動と主な成果

1. 図書館運営に関すること

(1) 選定図書に関すること

1) テーマ図書のテーマ及び配分は、図書委員会より各学科コースへ推薦を依頼。テーマ図書の締切は、10 月末日とする。

2) 教員推薦図書予算に関しては、教員一人あたり前期 3 万円、後期 1,7000 円とする。以下のスケジュールで執行。

5 月下旬 前期推薦図書予算を教員に通知

8 月末 前期分推薦締め切り

9 月末 後期推薦図書予算を教員に通知

12 月 15 日 後期推薦分締め切り

3) 高額 of 図書や著作権処理済み DVD 購入のため、前後期合わせた額を前期に消費してもよいこと、複数の教員の予算枠を合算して使用可であることを告

知した。

(2) 令和 5 年度蔵書状況・受入冊数状況

1) 蔵書の状況は、次の通りである（図書館以外の保管図書を除く）。

和書(冊)	洋書(冊)	雑誌(種)	視聴覚資料 (点)
50,991	2,641	524	1,858

2) 令和 5 年度の受け入れ冊数は、図書 626 件、絵本 68 件、視聴覚資料 26 件、合計 720 件であった。

	和書 (冊)	洋書 (冊)	視聴覚資料 (点)	合計
R5	694	0	26	720
R4	718	2	29	749
R3	859	0	19	859
R2	736	1	32	769
R1	663	1	54	718
H30	949	12	49	1010
H29	913	5	31	949
H28	726	0	37	763
H27	904	0	13	917
H26	626	0	49	675
H25	863	0	24	887
H24	822	1	17	840

3) 年間受け入れ雑誌数の推移は次の通りである。

	和雑誌	洋雑誌	白書等	合計
R5	87	7	33	127
R4	86	7	31	124
R3	84	8	33	125
R2	87	8	38	133

R1	82	9	36	127
----	----	---	----	-----

(3) 図書館の利用状況

- ① 令和5年度の図書の貸し出し冊数の状況、入館者数の状況は、次の通りである。

【図書貸出統計】(のべ貸出冊数)

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R5計	当一人	R4 3月末	R4 3月	R3 3月	R2 3月	R1 3月
子ども学科1年	139	50	50	144	38	7	8	37	134	7	145	142	0	762	5.5	1212	8	25	11	0
子ども学科2年	160	56	41	71	105	184	3	343	2	27	54	2	0	888	5.6	731	0	0	3	0
キャリア育成学科 オフィスワークコース1年	58	0	81	23	3	0	0	0	9	0	0	0	0	116	2.0	55	0	1	0	2
キャリア育成学科 オフィスワークコース2年	62	1	0	4	1	0	2	10	60	12	0	0	0	90	1.5	121	4	0	0	0
キャリア育成学科 介護福祉コース1年	34	8	20	7	0	0	0	10	9	8	7	0	4	73	2.1	141	0	0	0	0
キャリア育成学科 介護福祉コース2年	29	5	1	1	0	2	5	1	2	0	5	0	0	22	0.8	29	0	0	0	0
合計	482	120	193	250	147	193	18	401	216	54	211	144	4	1951	4.0	2289	12	26	14	2

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R5計	当一人	R4 3月末	R4 3月	R3 3月	R2 3月	R1 3月
教職員	131	54	45	80	102	65	51	63	59	81	76	42	26	744	5.7	818	40	61	78	34

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R5計	当一人	R4 3月末	R4 2月	R3 2月	R2 2月	R1 2月
一般利用者(団体含む)		2	6	6	5	9	9	6	19	21	12	35	9	139		124	1	7	3	1

【未登録図書貸出統計】(のべ貸出冊数) ※未登録図書貸出統計は、令和4年6月から開始(基準は図書返却時)。

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R5計	当一人	R4 3月末	R4 3月
子ども学科1年	139	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3	0.0	11	0
子ども学科2年	160	1	0	0	3	0	0	4	2	0	0	0	0	10	0.1	14	0
キャリア育成学科 オフィスワークコース1年	58	1	0	2	5	0	0	0	0	0	0	1	0	9	0.2	18	0
キャリア育成学科 オフィスワークコース2年	62	4	0	4	4	0	0	1	3	0	0	0	0	16	0.3	10	1
キャリア育成学科 介護福祉コース1年	34	0	0	1	1	0	0	2	2	1	0	0	0	7	0.2	19	0
キャリア育成学科 介護福祉コース2年	29	0	2	1	11	0	2	0	0	1	0	4	0	21	0.7	9	0
合計	482	6	3	8	24	0	2	7	8	2	0	6	0	66	0.1	81	1

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R5計	当一人	R4 3月末	R4 3月
教職員	131	4	0	1	3	12	2	3	1	7	3	4	2	42	0.3	34	4

	人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R5計	当一人	R4 3月末	R4 3月
一般利用者(団体含む)		0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3		1	0

【入館者数】(のべ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R5計	当一人	R4 3月末	R4 3月	R3 3月	R2 3月	R1 3月
全体	1726	2028	2450	2057	1060	1004	2064	1903	1750	1864	1051	633	19590		22467	768	800	1232	710
うち一般利用者	0	3	2	0	6	1	3	8	5	9	27	1	65		54	2	2	0	3

※昨年度6月より未登録図書の統計を開始。未登録図書とは、所蔵期間の短い就職試験対策や資格取得のための問題集等のこと。返却日を基準とした統計となっている。

② 図書館への入場者数・ラーニングコモンズの利用回数

【入館者数】(のべ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	当り人	R3 3月末	R3 3月	R2 3月	R1 3月
全体	2296	2415	2482	2365	1302	1426	2259	1896	1872	1890	1496	768	22467		22103	800	1232	710
うち一般利用者	6	2	3	9	3	17	5	1	3	0	3	2	54		34	2	0	3

【ラーニング・コモンズの利用】(利用回数) ※ラーニング・コモンズの利用統計は、平成25年10月から開始。

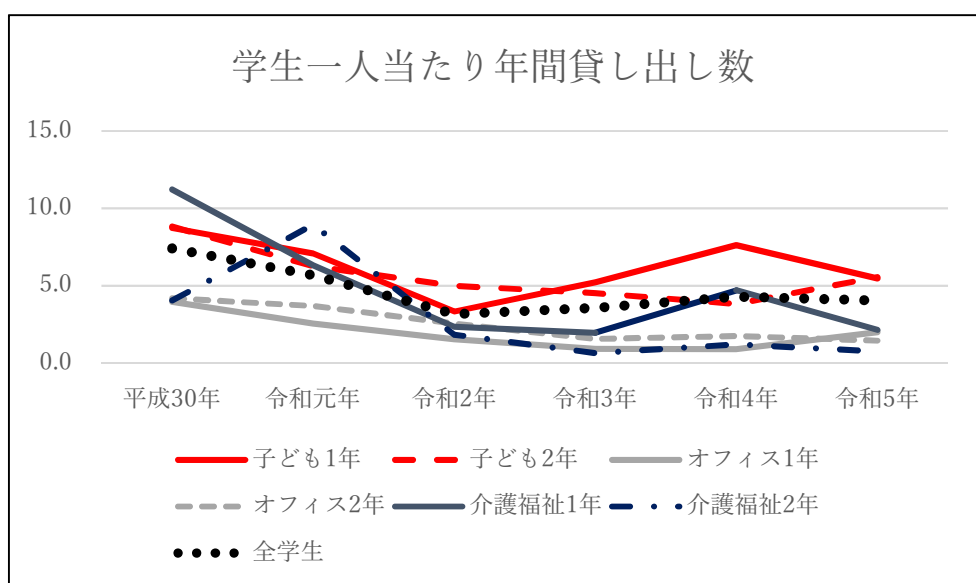
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	R4計	当り人	R3 3月末	R3 3月	R2 3月	R1 3月
GWエリア	授業、ゼミ、補講等	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	7		12	0	0	0
	クラブ、自治会等	1	4	0	1	0	1	4	1	0	0	1	14		6	1	0	0
	会議・学内講座等	1	1	1	0	1	1	6	0	2	1	1	17		12	1	1	2
	説明会・公開講座等		1	2	1	1	1	2	1	2	0	2	13		5	1	0	0
プレゼン	授業等(自習・応接含む)	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3		1	1	0	0
ラウンジ	モニター利用	0	0	0	0	1	14	0	0	0	2	0	17		13	0	2	0
合計※		5	8	4	3	3	18	13	3	4	3	4	54	0	36	4	3	2

※ GWエリアおよびプレゼンテーションエリア利用の合計。

③ 学生への図書貸出し数と経年推移

			学生の図書貸出冊数の推移					
			平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
子ども	1 年	貸出冊数	1397	878	437	999	1212	762
		学生人数	160	124	131	191	159	139
		一人当たり	8.7	7.1	3.3	5.2	7.6	5.5
	2 年	貸出冊数	1421	995	589	587	731	888
		学生人数	161	159	118	130	191	160
		一人当たり	8.8	6.3	5.0	4.5	3.8	5.6
オフィス	1 年	貸出冊数	285	163	107	65	55	116
		学生人数	72	64	69	71	61	58
		一人当たり	4.0	2.5	1.6	0.9	0.9	2.0
	2 年	貸出冊数	251	255	156	107	121	90
		学生人数	60	69	61	68	69	62
		一人当たり	4.2	3.7	2.6	1.6	1.8	1.5
介護福祉	1 年	貸出冊数	202	202	61	47	141	73
		学生人数	18	32	26	24	30	34
		一人当たり	11.2	6.3	2.3	2.0	4.7	2.1
	2 年	貸出冊数	97	152	31	11	29	22
		学生人数	24	17	17	17	24	29
		一人当たり	4.0	8.9	1.8	0.6	1.2	0.8
全学生		貸出冊数	3653	2645	1381	1816	2289	1951
		学生人数	493	466	436	509	534	482
		一人当たり	7.4	5.7	3.2	3.6	4.3	4.0

学生一人当たり年間貸し出し数						
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
子ども1年	8.7	7.1	3.3	5.2	7.6	5.5
子ども2年	8.8	6.3	5.0	4.5	3.8	5.6
オフィス1年	4.0	2.5	1.6	0.9	0.9	2.0
オフィス2年	4.2	3.7	2.6	1.6	1.8	1.5
介護福祉1年	11.2	6.3	2.3	2.0	4.7	2.1
介護福祉2年	4.0	8.9	1.8	0.6	1.2	0.8
全学生	7.4	5.7	3.2	3.6	4.3	4.0



(4) 図書館メイトの活動

① 活動実績

人数 10名 (2024年3月11日時点)

内訳 子ども学科2年生が5名、子ども学科1年生が1名

オフィスワークコース2年生が1名、オフィスワークコース1年生が3名

概要 図書館メイトの活動は、以下の通り。

月	内容
4月	・ミーティング ・本の返却、整理 ・リレー展示「スイーツパラダイス」の看板・ポップ作成
5月	・ミーティング ・リレー展示「心に残る言葉」の看板・ポップ作成

	・図書館蔵書検索PRポスター作成
6月	・リレー展示「心に残る言葉」 ・夏の展示「サマーッキング」の飾りつけ
7月	・ミーティング ・創作作品展募集案内ポスター作成 ・本の返却、整理 ・リレー展示「いきもの」ポップ作成、展示
8月	・選書ツアー
9月	ー
10月	・ミーティング ・雑誌整理 ・雑誌リサイクルポスター作成 ・創作作品展（看板デザイン、展示、会場見回り、後片付け）
11月	・リレー展示「お仕事小説」のポップ作成
12月	・おすすめ本ポップ作成、飾りつけ制作
1月	・飾りつけ制作 ・反省会
2月	・「90分で学ぶ 点字の書き方 体験会」開催

② 図書館メイトアンケート

参加のきっかけは、「図書委員をやっていたから」が4名、「課題であるボランティア活動の一つとして」が2名、「読書や図書館が好きだから」が4名、「図書館の仕事に興味があったから」が2名、「友人の影響」「学生時代に頑張ったこととして話のネタにできると思った」が各1名だった。

活動の頻度は「やや少ない」が4名と「少ないがそれぞれの時間があるので適切かも」が1名、「やや多い」が2名、「丁度良い」が1名だった。活動しやすい時期は、「長期休み」が2名、「実習の前後以外」、「検定や試験の直前以外」「空きコマ」、「今のままでも良い」が各1名ずつだった。活動の頻度がやや少ないと感じた人が多かった。

図書館サービス、図書館メイト活動についての意見は次のとおりであった（一部）。

- ・月ごとの企画展示は企画力や発想力の糧にもできて良かった。
- ・楽しかった（5名）。
- ・絵本を50音順もしくは年齢別に分けるなど本の整理をしてほしい。
- ・どこに何があるのかが分かりにくかった。
- ・3階は行っても良かったのか分からなかった。
- ・創作作品展良かった（2名）。
- ・創作作品展は学生にあまり伝わっていなかったため、もっと作品展や雑誌リサ

イクルがあることを主張しても良いと思う。

- ・創作作品展はパネルシアターを飾れるように展示用のパネルがあると良いと思う。
- ・辞書、筆記用具（ペン・ホッチキス）、新聞の貸出があると良い。
- ・一定の冊数借りるとしおりのプレゼント、雑誌販売、図書館メイトお茶会、他大学学生とのリモート会話等。

活動の頻度は、「やや少ない」と感じる人が多かった。個別での活動にも対応しているが、個別活動になると学生によって参加したかの片寄りが大きくなるため、グループでの活動を増やす工夫していきたい。また、整理して分かりやすくすることについての要望があった。

(5) 加盟団体での活動への参加

〈三重県図書館協会〉

三重県総合文化センターで総会が開催され、参加した。

- ・「三重県図書館協会総会」（令和5年6月）

〈私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会〉

名古屋文化短期大学で総大会が開催され、参加した。

- ・「私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会令和5年度総会」（令和5年9月）

〈三重県大学図書館連絡会〉

連絡がなく開催状況不明

III. 「高田短期大学紀要」の発行

1. 発行スケジュール

高田短期大学紀要 41 号編集・発行計画は以下のスケジュールで進めた。

高田短期大学紀要 42 号編集・発行計画

日 時	事 項
5 月 10 日（水）	研究活動一覧受付締め切り
5 月 19 日（金）	執筆者募集（専任・非常勤教員）
8 月 25 日（金）	執筆希望締切日（執筆希望書を執筆希望の研究公正誓約書とともに提出） 図書委員全員にメールにて連絡
9 月 4 日（月）	紀要原稿執筆依頼 配布（教授会 報告後）
11 月 1 日（水）	紀要原稿提出依頼（念押し）配布
11 月 6 日（月） 予定	第 6 回委員会：委員閲読担当決定
11 月 10 日（金）	紀要原稿の仮取りまとめ
11 月 15 日（水）	紀要原稿提出締切。（投稿誓約書とともに提出。） 17:00 まで。委員閲読開始

12 月 1 日 (金)	業者への見積もり依頼
12 月 6 日 (水) 10:40～ 予定	第 7 回委員会：委員閲読結果報告 紀要業者決定
12 月 6 日 (水) 13:00～ 予定	臨時図書委員会：委員閲読結果報告
12 月 7 日 (木) *臨時委員会翌日 予定	執筆者に閲読結果を伝え、原稿を返却。 執筆者に「抜き刷り希望部数調べ」を渡す。 (状況によっては翌 12 月 8 日になる場合あり。)
12 月 15 日 (金)	紀要原稿再提出、抜き刷り希望部数調べ回収
12 月 18 日 (月)	原稿入稿 英文タイトルの校正依頼
1 月 16 日 (火)	印刷業者から初校提出 英語担当教員による英文タイトルの校正結果提出
1 月 16 日 (火) ～ 1 月 25 日 (木)	執筆者校正期間 (英文タイトルの決定)
1 月 26 日 (金)	初校戻し
2 月 1 日 (木)	印刷業者から再校提出 (執筆者・委員校正) *委員校正で何かあれば、係が執筆者へ伝える。
2 月 8 日 (木)	再校戻し
2 月 13 日 (火)	印刷業者から三校提出 (委員による最終校正) *委員校正で何かあれば、係が執筆者へ伝える。
2 月 16 日 (金)	三校戻し (最終校正業者渡し)
2 月 21 日 (水)	責了 (印刷直前の確認)
3 月 1 日 (金)	(43 号研究活動一覧表提出依頼)
3 月 6 日 (水)	紀要 42 号納品
3 月 11 日 (月)	抜き刷り納品
3 月 17 日 (日)	卒業式 (来賓配布)

2. 投稿一覧

令和4年度、紀要第41号の投稿一覧は以下の通り。

	整理番号	学科	お名前	種別	頁数	タイトル
専任教員	1	子ども学科	山口 昌澄	研究論文	11頁	「高田短期大学ディプロマ・ポリシー」到達度に関する研究（2）
						A Study of Achievement in Diploma Policy of Takada Junior College(2)
	2	子ども学科	大野 照文	研究論文	14頁	「三葉虫を調べよう」ワークショップから見える子どもと大人の学び
						Children and Adults Learning from the "Let's Study Trilobites" Workshop
	3	キャリア育成学科	海住 信行	実践報告	9頁	日商簿記検定2級連結会計解法虎の巻 ー連結タイムテーブル&ワークシートによる解法の有効性ー Nissho Bookkeeping Test Level 2 Consolidated Accounting Solution of Secrets ーEffectiveness of Release Through Consolidation Time Table and Work Sheetー
						『図画教育通信』目次（4） ――第230信（昭和3年1月1日）～第237信（昭和3年10月10日）―― A Table of Contents "Zuga-Kyoiku Tsushin"（4） ー from No.230（Jan.1928） to No.237（Oct.1928）ー
	4	子ども学科	亀澤 朋恵	資料調査	8頁	災害福祉授業での災害時支援の学び Disaster Management game (Hinanzyo Unei Game) enhances student's learning how to behave in case of disaster.
						発達障害児の保護者の子育ての気持ちと支援 ー母親のインタビュー調査を通してー Parents of children with developmental disabilities about child care and heart support ： Through interviews with mothers
非常勤講師	1	キャリア育成学科	福田 洋子	研究論文	13頁	災害福祉授業での災害時支援の学び ー避難所運営ゲーム（HUG）体験を通してー Disaster Management game (Hinanzyo Unei Game) enhances student's learning how to behave in case of disaster.
						発達障害児の保護者の子育ての気持ちと支援 ー母親のインタビュー調査を通してー Parents of children with developmental disabilities about child care and heart support ： Through interviews with mothers
	2	子ども学科	仲森 みどり	研究論文	9頁	発達障害児の保護者の子育ての気持ちと支援 ー母親のインタビュー調査を通してー Parents of children with developmental disabilities about child care and heart support ： Through interviews with mothers
						発達障害児の保護者の子育ての気持ちと支援 ー母親のインタビュー調査を通してー Parents of children with developmental disabilities about child care and heart support ： Through interviews with mothers

	お名前	要 旨
専任教員	山口 昌澄	（要約）本研究においては、本学が実施している「ディプロマ・ポリシーループブック（以下『DPループブック』）」学生データを活用し、達成度状況の卒業年度・学年による違いや、ループブックの次元性に関する検討を行った。その結果、学年・学科・コースにおける達成度傾向や、各ループブックの概念的構造等について有意義な知見が得られた。一方で、さらなる成果実態調査・分析の必要性や、ループブック調査方法、教育・学修成果における向上・改善への取り組み等、今後の課題も明らかとなった。
	大野 照文	（要旨）筆者は、長らく博物館に所属してきた。博物館には、教育の一端を担う役割が期待されているが、博物館での教育プログラムの多くは、継続的な学校教育と違い、せいぜい1・2時間で終わる。筆者は、この制約の下でも、参加者の好奇心を刺激したり、自己効力感を高めることを目的にワークショップを実行してきた。今回は、最近行った「三葉虫を調べよう」のワークショップのアンケートをもとに、このワークショップが、参加者の好奇心や自己効力感を高めることを論じ、また参加者の年齢による差異についても報告する。
	海住 信行	（要約）コロナ禍における対応として2021年度から日商簿記検定試験2級にネット試験が導入され、これまで6・11・2月に実施されていた統一試験とともに、90分に時間が短縮され、受験の機会が大幅に拡大された。この制度改革に伴い、その対応策として、これまでより早く正確な答案作成が求められる。とりわけ、本検定の鬼門ともいえる連結会計への対策が重要となる。そこで、連結会計の（キーワード）本稿は、『図画教育通信』第230信（昭和3年1月1日）から第237信（昭和3年10月10日）までの目次である。これまで、第168信から第237信までの間の42号分（途中欠落あり）について、（1）から（3）までに分けて目次を一覧化した。本稿はそれに続く第4弾であり、第230信から第237信までの目次を表にまとめたものである。本稿にてひとまず目次の一覧化が完了した。目次
	亀澤 朋恵	（要約）本研究は2022年度に実施した災害福祉の授業において、災害経験のない学生が、災害の知識や技術を学んでも災害支援のイメージがわきにくいとの意見があったことから、今年度は、災害支援のイメージ作りに有効であるとされる避難所運営ゲーム（HUG）を学びの中で取り入れ、災害支援への学びの効果を検討すると同時に、今後の災害福祉の授業の課題を明らかにした。結果、災害経験のない学生の災害時支援へのイメージ作りに効果的で、かつ災害経験のある学生にとっても、避難所運営のあり方のイメージに繋がったことが確認できた。また、様々なニーズのある地域住民への
非常勤講師	福田 洋子	（要約）発達障害がある子どもの家族は、様々な心理的負担感や困難を抱えていることが指摘されており、発達障害児・者はもとより、その家族に対しても支援を行うことは重要である。特に母親は、子どもの乳幼児期に精神的に不安定になることがあり、その時期に最も支援が必要となると考える。仲森・大谷3）4）の研究では、専門家が温かい態度で母親の相談に応じ、子どもの状態に合わせた働きかけを行うことが、母親の心理的安定感につながることを示唆されており、心理的・精神的サポートの重要性が確認されている。そのため、保護者にとって専門家（支援者）の温かい態度や関わりとはどのようなことなのか、また保護者が求めている支援とはどのようなことかということをインタビュー調査の結果を基に考察した。その結果、「保育士、幼稚園教諭、教員に（お子さんと関わる上で）求めること」として、「自閉症のある子どもとしてではなく、子ども（自身）を見てもらいたい」や「周りに他の子と違うと思われない関わり」ということがわかった。また、母親2名とも保育園に通い出した時期や保育園に通っていた期間が1歳半だったと語られた。（キーワード）発達障害、保護者支援、子育て、母親
	仲森 みどり	（要約）発達障害がある子どもの家族は、様々な心理的負担感や困難を抱えていることが指摘されており、発達障害児・者はもとより、その家族に対しても支援を行うことは重要である。特に母親は、子どもの乳幼児期に精神的に不安定になることがあり、その時期に最も支援が必要となると考える。仲森・大谷3）4）の研究では、専門家が温かい態度で母親の相談に応じ、子どもの状態に合わせた働きかけを行うことが、母親の心理的安定感につながることを示唆されており、心理的・精神的サポートの重要性が確認されている。そのため、保護者にとって専門家（支援者）の温かい態度や関わりとはどのようなことなのか、また保護者が求めている支援とはどのようなことかということをインタビュー調査の結果を基に考察した。その結果、「保育士、幼稚園教諭、教員に（お子さんと関わる上で）求めること」として、「自閉症のある子どもとしてではなく、子ども（自身）を見てもらいたい」や「周りに他の子と違うと思われない関わり」ということがわかった。また、母親2名とも保育園に通い出した時期や保育園に通っていた期間が1歳半だったと語られた。（キーワード）発達障害、保護者支援、子育て、母親

IV. 「高田短期大学通信」第58号の発行部数と配布先

令和5年度の「高田短期大学通信」第58号を2,600部発行した。関係各所の協力を得て、在学生、前年度卒業生、教職員、名誉教授、学外の執筆者、学苑本部、中高、同窓会、研究センター、卒業生の就職先企業、オープンキャンパス参加者、高校訪問・来訪用、介護実習先、保護者懇談会等にて配布した。

発行部数は昨年度2,800部から200部減となった。昨年度については高田学苑150周年記念とオープンキャンパスの通常開催により、配布先が増加すると見込まれたための増刷である。

2023 年度の配布実績は全体で 2,382 部、図書館保管は 218 部となっている。内訳については【表 1】のとおりである。

【表 1】 2023 年度 高田短期大学通信第 58 号 配布予定一覧

配布予定	配布先（敬称略）	2023 実績	2023 予定	関係部署
7 月 12 日	在学生	477	482	図書委員会で配布
6 月	前年度卒業生（前年度卒業生から各学科卒業生執筆者・留学生を引く）	264	264	図書館で送付 ※別紙 1
6 月 8 日	教職員	131	131	図書委員会で配布
6 月	杉山 常子（名誉教授）	1	1	
6 月	首藤 善樹（名誉教授）	1	1	
6 月	三宅 啓子（名誉教授）	1	1	
6 月	千草 篤麿（名誉教授）	1	1	
6 月	栗原 廣海（名誉教授）	1	1	
6 月	北端 一子（同窓会執筆者）	1	1	
6 月	各学科卒業生（執筆者）	3	3	
6 月	学苑本部	30	30	事務局
6 月	高田中・高等学校	30	30	事務局
6 月	同窓会役員用	30	30	事務局
8 月 3 日	樹心同窓会	150		大橋局長
6 月	学外研究員、開放事業参加親子、地域連携事業参加者等	70	70	育児文化研究センター
6 月 8 日	企業等	100	100	キャリア支援委員長
6 月～	研究員・専門講座参加者	25	55	仏教教育研究センター
6 月 9 日	研究員・本山	30		
6 月 20 日	客員研究員、各種講座受講者、高齢者サロン関係者	40	40	介護研究センター
6 月 9 日	就業支援セミナー	50	50	キャリア研究センター
	入試イベント用		600	広報入試
6 月 9 日	6 月 10 日オープンキャンパス用	200		広報入試
7 月 7 日	7 月 9 日オープンキャンパス用	205		広報入試

8 月 17 日	8 月～オープンキャンパス用 (保護者のみ)	100		広報入試
6 月 15 日	高校訪問先	50	50	広報入試
6 月 28 日	みえアカデミックセミナー (大学展・当日配布)	150	150	事務局
6 月 28 日	実習反省会		30	教学部 (実習担当)
6 月 19 日	介護実習先	40	40	介護福祉コース
6 月 15 日	高校来訪用	100	100	広報入試
6 月	学苑本部理事会 → 配布なし		50	事務局
11 月 28 日	保護者懇談会	66	100	学生課長
—	保管用	30	30	図書館
6 月～	来客			
7 月 27 日	上山先生	5		施設など
配布合計		2382	2441	
予備／残部		218	159	
発行部数		2600	2600	

1. 「高田短期大学通信」第 58 号に関するアンケート

「高田短期大学通信」第 58 号に関して教職員にアンケートを行い、12 名から回答を得た。【表 2】に詳細を示す。

昨年度の 57 号の際に大幅に誌面の見直しを行い、それを継続して写真や文字を

【表 2】 短大通信第 58 号アンケートまとめ

短大通信 第58号アンケート回答まとめ（回答人数：12名）				
	全体の印象について	表紙について	内容について	今後の企画について
1	明るいイメージです	高田短大らしさが出ています	「卒業生からのメッセージ」「在学生の声」の写真は笑顔のものを採用したほうが良い	特になし
2	関係者にとってはとても内容の濃い読みごたえがある紙面でした。	留学生、男性学生のイメージがわからないのが残念です。	内容面の充実を願いますが、やむを得ないことですが、文字が多く読める力が弱まる気がします。	自治会と協力して、学生気質などに関するアンケートの掲載もいかがでしょうか。就職に関する記事は関心の高いところです。紙面を確保することはできます。
3	コンパクト感が欲しい	裏表紙に工夫が欲しい。	学長インタビューの紙面にすっきり感が欲しい。	なし
4	とてもスタイリッシュな印象を受けます。引き続き、このレイアウトでお願いいたします。	引き続き、美しい印象を与える写真の選定を期待します。		
5	新学長へのインタビューが冒頭にあり、読み応えがありました。	表紙の写真が何の場面かの説明があるとよいと思いました。		
6	文字数が多いような気がします	特にありません	特にありません	学生担当のページ
7	明るい雰囲気、内容もわかりやすい	明るい雰囲気	わかりやすい	
8	レイアウト、文章量などとてもバランスがよいと思います。	学生たちが楽しんでいる様子が伝わってきます。	学長インタビューが最良です。とくに口語体なところがいいです。写真もすてきです。	
9	写真やイラストが豊富で良い。	何の写真か、裏面に注釈があるが、すぐにわかるように表紙に入れてはどうか。		
10	等までの短大通信より、見やすくなった。	良くなった。		
11	デザインが一層きれいになったように思います。表紙の学生写真も昔い顔をしていますし、学長紹介ではお人柄がよく分かりました。これだけの内容を作り上げるには、校正も苦めさぞかしご苦労があったと思います。お疲れさまでした。			
12	全体に紙面が明るくなったように感じました。表紙の新学期と学長の口元の位置がこで良いのか、深んでいる感じがします。			
	（評価された点）			
	明るい、美しい（6件）、レイアウトが良い、見やすい（4件）、読みごたえがある（2件）、学長インタビューが良い（2件）			
	（改善を望む点）			
	文字が多い・コンパクト感を（3件）、表紙の写真は裏面に説明を（2件）、裏表紙に工夫を（1件）、顔写真は笑顔のものを（1件）、留学生・男性学生のイメージがない（1件）、表紙ロゴの位置（1件）			
	（今後の企画についてのご意見）			
	学生気質に関するアンケート、就職に関する記事、学生担当のページ			

大きくし、明るい誌面づくりに取り組んだ。誌面の雰囲気や学長インタビューは好評を得た。文字数は多いという意見と、ちょうどよいという意見が並存する。一方で、表紙や写真に説明がほしい、男子学生の写真が少ない等の課題も指摘された。要望としては学生気質に関するアンケート、就職に関する記事、学生担当のページなどが見られた。

2. 「高田短学通信」第 58 号の発行スケジュール

【表 3】 令和 5 年度の「高田短期大学通信」第 58 号発行スケジュール

日 時	項 目
2 月 15 日（水）	各部署長へ掲載記事アンケート
2 月 24 日（金）	掲載記事アンケート締切
3 月 6 日（月）	第 10 回図書委員会 「短大通信」紙面構成案作成（依頼方針、内容、体裁）

	卒業予定者、新2年生の執筆予定者の報告
3月8日（水）	卒業予定者、新2年生へ執筆依頼
3月8日（水）～	印刷業者と折衝（デザイン、料金）
4月12日（水）	第1回委員会 「短大通信」紙面構成の決定 短大通信原稿依頼 印刷業者へ見積り依頼
4月25日（火）	原稿締切
4月27日（木）	入稿
5月9日（火）	初校受取
5月12日（金）	初校戻し
5月16日（火）	再校受取
5月19日（金）	再校戻し
5月23日（火）	三校受取
5月26日（金）	三校戻し
5月29日（月）	校了
6月8日（木）	納品
6月9日（金）	教職員配布（アンケート添付）
6月10日（土）	第1回オープンキャンパス
6月30日（金）	教職員アンケート締切
7月3日（月）～	学生配布（図書館だより・夏休み期間中の図書館開館 スケジュール添付）
7月9日（日）	第2回オープンキャンパスで配布
7月12日（水）	第4回委員会 短期大学通信の反省

V. 公開講座の実施

1. 広報について

公開講座の広報を下記のとおり行った。

(1) 広報のための印刷物および発行部数

公開講座のチラシを 2,584 部、コミュニティカレッジパンフレットを 2,758 部発行した。

(2) 配布先

新聞折り込み、後援依頼先や公民館、教育委員会事務所、芸濃総合文化センター、生涯学習センター、子育て支援センター、津図書館（今年度より新規）、近隣の銀行、高田関係施設、学苑関係、県内大学、昨年度の受講者、教職員、教員免許講習、短大の研究センター、高校訪問・来訪、理事会、同窓会、企業、みえアカデミックセミナー等。

2. 2023 年度高田短期大学公開講座

2023 年度高田短期大学公開講座を 4 回、図書館講座（全 3 回）を企画した。

【講座 1】テーマ 「戦後三重の経済産業小史ー第 2 次世界大戦後から現在までー」

（講師）中畑 裕之（キャリア育成学科教授）

（実施日）11 月 25 日（土）

（時間）14：00～16：10（途中休憩 10 分）

（場所）本学視聴覚教室

（受講者数） 21 名

【講座 2】テーマ 「最古の動物化石を求めて世界をめぐる」（好奇心講座その 1）

（講師）大野 照文（子ども学科特任教授）

（実施日）9 月 30 日（土）

（時間）13:30～15:00

（場所）本学大講義室

（受講者数） 26 名

【講座 3】テーマ 「人の知恵の進化」（好奇心講座その 2）

（講師）大野 照文（子ども学科特任教授）

（実施日）10 月 28 日（土）

（時間）13:30～15:00

（場所）本学大講義室

（受講者数）18 名

【講座 4】テーマ 「学びの楽しさを広める」（好奇心講座その 3）

（講師）大野 照文（子ども学科特任教授）

（実施日）12 月 16 日（土）

（時間）13:30～15:00

（場所）本学大講義室

（受講者数）16 名

【図書館講座】テーマ 図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座（全 3 回）

（講師）瀬古 幸弘

（実施日）第 1 回 9 月 6 日（水）

第 2 回 11 月 29 日（水）

第 3 回 2 月 28 日（水）

（時間）14：40～16:10（各回）

（受講者数） 21 名

3. 公開講座アンケート集計

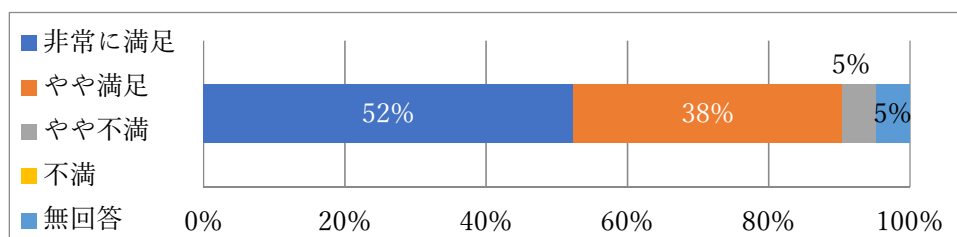
公開講座アンケートについて、回答がえられたものについての集計結果は以下のとおりである。

各講座の内容についての回答データを下記に添付する。

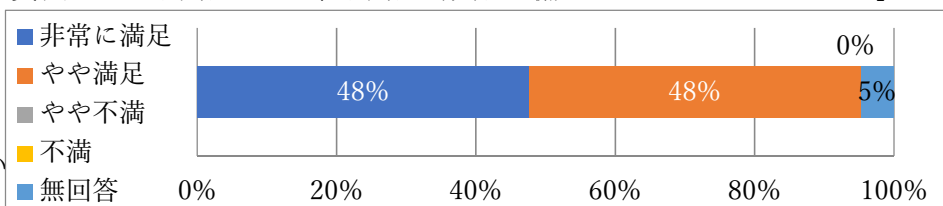
(1) 公開講座 1「戦後三重の経済産業小史」アンケート集計結果

回答者 20 名（受講者 21 名）

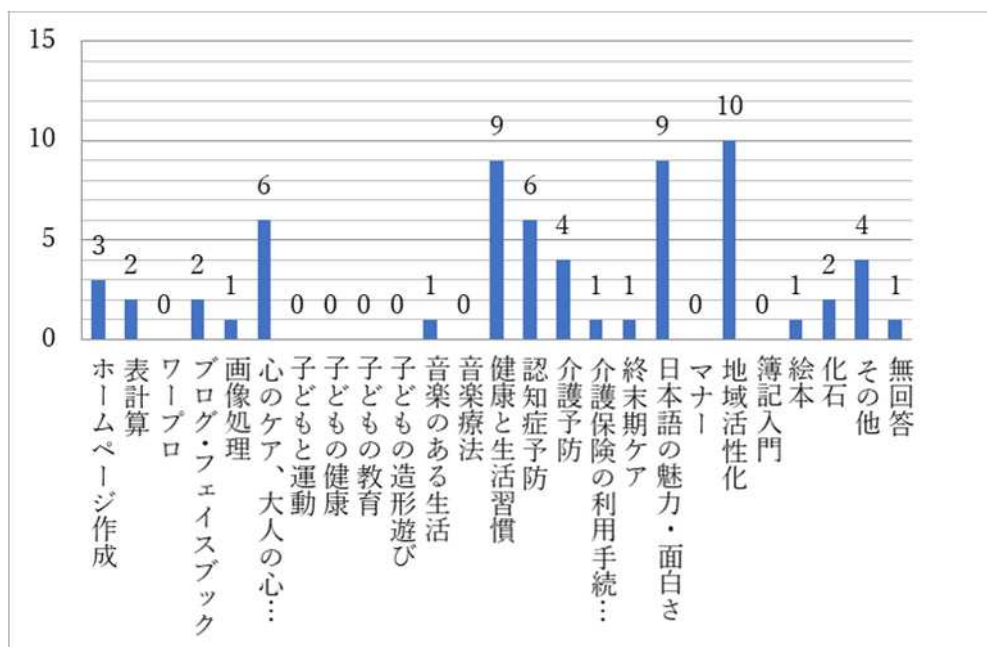
質問 1 「講座の内容はいかがでしたか？」



質問 2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



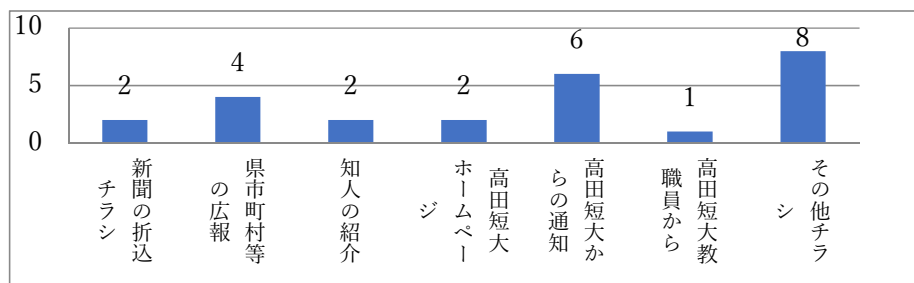
選んで下さ



○希望する講座について

三重県経済の現状／ジェンダー／文化歴史を含めた世界経済・中国および北朝鮮の脅威への対応

質問 4 「公開講座を何でお知りになりましたか」



○どこで講座を知ったか（その他）

県総合文化センター／生涯学習センター／宗務院／百五銀行一身田支店

○講座や会場について

・自分は昭和 19 年生まれで、昭和 28 年の 13 号台風、昭和 34 年の伊勢湾台風はじめ、四日市公害も目で見えてきたし、企業の盛衰も見ており、良く理解できた。自分（私）の歴史のまとめでもあり良かった。自分自身の見直しになった。

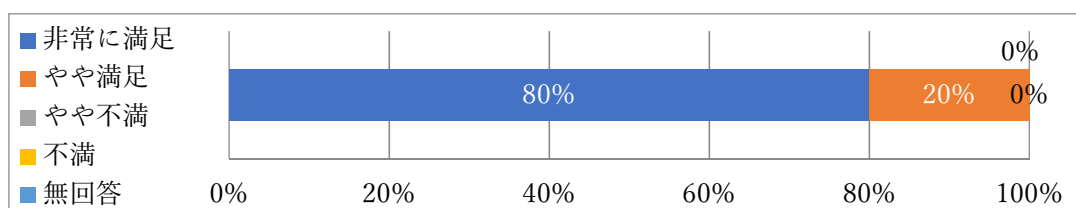
○その他意見

・特になし

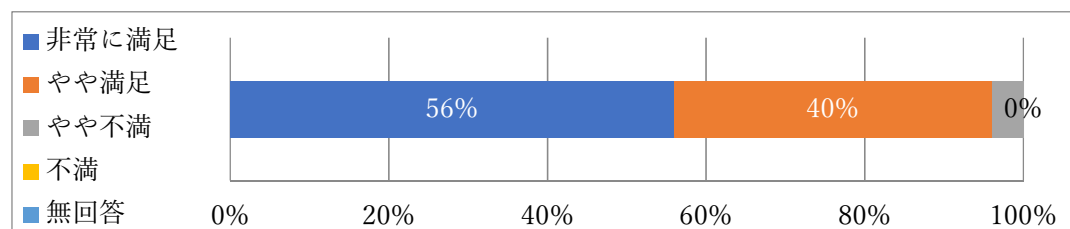
(2) 公開講座 2 「最古の動物化石を求めて世界をめぐる」アンケート集計結果

回答者 25 名（受講者 26 名）

質問 1 「講座の内容はいかがでしたか？」



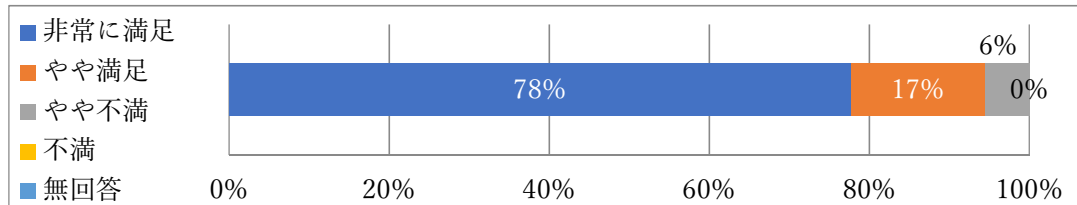
質問 2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



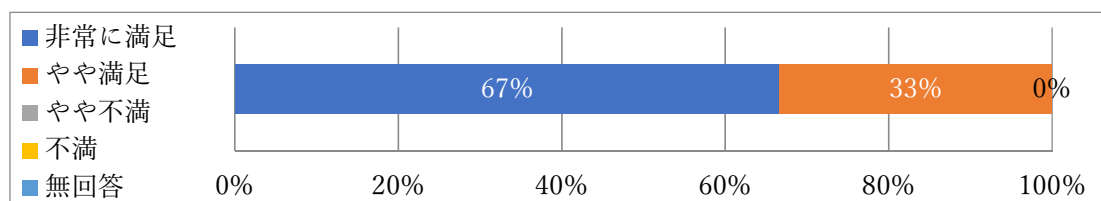
(3) 公開講座 3「人の知恵の進化」アンケート集計結果

回答者 18 名（受講者 18 名）

質問 1 「講座の内容はいかがでしたか？」

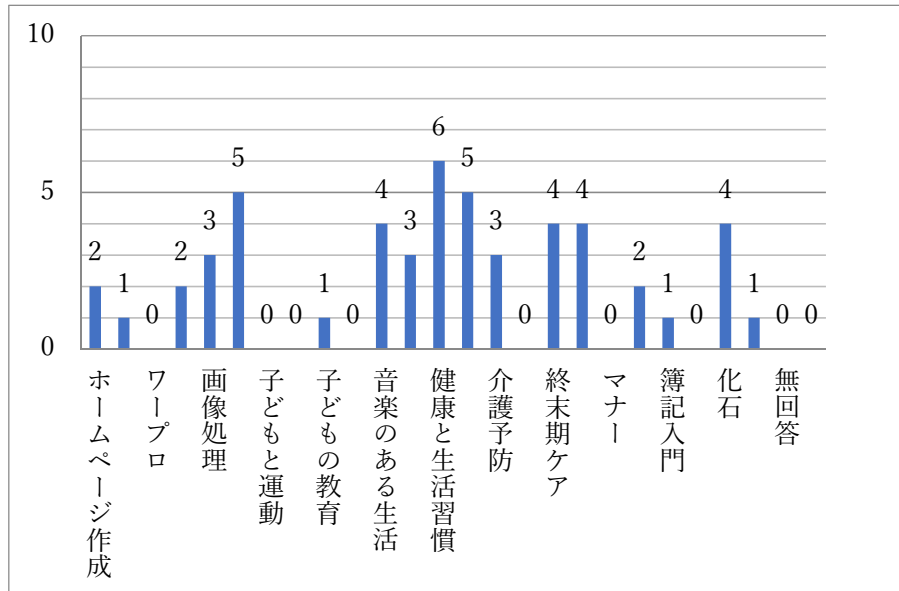


質問 2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」

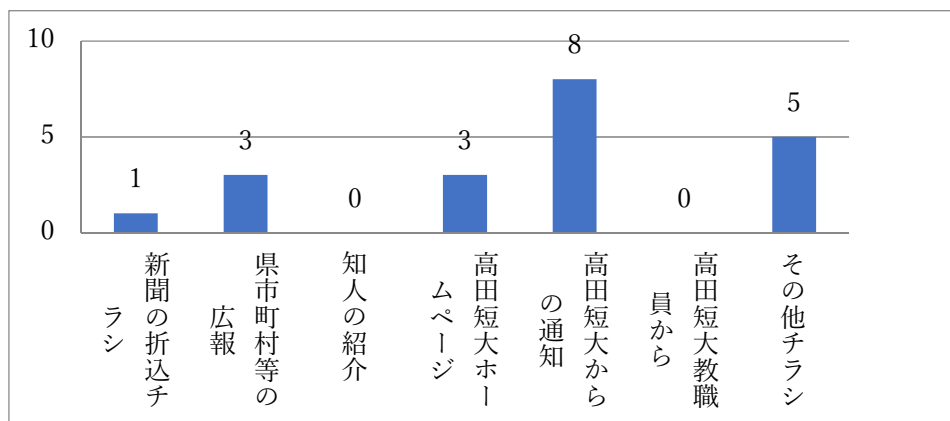


質問 3 「アシスタントの対応はいかがでしたか？」

質問 4 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問 5 「公開講座を何でお知りになりましたか」



○希望する講座について

- ・スマホの活用

○どこで講座を知ったか

県文化センター／県立図書館

○講座や会場について

- ・前回と違い多岐多方面にわたり過ぎたのではないかな。
- ・丁寧な会場案内の書類、会場への案内表示、それに何よりも職員の方々の心温まる案内には頭下がります。それだけでも大野先生のお話はどれも興味深くてそれらを絶妙なトークで講義を受けさせてもらって 90 分はあっという間のハッピータイムでした。
- ・非常に興味深く講義を聴くことが出来ました。本当にありがとうございました。少し参加者が少なく残念に思いました。積極的な PR を今後行なったらと思います。

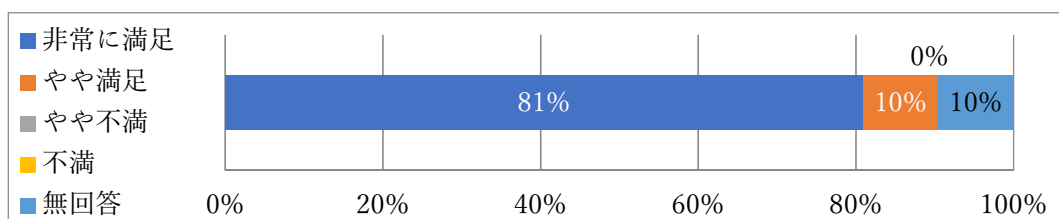
○その他意見

- ・特になし

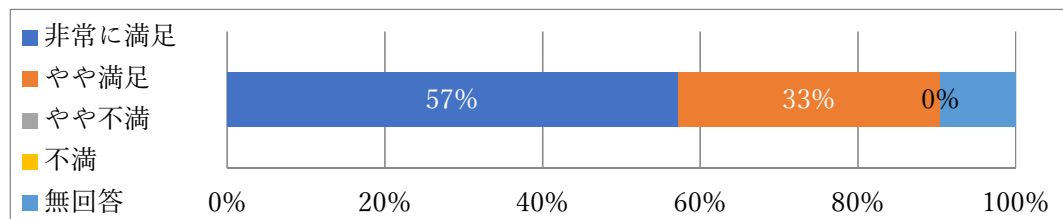
(4) 公開講座 4「学びの楽しさを広める」(好奇心講座その 3) アンケート結果

回答者 19 名 (受講者 21 名)

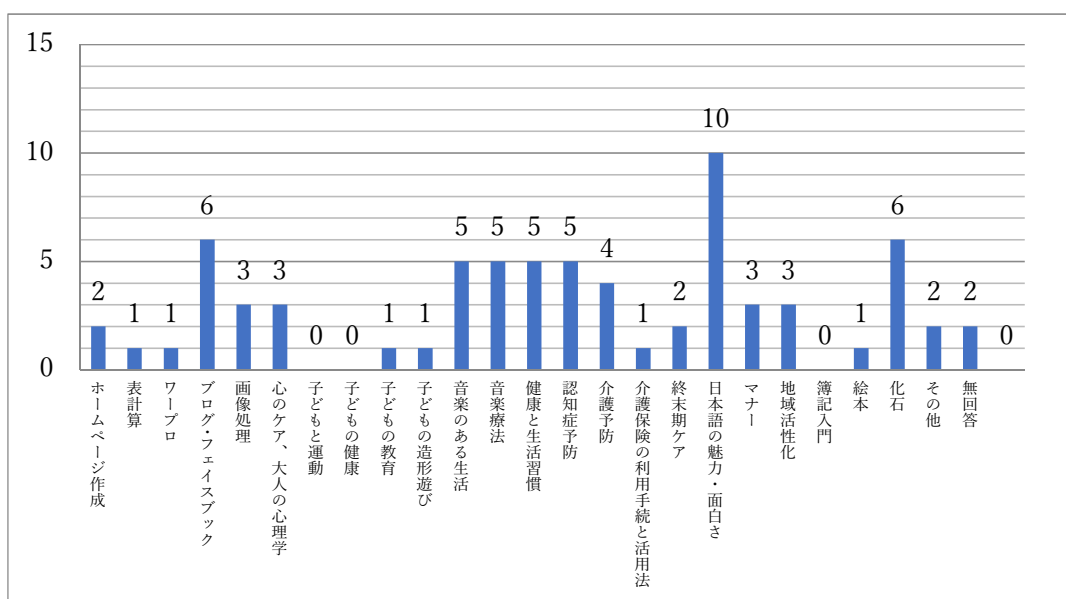
質問 1 「講座の内容はいかがでしたか？」



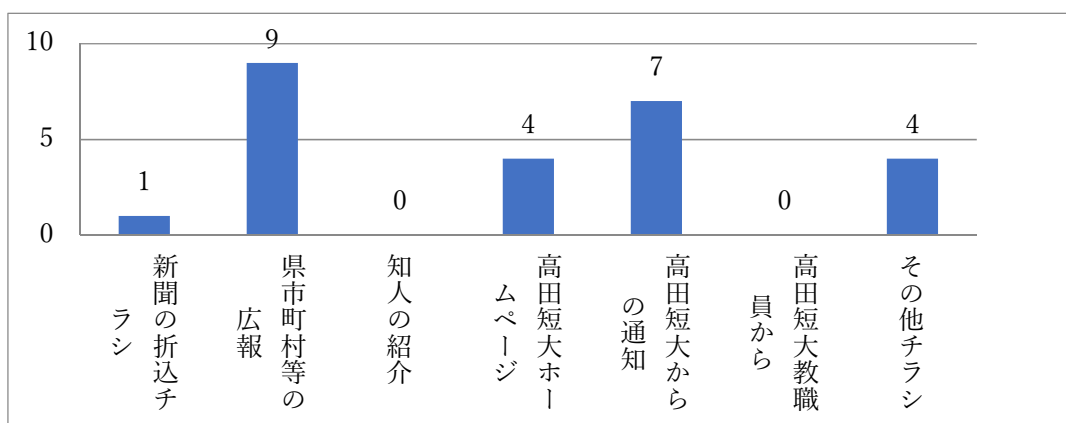
質問2 「会場の広さ、会場の機器や備品はいかがでしたか？」



質問4 「今後、高田短期大学公開講座において希望されるものを選んで下さい」



質問5 「公開講座を何でお知りになりましたか」



○どこで講座を知ったか

県総合文化センター／津市図書館

○講座や会場について

- ・とても楽しい講座でした。
- ・今日は、貝のしくみを、こんなに真剣に考えるようになるとは思っていませんでした。本当にエキサイティングで知る喜びを味あわせて頂きました。夕食に貝が出た時には、家内の前で自慢話してしまいそうです。
- ・3回連続のコウザとは知らなかった。(残念) チラシの読みこみ不十分?
- ・考える、仮説もたてる、→そして答にたどりつく。この過程が大事なことは私も同感。子どもにそのように接すると、早く答にたどりつきたい子どもはイヤがる。考える問い—アナタはどう考えたの、それきかせて—をするのだが(しているつもり)、子どもがイヤがる。このあたりどう越えればよいかなあー。

(5) まとめ

- ・それぞれ関心の高い講義を受講しているためであると思われるが、講座の内容に関してはほとんどの受講者の満足度が高いといえる。
- ・会場、設備等についてもおおむね満足度が高い。
- ・今後期待する講座は、受講した講座に関連があるものや、受講者の年齢層に関連性が高い内容の傾向がみられる。健康に関することやデジタル系の講座の需要が高い。
- ・講座を知るきっかけとして、本学のHPやお知らせ、市町村の広報などの効果が大きいといえる。

本年度はコロナ以前に戻り、講座数を増加した。従前どおりの公開講座に加え、図書館講座を企画し、いずれも好評を得ている。来年度も本年後の講座数を維持しつつ、新しい内容にも挑戦していくこととする。

VI. 2023 年度 高田短期大学付属図書館公開講座

2023 年度において新規に「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」として下記3講座を開講した。水曜日の14:40~16:10に図書館1階グループワークエリアで開催し、講師は3講座とも図書館司書の瀬古幸弘が担当した。

【講座1】「石牟礼道子とMINAMATA」

実施日 9月6日(水)

【講座2】「平家物語 ―― かくも愛しき武士(もののふ)たち」

実施日 11月29日(水)

【講座3】「遠藤周作 ―― フランスへの旅」

実施日 2月28日(水)

3講座一括での申し込みとしたため、3講座とも同じ受講者が受講した。ティーサービスと座談会を含めた構成とし、ティーサービスについては、感染症対策の一環として、ペットボトル飲料の提供とした。

定員は当初 20 名であったが、応募があったため 22 名とした。
実際の受講者数は、【講座 1】 20 名、【講座 2】 16 名、【講座 3】 20 名であった。

各回で講座の内容について満足度のアンケートを実施した。
【講座 1】 非常に満足 13 名 やや満足 6 名 無回答 1 名
【講座 2】 非常に満足 10 名 やや満足 4 名 無回答 2 名
【講座 3】 非常に満足 11 名 やや満足 6 名 やや不満 1 名 無回答 1 名
前年度に引き続き、おおむね満足を得られた結果となった。

最終回【講座 3】では詳細なアンケートを実施した。
当講座では、図書館で司書が文献の紹介をするという講座の性質上、講座レジュメに加えて、ある程度の分量の資料を配布している。受講者に確認したところ、
(資料の分量について) このままでよい 9 名 このままでよいがもっと説明が欲しい 2 名

減らしてほしい 7 名 (資料は) いらない 0 名 (複数回答可)
と、「資料はいらない」と答えた受講者はいなかった。担当講師からは「配布資料はご自宅で取捨選択のうえ、ファイリングしてください」とご案内しているが、昨年度から引き続いて参加して、資料の質を理解し評価している受講者が一定数いるとみられる。

さらに個別の補足意見として、
「この講座を友人にも伝えたく思いました。」(講座 1)、「ほろびゆく者の切なさ、美学を短いながら豊かに味わえた時間となりました。」(講座 2)、「時間も忘れてしまう楽しい講座でした。次回も楽しみにしています。」(講座 3)、などといった声が聞かれた。

VII. 図書館だより

昨年度と同じく、7 月(第 58 号)と 1 月(第 59 号)に各 800 部を発行した。いずれも、本学図書館の広報に加えて、学生・教職員が図書に対する想いを語る場としても機能している。また、第 59 号は大野館長による石川武美記念図書館の紹介があり、普段の記事と異なるアプローチから図書の魅力が伝えられた。今後も、図書館だよりは本学図書館の広報に欠かせないが、ペーパーレスの進展に伴って、電子化も検討しなければならない。

VIII. 創作作品展

7 月 11 日から 10 月 11 日まで作品を募集し、10 月 14 日から 20 日までの 7 日間、40 名の学生から応募があった 42 点の創作作品を展示した。

実施にあたり、本年度は次の5点を新たに試みた。①作品募集のポスターを外部へ発注した。②学生個人の応募に加えて、授業およびゼミ担当教員ごとに10点程度の推薦枠を設けた。③高短祭の2日間（10月14、15日）は、カフェテリアに展示スペースを設置し、その後は図書館前で展示した。④情報基礎演習の授業内で制作したPCコンテンツを展示した。⑤一般の入場が認められたことに伴い、一般の方からも投票を受け付けた。

そして、期間中に学生・教職員・一般を合わせて85件の投票があり、11月14日に図書館グループワークエリアで表彰式を行った。投票の内訳を確認すると、PCコンテンツの得票数が少なく、一覧性で不利なことが影響したと考えられる。

昨年度と比較すると、応募総数は10点から42点へ大幅に増加した。応募の内訳を確認すると、推薦枠の新設が大きく貢献している。一方、投票数が116件から85件へ減少した。集計の簡素化を企図して学生・教職員の投票をAAAで実施したが、手間が掛かって投票につながらなかったと考えられる。次年度は、一般に加えて、学生・教職員も一般記名式投票用紙で投票を実施したい。

IX. 図書展示

2023年4月～2024年3月の図書展示

時期	展示テーマ
4月	新着図書、「春はアウトドア」「文学で世界を旅してみよう」
5月	新着図書、「スイーツパラダイス」
6月	新着図書、「心に残る言葉」
7月	新着図書「サマークッキング」「いきもの」
8月	新着図書、「芥川賞&直木賞受賞作品」
9月	新着図書、「図書館公開講座 石牟礼道子とMINAMATA」
10月	新着図書、「創作作品展 作品募集」
11月	新着図書、「図書館公開講座 平家物語」「お仕事小説」
12月	新着図書、「図書館メイトおすすめ本」
1月	新着図書、「直木賞&芥川賞受賞作品」、「図書館だより掲載本」
2月	新着図書、「体験してみませんか『点字』の世界」、「図書館公開講座 遠藤周作」
3月	新着図書、「新たな一歩を踏み出すあなたに」「本屋大賞ノミネート作品」

(以上の他に、1F 絵本コーナーで季節の絵本を随時入替展示)

X. 雑誌リサイクルの実施

10月9日～15日に実施した。9日～13日は図書館前、高短祭の14日、15日は2号館1階カフェテリアで開催した。案内ポスターは図書館メイトに作成依頼した。毎年行っているが、まだあまり学生に伝わっていないと思われるため、もっと広報していきたい。

XI. 令和5年度改善したこと

1. 閲覧室について

- ・2階閲覧室のスチール書架10本について、これまでは互いの書架の上部が木材で連結されていたのみだったが床固定も行い、書架転倒防止対策を講じた。
- ・閲覧室の維持・環境改善のため、2階の閲覧用椅子8脚のクリーニング、1階用の除湿器購入、1階と3階閉架書庫への温度湿度ロガーの取り付けを行った。

2. 図書館メイト

- ・昨年度に続きグループでの活動はあまりできなかったが、創作作品展や雑誌リサイクルは図書館メイトの協力の下、進めていくことができた。
- ・図書館メイト出演のPR動画を制作。
- ・点字図書館での勤務経験がある図書館メイトからの申し出を受けて、9月8日(木)に「90分で学ぶ 点字の書き方体験会」を実施した。体験を含むため少人数の講座として企画し、教職員からの申込が4名あり、3名参加があった。

3. ホームページのおすすめ図書情報更新

- ・推薦図書の依頼時に、少なくとも3冊程度の推薦図書に推薦コメントをつけていただくことをお願いし、推薦コメントをいただいた図書をホームページの「おすすめの新着本」として掲載することができた。

XII. 令和6年度に向けた課題

1. 学生の利用促進に向けた取り組み

コロナ禍がほぼ終息しつつあり、学生の利用者数も回復しつつあるが、子ども学科2年生、オフィスワークコース1、2年生では、回復のスピードが遅く、利用促進のための施策が必要である。キャリア育成学科では、全学生にまとめてガイダンスを行う機会を設けており、子ども学科でも同様の試みをされることが期待される。



2. 紀要の投稿数の減少

令和2年度8件、3年度9件に対し、4年度、5年度は投稿が6件にとどまった。研究成果の発信をになう紀要なので、今後投稿数を増やす努力が必要であろう。

3. 2階および3階の本の整理

2階および3階の書架が手狭になってきたため、学科コースの協力をいただきながら、本の整理をしていく必要がある。

4. レポジトリの充実

高田短大に所蔵の図書を、広く活用できるように、電子化されたファイルのネット上でのより効果的な公開の方法を探る。

5. 私立短期大学東海・北率竹図書館協議会 令和6年度総大会の開催

令和6年度は、当番校にあたっており、準備・実施に労力を割く必要があり、他の図書館業務とのバランスをとりつつ遂行してゆく必要がある。

X II

学生支援委員会

年次報告書

委員長 長倉 里加

1. 昨年までの課題

- ・教職員に対する、支援が必要な学生についての情報集約場所の周知、明示。
- ・学生に対して相談場所についてわかりやすく周知。
- ・学生相談室の整備及び学生支援委員会との連携体制の整備。
- ・全教職員に対して学生支援について理解する機会の設定、研修会の開催。
- ・学生相談についての業務フローの作成。
- ・UPI に代わる検査の検討と、配慮が必要な学生の早期発見、早期支援の仕組みづくり。

2. 本年度改善されたこと

- ・学生相談室の設置により学生が相談できる場所が明確となった。
- ・合理的配慮に関して F D ・ S D 研修会を開催することで、教職員の理解が深まった。
- ・学生支援について保健室、キャリア支援センター、カウンセリング室の業務フローの作成と共有が図られた。
- ・次年度以降常勤の臨床心理士を配置することが決まり、配慮が必要な学生に対する早期発見、早期支援の仕組みづくりがされることとなった。
- ・「修学に関する支援申請書」提出から支援決定までのフローの完成。

3. 新たな課題

- ・全学的な学生相談・支援体制の業務フローが作成されていないこと。
- ・常勤の臨床心理士配置について、その業務内容や各部署との連携について検討が必要。
- ・学生支援委員会で情報共有されていなかった学生の急な休退学が多く、支援が必要な学生についての情報集約が不十分であったこと。
- ・学生による学生相談室の活用が不十分であったこと。
- ・支援を要する学生だけでなく、多様化する学生を取り巻く問題について悩んでいる学生が些細なことでも相談しやすい場所の整備。

4. 次年度取り組むべきこと

- ・全学的な学生支援の体制整備と学生、教職員への周知。
…業務フローの作成、臨床心理士の業務の明確化、教職員との協働体制の整備など
- ・教職員向けの学生支援に係る研修会を継続して開催すること。
- ・学内における検査体制の整備など、短大内でのサポート体制の充実を図る。
- ・学生相談室について学生への周知を徹底し、より活発な活用を図る。
- ・多様化する学生への支援体制の見直し
…学生相談における専門性の向上、UPI テストに代わる検査の検討など

X III

仏教行事委員会

年次報告書

委員長 松山 智道

I. 昨年までの課題

1. 行事全般について

- ・行事への出席者を増やすための工夫が必要である。
- ・灌仏会の花を持参する学生数を増やす工夫が必要である。
- ・ミニレポートの内容を充実させる工夫が必要である。
- ・他大学の仏教行事への取り組み事例を引き続き調べたい。
- ・一般の出席者への呼びかけを強化する。

2. 聖歌隊について

- ・昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、歌う機会がないまますべての仏教行事が終了した。昨年度同様、自治会と聖歌隊の兼務状況を今後どのように対応するかを検討する必要がある。

II. 本年度改善されたこと

1. 行事全般について

- ・灌仏会では、献花を持ってきた学生が、令和元年度が35名、令和二年度が24名、令和三年度が61名、令和四年度が89名、そして今年度は60名であった。前年度より減少はしているが、大幅な減少ではないと思われる。
- ・灌仏会では、例年行事が終わってすぐに花御堂を解体しているが、行事中は後方の座席の学生からはよく見えないため、前年同様に、1回事務所前に翌日昼まで飾り、近くで見たことのない教職員から好評をいただいた。
- ・ミニレポートの提出を、「まなば」から行事終了後の自筆提出したので、考えながら行事および講話に取り組めたように思われる。

2. 聖歌隊について

- ・歌う機会は無かったが、昨年度同様に、年間を通して行事の準備や後片付けを手伝ってもらうことでボランティアのカウントとした。

III. 新たな課題

1. 行事全般について

- ・昨年同様、2年生の出席率が極端に低くなっている。

2. 聖歌隊について

- ・新型コロナウイルス感染症は五類に移行したが、いまだに感染対策重視のため、今年度も1年間歌う機会がないまま終了した。次年度は、歌う機会を設ける工夫が必要である。

IV. 次年度に取り組むべきこと

1. 行事全般について

- ・特に二年生の出席者数を増やす工夫を考える。
- ・灌仏会の花を持参する学生数を増やす工夫を考える。
- ・ミニレポートの内容を充実させる工夫を考える。
- ・他大学の仏教行事への取り組み事例を引き続き調べたい。
- ・ご本山への参詣が入学式後の一回のみであるから、さらに回数を増やす手立てを考える。
- ・講師の人選についても、学生の関心を引き、新鮮な話が聞ける講師を考える。

2. 聖歌隊について

今年度もさらに聖歌隊員を募集し、昨年同様に、聖歌隊反省会兼交流会の回数や内容を充実させ、隊員同士を交流させることで隊員間の意思疎通が容易になり、聖歌隊を維持する上でプラスになると思われる。

XIV

ネットワーク委員会

年次報告書

委員長 鷺尾 敦

1. 令和5年度当初の課題

(1) 推奨ノートパソコンの仕様の決定

ノートPC配布をやめ新入生が個々に購入するようにするために、準備すべきノートPCの仕様を決定し、新入生に知らせる必要がある。そのため、授業でどのようにノートPCを使うかを非常勤講師を含めた教員にアンケート調査を行うとともに、オンライン授業でも必要となる機能や性能を加味し、ノートPCの仕様と最低限の導入アプリケーションを検討する。また推奨パソコンや周辺機器のリストを作成する。

以上を前年度の総括において課題として記載していた。

2. 本年度改善されたこと

(1) 新入生自身がノートPCを問題なく購入できること

新入生が自分で購入できるよう、ネットワーク委員会が中心となり、各学科で検討していただき、手持ちパソコンでも可能かどうかを判断するための「基本スペック」、新たに購入するのであれば、よりよい性能の「推奨スペック」を検討した。これをもとに広報課を中心として保護者に伝わりやすい文書化が行われた。

一方で、パソコンを選ぶことができない家庭もあると推測されるため、ヤマダデンキに相談し、オンラインで購入できるWebサイトを準備していただいた。ケーズデンキやエディオンにも相談したが、そのような対応はできないとのことであった。案内用のちらしをヤマダデンキが準備をし、こちらで確認修正をして、1月に合格者へ本学作成の案内文とともに送った。

ヤマダデンキ構築の購入Webサイトからは、46件の購入があった。本学への相談は、12名の保護者及び2名の新入生から相談があった。

(2) ネットワーク利用手引書の改訂と配布

令和5年度に、ネットワーク利用手引書が学生に配布できていなかったことがわかり、令和6年度にAAAを通じて配布することとした。そのために、内容の改善も進めた。

3. 新たな課題

(1) 新入生のノートパソコンの購入状況の把握

令和6年度入学生から各自でノートパソコンを準備することになり、令和5年度その準備を行った。これらの準備や保護者への対応など、うまくいったのか検証をする必要がある。また、実際に新入生がどのようなパソコンをどのような方法で購入したのか購入状況を把握する必要がある。また、購入する際にどのような問題があったのか、どのような支援があればよかったのかも把握する必要がある。そのための調査を実施し、どのような課題があり、どう改善を進めていくかを検証していく必要がある。

4. 次年度取り組むべきこと

(1) 新入生のノートパソコンの購入状況の把握

情報基礎演習などの時間を使って、学生に準備したノートパソコンについてアンケート調査を実施し、結果を整理分析する。

(2) ネットワーク利用手引書の改訂と配布

学生向けネットワーク利用手引書を AAA を通じて配布する。



外国人留学生支援委員会

年次報告書

委員長 中畑 裕之

I. 昨年度までの課題

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

- ・ 修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得
- ・ 留学生の勉学へのサポートの充実
- ・ 日本人との交流、日本語を話す機会の拡大
- ・ 健康管理・感染予防など日常生活での意識の継続

(2) 国家試験対策に関すること

- ・ 留学生の国家試験合格へのモチベーション向上
- ・ 介護福祉コースと連携しての取り組み

(3) 留学生支援委員会に関すること

- ・ 協議や情報共有が必要な事項とその時期を整理し、委員会活動の効率化を図る

II. 本年度改善されたこと

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

- ・ 修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得

令和6年度に介護コースに入学する学生については、全員N3もしくはそれに準ずる日本語能力を有する者を獲得することができた。令和5年度入学生より、N2以上に合格している者の学費を減免する制度を設け、日本語能力が高い留学生にアピールする武器ができた。

- ・ 留学生の勉学へのサポートの充実

継続的に行ってきているものであるが、日本語補修講座を開催するほか、介護福祉コースの授業で補助が必要なものに日本語補助員を配置した。また、留学生支援室で出欠の確認、授業・教科書でわからない言葉などのサポート、履修登録への支援などを行った。

- ・ 日本人との交流、日本語を話す機会の拡大

介護コース2年生は日本人と留学生がほぼ半々、1年生は5:1となったことから、以前のように留学生だけで固まり、授業以外はほとんど日本語を使わないという状況は改善された。日本人が多くなったことで、日本人学生が留学生をサポートする様子も見られるようになった。

- ・ 健康管理・感染予防など日常生活での意識の継続

コロナ感染症は5類となったが一定新規感染者はあり学内でも感染者は出ていることから、引き続き注意喚起を行い、実習の前などコースでも指導を行った。

(2) 国家試験対策に関すること

- ・ 留学生の国家試験合格へのモチベーション向上

介護福祉コース、留学生支援室で、介護福祉士の資格を取得することにより安定的に日本で働き続けることができること、処遇も良くなることなどを伝え、モチ

ベーションの向上につなげようとしている。また、国試対策講座を開催し、受験をサポートした。

(3) 留学生支援委員会に関すること

- ・教授会・運営会議での協議や情報共有が必要な事項とその時期を整理し、メールでの情報共有を行うことなどで、年度6回程度開催していた委員会を今年度は3回に削減した。それによる支障は特に無かったことから、年度3～4回程度の開催で、委員会の運営は可能と考えられる。

Ⅲ. 新たな課題

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

- ・修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得
- ・日本語能力向上へのモチベーションアップ
- ・留学生の勉学へのサポート
- ・日本人との交流、コミュニケーション力の向上
- ・健康と安全を守る指導の充実

(2) 国家試験対策に関すること

- ・留学生の国家試験合格へのモチベーション向上
- ・介護福祉コースと連携しての取り組み

(3) 留学生支援委員会に関すること

- ・効率的で計画的な委員会の開催
- ・オフィスワークコース、介護福祉コースとの連携

Ⅳ. 来年度の取り組み

(1) 外国人留学生の修学および生活指導に関すること

勉学へのモチベーションの向上、修学に必要な日本語能力の獲得、心身の健康と安全を守る指導を、介護コース、オフィスワークコースと連携して行っていく。学生の状況を良く把握しながら、次の事項に重点的に取り組む。

- ・修学に必要な日本語能力を有する留学生の獲得

N2以上保有で授業料が減免される制度や上位資格を取るための補修講座の開講などをアピールし、より日本語能力の高い学生、日本語の修得に意欲を持つ留学生の獲得につなげる。

- ・日本語能力向上へのモチベーションアップ

国家試験への合格、日本での就労には日本語能力が重要なことを、各コースでも留学生支援室でも、留学生に重ねて伝える。N1、N2レベル合格者には授業料減免制度が適用されることを伝え、日本語能力向上へのモチベーションを高める。

- ・留学生の勉学へのサポート

留学生には支援が必要と考えられる授業については日本語補助員を配置し、サポートを行う。また、教員と連携して、留学生支援室で勉学に関する相談に対応していく。

- ・日本人との交流、コミュニケーション力の向上
授業の中や高短祭などのイベント、ボランティア活動など、日本人学生と話し、協働する機会を多く設けるようにし、日本人との交流、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ・健康と安全を守る指導の充実
コロナやインフルエンザなどの感染症への注意喚起、健康管理への指導を引き続き行っていく。また、ネット上を含めた詐欺や怪しい勧誘への注意喚起を行っていく。

(2) 国家試験対策に関すること

- ・留学生の国家試験合格へのモチベーション向上
介護福祉コース、留学生支援室で連携し、介護福祉士の資格を取得することにより安定的に日本で働き続けることができること、処遇も良くなることなどを伝え、合格へのモチベーション向上につなげる。また、国試対策講座により受験をサポートしていく。

(3) 留学生支援委員会に関すること

- ・効率的で計画的な委員会の開催
協議が必要な事項のスケジュールを明確にし、メールでの情報共有なども利用し、効率的に委員会は開催する
- ・オフィスワークコース、介護福祉コースとの連携
オフィスワークコース、介護福祉コースと協力・連携して課題に取り組む。また、留学生の状況を共有し、学生の抱える課題に対処していく

XVI

研究倫理委員会

年次報告書

委員長 大野 照文

I. 研究倫理委員会の組織

委員 福西朋子、野呂 賢一、生駒 雅之 大野 照文（委員長）
事務局 高臣 亮太

II. 審議の流れ

審査の流れは、以下の通り。

【5月末／11月末まで】

各申請者から申請書類の到着

【申請書類到着後】

- ・倫理審査申請書チェックシートの作成
- ・申請書類の内容確認 →PDF で取込み
- ・ML にて各委員に委員会開催日時の通知、及び資料の送付

＜資料について＞

- ・倫理審査申請書チェックシート
- ・申請書類(申請書、及び論文原稿)
→事務担当者作成
- ・事項書

【研究倫理審査委員会】

実施計画については内容について研究倫理的な観点から問題がないか審査
出版公表原稿については原稿の提出もしてもらい、内容を審査
審査後に承認、条件付き承認、変更の勧告、不承認、非該当のいずれかを決定
条件付き承認については委員会後に対象者に連絡し修正・再提出を依頼

【研究倫理審査委員会後】

- ・議事録作成
- ・答申書(別紙様式2)作成 ※条件付き承認については修正箇所を記載
- ・修正後の申請書を回収

【学長へ資料の提出】

→倫理審査申請書チェックシート、各申請書(修正後のもの)、答申書
以上3点を学長に提出し、承認してもらう

【学長承認後】

・結果通知書(別紙様式3)を作成 ※修正した条件付き承認のものも承認とする

- ・起案をして、結果通知書、議事録、チェックシートを添付して決裁
- ・決裁取れ次第、学長印を押印して各教員へ送付

III. 議事録

1. 令和5年度 第1回研究倫理委員会議事録

1. 日 時： 令和5年6月5日（月）10:00～10:50
2. 場 所： 図書館
3. 出席者： 委員長 大野 照文
委 員 福西 朋子、野呂 健一、生駒 昌之（全員出席）
事務局 高臣 亮太
4. 協議内容
 - （1）申請の確認（2件）
今回の2件の申請について「高田短期大学研究倫理規定」に基づき、申請書について審査を行った。
 - （2）審査協議
上記の結果、2件の申請を承認とすることを委員長と出席委員全員の合意により判定した。
5. その他
 - （1）研究倫理・公正についての啓発について
研究倫理・公正の啓発について、2021年に鷺尾研究倫理委員長が行ったアンケート等の活動の内容を参考とし、今後の啓発活動について改めて検討していくこととなった。
 - （2）審査時期について
審議は、6月・11月及び年度末を予定するが、委員長の判断により急ぐ必要がある申請については別途審議を行うこととなった。

2. 令和5年度 第2回研究倫理委員会議事録

1. 日 時： 令和5年12月11日（月）10:40～11:40
2. 場 所： 図書館
3. 出席者： 委員長 大野 照文
委 員 福西 朋子、野呂 健一、生駒 昌之（全員出席）
事務局 高臣 亮太

【協議事項】

1. 審査

(1) 申請の確認 (5 件)

今回の 5 件 (No 4 ~ No 8) の申請について「高田短期大学研究倫理規程」に基づき、

申請書について審査を行った。(なお、9 月提出分は事前に web・回覧審議にて承認され

ていること確認された。)

(2) 審査協議

上記の結果、1 件の申請 (No 7) については、下記の理由により「不承認」とすること

となった。その他の申請については承認することを委員長と出席委員全員の合意により

判定した。

No 7) の申請について

「10 研究における倫理的配慮について (2) 対象者等に理解を求め、同意を得る方法」に記載されている「ホームページ・文集等への記名掲載」への承諾と「研究利用」への承諾では意味合いが違い、今回は「研究利用」への承諾は得られていないと判断されるため

2. その他

(1) 研究倫理・公正についての啓発について

鷲尾前研究倫理委員長から紹介された web サイト、また、他大学の取り組みの一例が紹介されたうえで、次年度以降に向けた取り組みについて協議された。協議の結果、研究倫理審査申請書を提出する時には、外部サイトの e ラーニングを受講し、その修了証を添付することを求めていくこととなり、内規の改定を目指すこととなった。

(2) 審査時期について

審査については、今まで通り 6 月・12 月の会議で行うことは変更しないが、審査の緊急性などを委員全員で判断するため、申請書は提出毎に全委員へメール共有し、緊急性があれば会議招集をしていくこととなった。

IV. 申請課題と審査結果

	No.	所 属	職 名	名 前	審査対象	課 題 名	研究実施予定 期間	研究発表先	提出日	審査結果
前期	1	子ども学科	教授	福西 朋子	実施計画	保育学生の自然保育に関する意識調査	2023年4月～ 2025年3月	日本自然保育学会 保育者養成教育学会 高田短期大学育児文化紀要 (予定)	4月13日	6月6日 承認済
	2	子ども学科	特任 教授	大野 照文	実施計画	短大生の好奇心のありかたの調査	2023年6月～ 2024年3月	高田短期大学紀要 (予定)	6月5日	6月6日 承認済
後期	1	子ども学科	助教	古谷 淳	実施計画	保育人材仲介企業が感じる 保育所経営者から求められている 人物像に関する意識調査	2023年10月～ 2024年12月	日本児童学会、日本家政学会 等の学術誌への投稿 (予定)	9月4日	10月9日 承認済
	2	子ども学科	教授	山本 敦子	実施計画	保育者の音楽的専門性の形成 プロセスと要因に関する研究	2020年9月～ 2029年3月	日本音楽教育学会第54回大会	9月5日	10月9日 承認済
	3	キャリア育成学科	特任 講師	服部 優子	実施計画	介護施設現場においての実習 指導者が抱える実習指導 への不安と課題について	2023年9月～ 2024年3月	高田短期大学介護福祉研究センター 「介護・福祉研究第10号」 掲載予定 (令和6年3月末発行)	9月20日	10月9日 承認済
	4	子ども学科	教授	福西 朋子	実施計画	保育・幼児教育と自然に関する調査	2023年10月～ 2026年3月	日本自然保育学会、保育者養成 教育学会、 高田短期大学育児文化紀要 (予定) ※研究成果発表は、調査実施 報告含め2か年で複数回行う 予定とする。	10月4日	12月11日 承認済
	5	キャリア支援センター	キャリア サポーター	金森 まさ	実施計画	乳幼児親子の生活と支援 ーおやこひろば利用者における 「おしゃべりしませんか」の 実践からー	2020年4月～ 2023年3月	高田短期大学育児文化研究 第19号 2024年3月	11月1日	12月11日 承認済
	6	子ども学科	助教	古谷 淳	実施計画	保育所運営企業で働く保育士 の就労経路の違いによって 生じる満足度に関する調査	2023年11月～ 2025年3月	日本保育学会、日本家政学会 等の学術誌への投稿 (予定)	11月17日	12月11日 承認済
	7	キャリア育成学科	准教授	中川 千代	実施計画	小中学生対象の介護作文コン クール受賞者の作文内容から みえてきたもの～家族環境、 体験等の共通点～	2020年4月～ 2024年3月	介護福祉研究センター「介護・ 福祉研究 第10号」 令和6年3月発行予定	11月24日	12月11日 不承認済
	8	子ども学科	助教	中嶋 麻衣	実施計画	三重県内の保育施設における 自然保育に関する調査	2023年12月～ 2026年3月	日本自然保育学会 保育者養成 教育学会 高田短期大学育 児文化紀要 (予定) ※研究成果発表は、調査実施 報告含め2か年で複数回行う 予定とする。 ※みえ自然保育協議会に関わ る会員等対象に紙面やWeb上 で発信する 予定とする。	11月30日	12月11日 承認済
	9	子ども学科	教授	青木 信子	実施計画	新任保育者の早期離職の原因 とその対応について ー保育学生が思い描く将来 像とはー (仮)	2023年4月～ 2024年3月	高田短期大学育児文化紀要 (予定)	12月12日	12月18日 承認済

XVII

ボランティア活動支援室運営委員会

年次報告書

委員長 川喜田 多佳子

I 昨年までの課題

1. 学生のボランティア募集→活動→報告までのシンプルかつ正しい手順の確立（継続）
2. 新たな体制（コーディネーター）との連携体制の確立
3. 杉谷先生が持っていた携帯電話の取り扱いについて。

II 本年度改善されたこと

1. 全体

- （1）杉谷先生所有であった携帯電話を、委員持ち回りでの緊急連絡用電話とした。
- （2）毎月のボランティア実績一覧を教授会で報告することにより、対象学生を学研債保険対象となるようにした。
- （3）高田短期大学ボランティア活動支援室「ボランティアに関するガイドライン」を作成。さらに公式 Web「教育・研究・社会活動」内に「ボランティア支援」のカテゴリを作成し、ガイドラインとボランティア申請書の書式を置いた。

2. 子ども学科

- （1）令和 5 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症が「5 類」に移行したことを受け、1 年間を通して 2 回以上のボランティア活動をおこなうこととした。移行期間であり、コロナ禍以前の状態には戻っていないが、学生がボランティア活動をおこなう実数は増加傾向となった。

3. オフィスワークコース

- （1）強制拘留者協会、白子公民館、警察庁サイバーボランティアには多くの学生が参加。警察官試験合格者の排出にもつなげることができた。
- （2）新たな試みとして、介護福祉コースとのコラボレーション「一身田七夕祭りの企画運営」ボランティアにおいては、臼井織布、オカモトや様の協力を得て、伊勢木綿を着ての活動が地元一身田 PR にもつながった。
- （3）年 2 回講座として実施した、白子パソコン教室では、学びのお披露目の場として、受講者に大変喜んでいただくことができた。
- （3）オープンキャンパスでは、学生生活や授業の様子などを発表し学生募集に貢献できた。

4. 介護福祉コース

- （1）三重県介護福祉士養成施設協議会主催の、FM 三重での委託訓練生 PR イベントに 3 名の学生が参加。コース広報にも貢献できた。
- （2）三重県社会福祉協議会主催の介護の日イベント「みえ福祉・介護フェア 2023」にコース学生が授業を通しての呼びかけに応じ 12 名が参加したことは介護福祉の啓発に貢献できた。
- （3）また、オフィスワークコースとのコラボレーションで第 40 回一身田

七夕まつりのボランティアに参加できたことは地域とのつながりとコースを超えた関わりを持つことができ良い取り組みができた。

Ⅲ 新たな課題

1. 全体

- (1) 新たな体制（新任コーディネーター）との連携体制をより整える。

2. 子ども学科

- (1) 昨年までのコロナ禍からの移行期であったため、保育施設等からのボランティア要請が予測できない状態にある。ひとつひとつの要請を吟味し対応する必要がある。

3. オフィスワークコース

- (1) 本年度をもってキャリア研究センターが廃止され、イベント等はオフィスワークコースが管轄することとなる。コースとしてこれまでの学生ボランティア活動内容を見直す必要がある。
- (2) ゼミナール単位で活動できるボランティア活動を積極的に取り入れ、地域貢献への意識を高めていく必要がある。

4. 介護福祉コース

- (1) 来年度は日本人学生がさらに増加する。コロナ禍の状況の影響は残るものの、社会貢献の重要性を意識できるようボランティア活動に積極的に参加できる呼びかけや環境作りが必要である。
- (2) 新しい教員を迎え、介護福祉コース、介護福祉研究センターともに活動を見直し、地道に新しい風を吹かせられるよう効率よく効果的な学びの環境作りが必要となる。

Ⅳ 次年度取り組むべきこと

1. 全体

- (1) 募集→活動→報告の流れをできるだけ一本化、学生がルールに沿った活動ができるよう、シンプルでわかりやすい支援体制を整える。

2. 子ども学科

- (1) 学外からのボランティア要請は、2024年度もボランティア支援室で受付ける。2023年度に実施してきた方法が定着してきたので、今後も支援室と学科が連携をとり、学生が主体的に活動できるよう支援していく。

3. オフィスワークコース

- (1) 地域実践の質保証（地域実践担当教員より）
地域実践の初年度は、履修学生が3回以上の学外ボランティア活動へ参加したが、活動する時間や場所、内容等に制約を設けなかったため、大学関係者が活動場所へ訪問しきれなかった。次年度は、すべての履修学生に同じ学外ボランティア活動の参加を求め、スケールメリットがある

地域貢献を目指すとともに、大学関係者が活動場所へ訪問して地域実践の質を確かめる。

4. 介護福祉コース

- (1) 日本人学生が増加する予定であり、コロナ禍も収まりつつあるなか、社会貢献の重要性を意識できるようボランティア活動に積極的に参加できる環境を提供していきたい。
- (2) サポートができる教員数が、介護福祉コース、介護福祉研究センターともに極少数であるため、効率よく効果的な学びができるよう取り組む。



事務局

年次報告書

委員長 大橋 一喜

○事務連絡会・意見交換会

毎月 1 回教授会後に全員参加により実施し、教授会報告および各課・センターの次月の行事予定を報告するほか、各自が参加した研修会や学生支援・短大運営等に係る重要事項について発表を行っている。これによりお互いに情報の共有およびスキルアップを図っている。

1. 総務課の業務に関して

(1) 事務連絡会・意見交換会の実施

毎月 1 回教授会後に全員参加により実施し、教授会報告および各課・センターの次月の行事予定を報告するほか、各自が参加した研修会や学生支援・短大運営等に係る重要事項について発表を行っている。これによりお互いに情報の共有およびスキルアップを図っている。特に課題等はなく、次年度以降も引き続き内容充実に取り組んでいきたい。

(2) エンロールマネジメントについて

エンロールメントマネジメントについてはその内容がアドミッション、カリキュラム、ディプロマの各ポリシーの多岐にわたり、他の部署に関わる内容が多いため、今後の課題としては、学生支援のため引き続き各部署と連携を図る必要がある。

(3) 補助金、各種調査、文書に関する業務、規程改廃について

- ・補助金及び助成金については、私立大学等経常費補助金の他に、科研費、県費補助など適切に申請を行ない、処理することができた。

令和 5 年度は私学事業団の实地調査が本学にて実施された。令和 4 年度の補助事業に対する指摘事項として、一般補助・特別補助・改革総合支援事業について指摘事項をいただき、一部調査票の訂正を行った。今後は補助金の要項をより十分に精査し、提出について慎重に対応していきたい。

- ・調査依頼に対しては、提出期限内に回答し、また適正に処理することができた。次年度も引き続き適正な処理を実施していきたい。

- ・文書の接受・発送及び保管に関しては、文書取扱規程および申し合わせに基づき、管理、処理ができた。

- ・学内規則の制定及び改廃については、策定した原案を教授会へ諮り、承認を得た後、学苑本部へ報告している。

(4) 職員の福利厚生及び出張等服務について

- ・教職員の福利厚生については特に問題はなかった。

- ・今年度より勤怠管理が、指認証から IC カードでの出退勤システムと変更されたため、認証の読み取りエラーがほぼなくなった。

- ・出張に関しては、旅費請求システムにより、事務の効率化が図られた。

- ・服務上の願い、届け出等の処理、出張に関する書類上の問題は特になかったが、業務がスムーズに行われるためにも、今後とも職員一人ひとりが提出の期限を厳守するよう引き続き促していく必要がある。

(5) 総務課管轄の諸行事について

令和5年度はコロナ5類移行に伴い、各FD・SD等の行事や各研究センターが開催する講演会等が徐々に開催できるようになってきた。次年度各行事が実施されれば、円滑な運営を実施していきたいと考える。

(6) 予算決算及び、会計業務について

・毎年、2月頃に部署予算のヒアリングを行っている。今年度は特に問題なく実施できた。また、学生数減少傾向のため収入は減少しているが、支出額は年々増加していることから今後一層の内容を精査し、収支の均衡をとる必要がある。

・承認された部署予算会計業務については、適正な執行に努めた。また、個人研究費についても、規程等に基づき適正に処理した。

(7) 備品、施設設備の整備管理について

・大規模事業については、計画的に整備を進めている。

・登録・移動・廃棄などの備品管理について、適正な処理に努めている。

(8) 個人情報保護等機密について

・機密文書はシュレッダーや専用の処理サービスを利用するなど漏洩のないよう処分している。なお、情報機器における個人情報保護に関して、FD研修会等を通して、各教職員へ啓蒙している。また、個人情報保護管理委員会に出席し、連携を図り、個人情報の保護に努めている。

(9) 非常災害時への対処について

・防災訓練計画を策定し、避難訓練を実施した。次年度以降も防災意識の高揚に努めていきたい。

なお、防災管理マニュアルも災害に適切に対応できるよう策定した。

(10) 報道・広報について

・広報については、例年通りパブリシティによる宣伝効果を狙い、各行事等を地元報道関係に記事として取り上げてもらうよう取材依頼をしている。今後とも積極的にPRしていきたい。

2. 教務課の業務に関して

1. 昨年までの課題

教務システム・manaba・TKSを刷新し、新ポータルシステム(ActiveAcademyAdvance)の導入に踏み切ったものの、導入までの時間が十分と言えず、諸々の機能習熟については使いながら覚えるという状況となった。現場で使用しながら諸々の問い合わせや課題に対応しなければならないため、後手に回ってしまい不確かな対応で右往左往することが危惧される。

2. 本年度改善されたこと

令和5年度は結果的にスタッフが増員され、初めてながら第一線で業務を処理するスタッフに恵まれたため、各業務の分業・継承が容易になり、業務効率が向上した。

3. 新たな課題

- (1) ActiveAcademyAdvance では、従来から行ってきた教務関連・学修支援・就職支援などの各業務について広く浅く、細かいところまで行き届いてないところがあるので、業務の整理あるいはカスタマイズを加えるなどの対応を考える必要がある。
- (2) 実習担当スタッフの退任により、実習業務を再構築する必要性が生じている。現場に迷惑が掛からないよう円滑に移行したい。
- 4. 次年度取り組むべきこと
 - (1) ActiveAcademyAdvance についてさらなる習熟を目指しつつ、カスタマイズも含めてより使いやすいシステムとなるよう改善を続けていく。
 - (2) 実習業務の再構築について、現場に迷惑が掛からないよう円滑に移行し、標準的なルーティンを確立したい。

3. 学生課の業務に関して

1. 昨年までの課題

- (1) アフターコロナ時代を見据えた、新たなスタイルの学校行事や学生自治会主催イベントを構築していく必要がある。
- (2) 学生の坂上への駐車違反が増加した。
- (3) 学生の課外活動の活性化。クラブ、サークル活動は以前より強化クラブを除いてそれほど活発ではなかった。

2. 本年度改善されたこと

- (1) 学校行事および学生自治会主催イベントについては、新型コロナウイルスの分類が5類に変更となったことで、以前の規模に近い形で開催することができた。
- (2) 学生の課外活動については、クラブやサークルの活動はコロナ以前のレベルにまでは戻っていないが、各ゼミでの活動やボランティア活動などはコロナ前のレベルに戻りつつあると感じる。

3. 新たな課題

- (1) コロナ禍により学生自治会主催各種イベント実施のノウハウがほとんど継承されていない。
- (2) 自動車通学学生の坂上への違反駐車や無登録車両の駐車が増加している。また教室内、靴箱上への私物の放置やカフェテリア等での振る舞いについてもマナーの低下が感じられる。

4. 次年度取り組むべきこと

- (1) 学校行事や学生自治会主催イベントに関しては、コロナ後の学生の気質を考慮した内容を新たに構築していく必要がある。
- (2) 学内での駐車違反や日常生活でのマナー等で気になることが多い。学生自治会と共に学生のマナーアップキャンペーンの実施を検討したい。
- (3) 公的な奨学金や補助金等に関する情報について、学生課内で十分理解し、
- (4) 留学生を含めた全学生への周知の徹底を図る。

4. 学生課（学生相談室（保健室））の業務に関して

1. 昨年までの課題

- (1) 健康診断や必要な再検査を受けない学生がいる。
- (2) 心身の持病、特に精神面の疾患や課題を抱えた学生の増加。
- (3) 新型コロナウイルス感染症対策の継続。
- (4) 合理的配慮が必要な学生への対応。

2. 本年度改善されたこと

- (1) 新型コロナウイルス感染症を含む学校感染症にかかるガイドライン（学校感染症にかかる出席停止について）を作成。
- (2) 保健室の「学生支援のためのフローチャート」を作成。
- (3) 大学全体として「修学に関する支援申請書」提出から支援決定までのフローチャートが完成。
- (4) 学生相談室の部屋が設置され学生の相談窓口が明確になった。

3. 新たな課題

- (1) 学生の救急搬送が2件あった。
- (2) 心身の持病、特に精神面の疾患や課題を抱えた学生の増加が続いている。
- (3) 学生相談室の部屋が設置されたが、学生が活用する機会が少なかった。

4. 次年度取り組むべきこと

- (1) 保健担当者不在時の救急搬送も含め、救急搬送時の対応をフローチャート等で明確化する。
- (2) 大学全体での移送、心肺蘇生の手順やAEDの使用方法的研修の実施。
- (3) 学生相談室の役割を明確にし、学生が活用しやすい部屋にする。

5. 入試広報課の業務に関して

1 昨年までの課題

- (1) 各学科コースでの安定的な定員確保
- (2) コロナ禍で対象者が激減した外国人留学生の確保
- (3) 近年減少している介護福祉コース日本人学生の確保
- (4) 高大教育交流事業の強化
- (5) 出願につながる有益なオープンキャンパスの実施
- (6) 委託訓練受講生の確保

2 本年度改善されたこと

- (1) キャリア育成学科については両コースとも定員を確保することができた。
- (2) 本学の手厚い修学支援制度について積極的に広報活動を展開したことなどにより、介護福祉コースの日本人学生を確保できた。また、その結果、外国人留学生入試の倍率が上昇し、日本語能力の高い留学生を確保することができた。
- (3) オープンキャンパスの工夫、改善が進められた。全学科・コースで保護者対象の説明会を実施したほか、広報スタッフ等の学生を主体とした運営を行うなど、高校生、保護者のニーズに応じたオープンキャンパスを開催できた。
- (4) 委託訓練については、子ども学科(保育士養成科)の定員が8名に増加したが、

子ども学科、介護福祉コース（介護福祉士養成科）とも定員を確保できた。

3 新たな課題

- (1) 今年度は入学定員がほぼ確保できる見込みであるが、今後も県内の高校生の減少、短大離れの傾向に変化はないことから、定員確保が厳しい状況が継続する。
- (2) 高校生が進学先を十分検討することなく、早期に決定する傾向があることから、その対応・対策が求められる。

4 次年度取り組むべきこと

- (1) 高校生に早期から直接接見できるよう高校等に働きかけ、1、2年生対象のガイダンスや模擬授業など接触機会を増やす。
- (2) オープンキャンパスについて、広報スタッフなど学生主体の企画、運営を推進するなど、高校生、保護者の視点に立ったものとなるよう改善を進める。
- (3) 本学への進学者の多い学校と新たに連携協定を結ぶなど、高校との連携、交流を戦略的に推進する。
- (4) 昨年度の反動もあり、外国人留学生の減少が予想されることから、県内の日本語学校や専門学校を中心に、県内外の対象校に積極的にアプローチする。

6. キャリア支援センターの業務に関して

1. 昨年度までの課題

(1) 就職活動全般の早期化

2023 年度卒業・修了予定者等に対しても、広報活動開始は卒業・修了年度に入る直前の 3 月 1 日以降、採用選考活動開始は卒業・修了年度の 6 月 1 日以降、正式な内定日は 10 月 1 日以降とするルールに変更はなかったが、2024 年度卒業生・修了生（すなわち短期大学では 2023 年度入学生）からは、一定の要件を満たしたインターンシップについて、取得した学生情報を広報活動・採用選考活動に活用することが可能となった。就職活動の早期化による学修時間等の確保への影響は、四年制大学よりも短期大学においてはより深刻である。短期大学における学びを保障しつつ、早期に就職活動への意欲を喚起する働きかけの工夫は引き続き必要である。

(2) 公務員試験の早期化

県内でも採用試験を 5 月～6 月に実施する市町が増えてきており、早期実施のスケジュールに間に合うように公務員講座・数学講座等を計画する必要がある。一方で、従来の 9 月第 3 日曜日実施市町の対策として講座終了後の学力維持の工夫も必要である。

早期実施の市町の中には、9 月試験を前に内定を辞退しない旨の誓約書を求めるところがあり、早期実施のスケジュールに合わせた早期対応に加え、学生に対して志望順位を踏まえた受験方針を立てるよう指導・助言が必要である。

また、公務員試験対策に対する負担感と、受験から内定に至るまでの期間が長いことによる不安から、受験を諦める学生も増えてきており、モチベーション維持が課題である。公務員志望者が早くから準備を始め、最後まで諦めることなく粘り強く取り組めるよう、支え合う仲間づくりの機会を増やす必

要がある。

(3) 多様化する学生への支援

従来、一般企業で人気が高かった金融機関、カードディーラーなどの希望者が減少傾向にあり、学校事務や警察事務などを中心とした公務員希望がやや増加傾向にある。事務系の公務員対策の充実が必要になってきている。

また、子ども学科においては、認定子ども園化が進むなか、幼稚園教諭免許、保育士資格の一方が取得できないために就職先・就業形態が制限されるケースが出てきている。さらに、保育職への適性に自信が持てずに一般企業への就職を希望する学生も早期から相談に来るようになってきている。

発達に特性があるなど支援を要する学生が増えてきており、就職活動に関わって、課題の早期発見・早期対応が必要であることから、学生一人ひとりを多面的に観察すること、学生支援委員会を中心に情報共有にとどまらず、教職協働により具体的な支援を行うことが求められている。また、早期から保護者の理解や協力を仰ぐことも必要である。さらに就職後、困難を抱えたり、離職したりすることも考えられることから、在学中に学生と専門機関とをつなぐことも必要である。

「働くこと」のイメージが希薄で、就職活動への意欲に欠ける学生も増加しており、就職講座等で全体指導を行うとともに早期からの個別対応、支援が必要である。キャリア支援センターへの自発的来所が期待できないことから、キャリア支援委員やゼミ担当教員との連携が不可欠である。

2. 本年度の改善点

(1) 就職活動早期化への対策

インターンシップの取扱いの変更に関して、本学においては保育・幼児教育、介護分野の専門性を活かした就職が大半であることに加え、オフィスワークコースでは従前の職場体験実習を含めたキャリア教育カリキュラムによる対応で大きな混乱は生じていない。就職意欲の喚起に関しては、授業に支障がないことを前提に、AAA と掲示、教職員からの声掛けにより就職フェア等への参加を呼び掛けた。また、キャリア支援センター職員と1年生との個人面談については、オフィスワークコースで実施時期を早めるとともに、子ども学科では公務員志望者だけでなく1年生全員との個人面談を実施することにより、進路希望の把握と就職活動への意識付けを図った。介護福祉コースでは2年次の早期に個人面談を実施する。また、各学科・コースにおいては、就職講座等により計画的な指導、支援を続けるとともに、オフィスワークコースではキャリアガイダンスⅡを授業化することにより、学生の出席状況の改善を図った。

(2) 公務員試験早期化への対策

本年度も、1年生を対象として6月26日(月)に子ども学科就職講座で「公務員としての保育職」についてのガイダンス、11月21日(火)に公務員試験(保育教育職)対策ガイダンス、11月28日(火)にクレペリン検査体験会を実施した。3月18日(月)には私立志望者も対象として実技対策講座キックオフイベントを実施する。特に時間がかかる実技対策に早期に取り組ませる

ため、1年生との個人面談からキャリア支援センターの利用を積極的に促した。

また、2年生を対象として、5月8日（月）に四日市市、5月18日（木）、に松阪市、9月25日（月）に鈴鹿市の対策講座を、同9月25日（月）に集団討論対策講座を実施するとともに、その他市町については個別対策を行った。

公務員講座に関しては、2022年度入学生から2年間で教養講座を33回（1年次9月から3月に21回、2年次4月から7月に12回実施）、保育専門講座を12回（1年次12月から2月に8回、3月に4回）実施している。

学生の多くが苦手意識を抱く数的数理の対策として開講している数学講座においては、学生掲示板を活用して回毎に取り扱う問題を予告して、課題への取組意欲を高める工夫を行った。

（3） 多様化する学生への支援

学校事務や警察事務などを中心とした公務員試験対策は、個別指導を中心に支援を行った。昨年度の合格実績を踏まえ、支援方法の蓄積を進めている。

子ども学科で免許・資格を取得しない学生への支援においては、実習担当と連絡を密にし、対象学生の早めの把握、早めの対応を心がけてきた。、
発達に特性があるなど支援を要する学生の就職活動については、学生支援委員会を中心にした全学的な取組のなかで支援を進めている。本年度は、特性のある学生の就職支援方法のフロー図を学生支援委員会でも共有した。個別の事案にあっては、三重県自閉症・発達障害支援センターれんげの相談員の協力を得て、適職検査や発達検査に基づくキャリアカウンセリングを実施することにより、学生の特性に応じた就職先の紹介に努めている。

3. 新たな課題

（1） 就職活動全般の早期化

1年次に子ども学科、オフィスワークコースの全員に個人面談を実施したことにより、学生の意識がより明確になった。特に、子ども学科で保育士資格、幼稚園教諭免許を取得しない、あるいは取得しても保育職には就かないという意向の学生を一定数把握する結果となり、保育・幼児教育分野よりも早くからスタートする一般企業等への就職活動スケジュールに乗せる手立ての確立が必要になってきている。

（2） 公務員試験の早期化に伴う課題

今年度、早期実施した自治体は桑名市、川越町、四日市市、松阪市、多気町、玉城町、志摩市、伊賀市、熊野市、三重県となった。昨年度前期試験を実施した亀山市は、本年度9月の後期試験のみとなった。なお、多気町、玉城町、志摩市は9月に後期試験（志摩市は1月にも追加募集）を、伊賀市は11月と12月に追加募集を実施している。年度ごとの状況変化が大きく、HPや広報も注視しつつ情報収集に努める必要がある。

早期実施の市町の中で9月試験を前に内定を辞退しない旨の誓約書を求めるところについては、学生の進路選択を尊重しつつ、該当市町への丁寧な説明と対応に努めていく必要がある。

また、公務員志望の学生が減少していることから、早くから準備を始め、最後まで諦めることなく粘り強く取り組めるよう、支え合う仲間づくりの機会を増やすとともに、9月試験までのモチベーション維持のために始めたmanabaによる小テスト配信をAAAに移行できなかったため、それに代わる工夫が必要である。

(3) 学生の職業観の変化と多様化する学生への支援

学校事務や警察事務などを中心とした公務員希望の増加傾向に対しては、「おしごと説明会」を始めとしたイベントへの誘導のほか、警察関係においてはサイバー防犯ボランティアへの参加が有効であり、積極的な働きかけが必要である。

子ども学科で免許・資格を取得しない学生への支援において、1年次の面談で把握した場合の就職活動プランを確立する必要がある。

発達に特性があるなど支援を要する学生について、従前からの課題を解消するためには、入学前、入学時から修学、就職、就職後に繋がる一貫した支援の流れを創り出す必要がある。

「働くこと」のイメージが希薄で、就職活動への意欲に欠ける学生については、引き続き就職講座等で全体指導を行うとともに、キャリア支援委員やゼミ担当教員との連携のもと、早期からの個別対応、支援に取り組む必要がある。

(4) 委託訓練生への支援

介護福祉コースに加え、子ども学科でも委託訓練生が在籍することとなり、多様なライフステージに対応した就職先への就職活動支援が必要になってきている。

4. 次年度の取組

(1) 就職活動全般の早期化への対策

個人面談や教員との情報共有により、子ども学科、介護福祉コースで資格を取得しない学生を早期に把握し、一般企業等の就職活動スケジュールに沿った支援を行えるよう努める。

(2) 公務員試験早期化への対策

公務員試験に関して、受験報告の回収を徹底し、受験対策の情報を充実させるとともに、市町の担当課と連絡を密にして実施時期を把握し、計画的に支援を行う。

公務員志望者を対象としたガイダンスや市町別のガイダンスを計画的に実施するほか、個別面談により各学生の希望を把握し、試験対策への不安を取り除けるような指導を行っていく。また、同一市町の受験者を集め、切磋琢磨して受験に臨める仲間づくりを推進する。さらに、manabaに代わる方法により、9月試験までのモチベーション維持に努める。

(3) 学生の職業観の変化と多様化する学生への対応

キャリア支援委員会に向けての学科・コース別事前ミーティングにおいて、発達に特性があるなど支援を要する学生については、特に時間をかけて対応方針を確認するとともに、学生支援委員会との連携を深める。保護者の理解や

協力が必要な学生に関しては、ゼミ担当者と協力して対応する。また、発達に特性のある学生を在学中に専門機関とつなぐことにも注力していきたい。さらに、一貫した支援の流れとなるよう新たな体制となる学生相談室との円滑な連携を構築していきたい。

就職活動への意欲に欠ける学生については、就職講座等で全体指導を行うとともに早期からの個別対応、支援を行う。キャリア支援委員やゼミ担当教員により一層の協力を求め、キャリア支援センターへの来所を促していきたい。

(4) 委託訓練生への支援

多様なライフステージに対応した就職先の情報収集に努め、適切に相談に応じられるよう支援スキルの向上に努める。

・